

**ProGator™ 用 SelectSpray™
装置**



JOHN DEERE

オペレータマニュアル

ProGator™ 用 SelectSpray™ 装置

OMTCU30930 版 : H5 (JAPANESE)

John Deere Turf Care

北米版
Printed in U.S.A.



オペレータマニュアルの使用

作業を始める前に、安全に関する情報ははじめとしてオペレータマニュアルの内容を一通り確認してください。

機械の用途

この機械は、一般的な芝生の噴霧作業専用に設計されています。他の方法に使用すると、使用目的に反していると思なされます。

この機械は、有害物質から適切に保護するように設計された機械と共に使用してください。オペレータは適切な保護具を着用してください。

国の環境保護基準や法的要件の対象である農業用途にこの噴霧器を使用することは許可されていません。噴霧器の使用が許可されるかどうか不明な場合は、最寄りの管轄機関にお問い合わせください。

メーカーは、このような誤使用の結果として生じた損傷やけがについて一切責任を負いません。これらの危険はすべてユーザーが負う必要があります。また、メーカーの指定する操作、整備、修理の条件を順守し、厳密に従うことも使用目的の必須要素です。

本機の操作、整備および修理は、本機のすべての特性を理解し、関連する安全上の規則 (事故の防止策) を熟知している者に限り行うことができます。事故防止規則、一般的に認められている安全衛生上の規則、交通法規を常に順守する必要があります。

製造時の仕様を超える燃料供給の設定や出力の超過を行った場合、本機の保証対象外となる場合があります。

この機械を勝手に改造した場合、その結果として生じる損傷やけがに対してメーカーはすべての責任を免除されます。

目次

概要	2
製品識別	4
安全ラベルのテキスト	5
安全ラベル (説明文なし)	9
安全	13
車両の準備	16
組み立て	17
取り外しと保管	26
取り付け	34
コントロールの操作	37
運転	38
オプションの装置とキット	57
整備	62
トラブルシューティング	78
仕様	80
整備のお問い合わせ	82

本文書は翻訳版です。
このマニュアルに掲載の全ての情報、画像、仕様は、発行時の情報に基づいています。
予告なしに変更されることがあります。

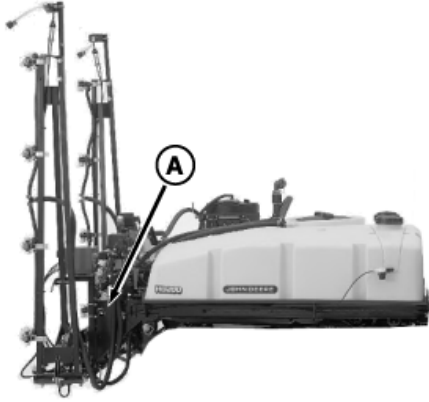
COPYRIGHT © 2015
DEERE & COMPANY
Moline, Illinois
All rights reserved
A John Deere ILLUSTRATION © Manual
Previous Editions
Copyright © 2012

製品識別

製品の互換性

HD200/HD300 噴霧器装置は、ProGator™ ユーティリティビークルと互換性があります。

識別番号の記録



TCT011753—UN—26NOV14

HD200 シリアル番号 (065001～)

HD300 シリアル番号 (040001～)

整備について詳しくは、認定サービスセンターにお問い合わせください。必ず製品のモデルとシリアル番号をお知らせください。

装置のモデルとシリアル番号を確認し、情報を以下の空欄に記録してください。

購入日：

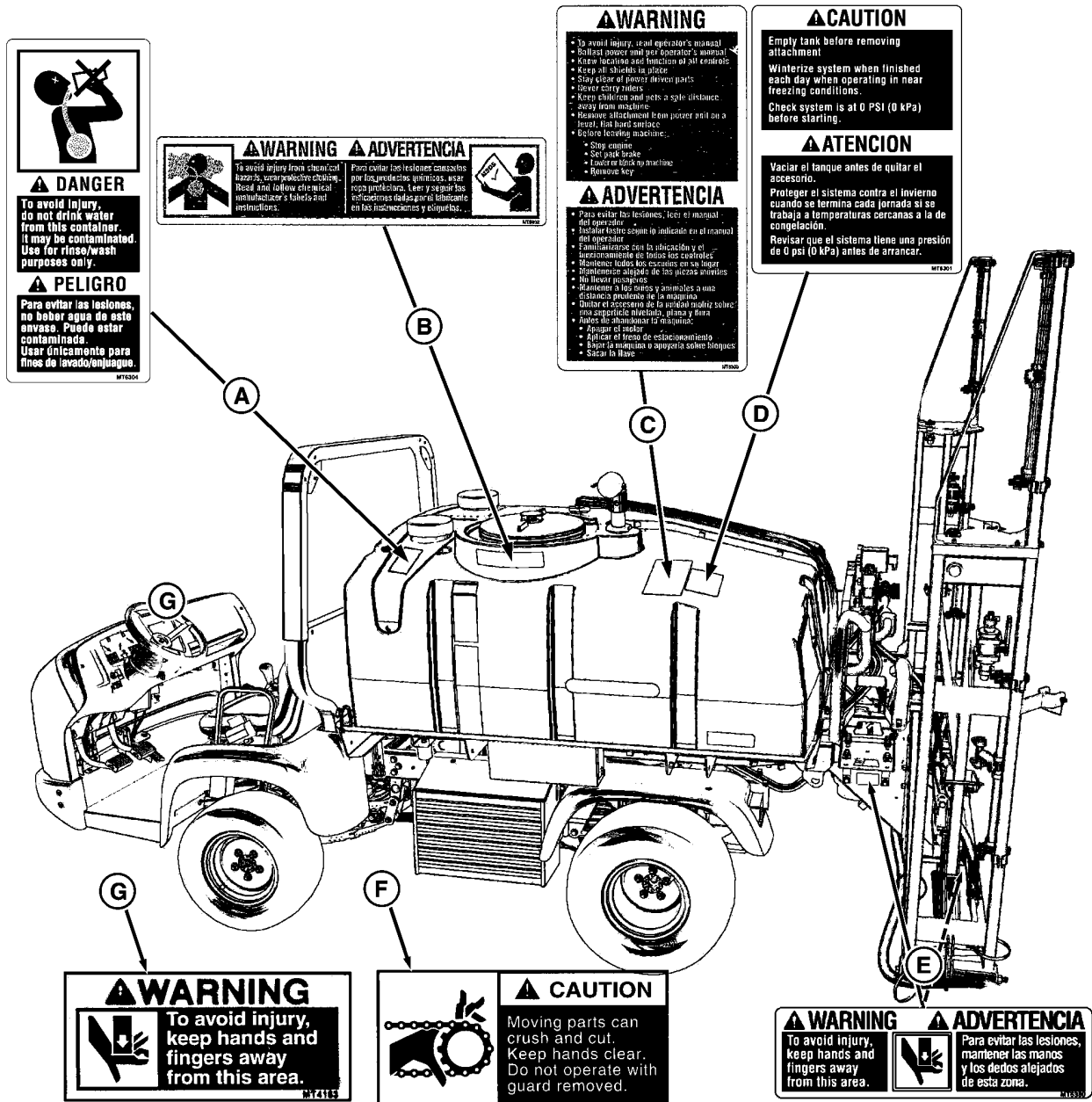
取扱店名：

取扱店の電話番号：

製品シリアル番号 (A)：

安全ラベルのテキスト

安全ラベルの位置



TCT012261—UN—26JAN15

- A — 危険 MT6304
- B — 警告 MT6302
- C — 警告 MT6300
- D — 注意 MT6301

- E — 警告 MT6380
- F — 注意 MX3605 (場所：オプションのホースリールキット)
- G — 警告 MT4163 (オプションの電動アクチュエータキット用)

安全ラベルのテキスト

機械の安全ラベルの意味



MXAL42363—UN—22MAY13

このセクションで説明する作業機の安全ラベルは、安全に関わる潜在的なリスクに対する注意を喚起するため作業機の重要な部分に表示されています。

お使いの作業機の安全ラベルには、安全警告マークとともに「危険」、「警告」、および「注意」の文字が表示されています。「危険」は最も重大な危険要素を示します。

オペレータマニュアルでは、必要に応じて「注意」の文字と安全警告マークとともに特別な安全に関するメッセージを記載し、安全に関わる潜在的なリスクについて説明しています。

安全ラベルが足りない場合は補充し、状態の悪いラベルは交換します。適切な安全ラベルの位置については、このオペレータマニュアルを使用してください。

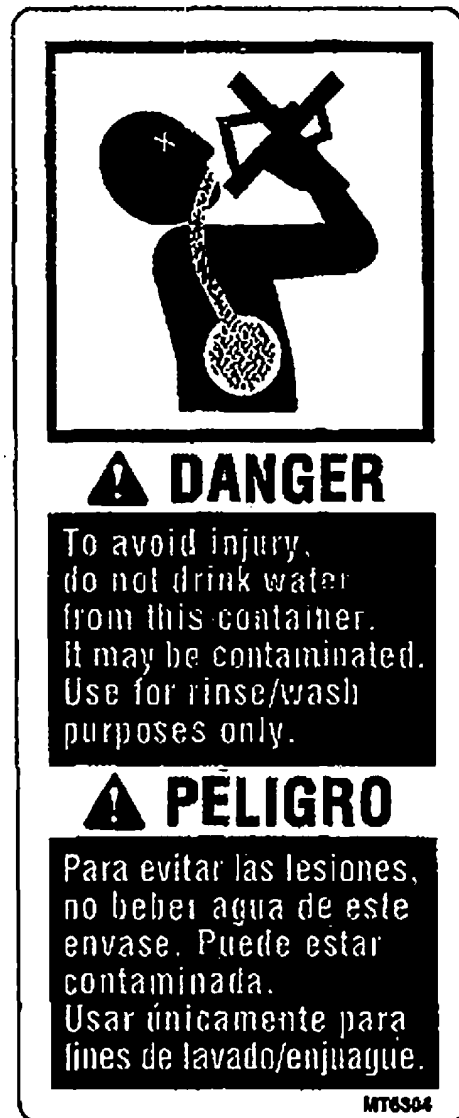
販売業者から供給される部品については、このオペレータマニュアルに転載されていない安全情報がさらに存在する可能性があります。

フランス語またはスペイン語の安全ラベルおよびオペレータマニュアル

この機械のオペレータマニュアルおよび安全ラベルのフランス語版またはスペイン語版は、認定 John Deere 取扱店を通じて入手できます。John Deere 取扱店にお問い合わせください。

注記：テキストラベルおよびテキストなしラベルの両方を以下に示します。お使いの機械には、これらの種類のラベルが 1 つだけ貼付されています。

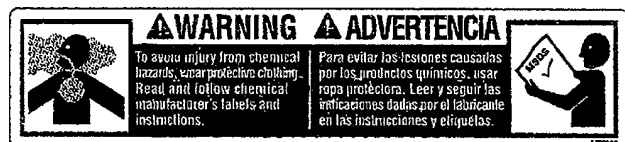
危険



MT6304—UN—27NOV12

けがを防ぐため、この容器の水を飲まないでください。汚染されている場合があります。リンス/洗浄専用の水です。

警告



MT6302—UN—24NOV12

薬剤によるけがを防ぐために保護服を着用してください。薬剤メーカーのラベルおよび取扱説明書をお読みください。

安全ラベルのテキスト

警告

 **WARNING**

- To avoid injury, read operator's manual
- Ballast power unit per operator's manual
- Know location and function of all controls
- Keep all shields in place
- Stay clear of power driven parts
- Never carry riders
- Keep children and pets a safe distance away from machine
- Remove attachment from power unit on a level, flat hard surface
- Before leaving machine:
 - Stop engine
 - Set park brake
 - Lower or block up machine
 - Remove key

 **ADVERTENCIA**

- Para evitar las lesiones, leer el manual del operador
- Instalar lastre según lo indicado en el manual del operador
- Familiarizarse con la ubicación y el funcionamiento de todos los controles
- Mantener todos los escudos en su lugar
- Mantenerse alejado de las piezas móviles
- No llevar pasajeros
- Mantener a los niños y animales a una distancia prudente de la máquina
- Quitar el accesorio de la unidad moltriz sobre una superficie nivelada, plana y dura
- Antes de abandonar la máquina:
 - Apagar el motor
 - Aplicar el freno de estacionamiento
 - Bajar la máquina o apoyarla sobre bloques
 - Sacar la llave

MT6300

MT6300—UN—24NOV12

- けがを防止するため、オペレータマニュアルをお読みください。
- オペレータマニュアルにしたがってパワーユニットをバラストしてください。
- すべてのコントロールの位置と機能を理解してください。
- すべてのシールドを所定の位置に取り付けてください。
- 動力で駆動されている部品には近づかないでください。
- 絶対に他の人を同乗させないでください。
- お子様やペットを作業機に近づけないでください。
- 動力装置から装置を取り外す場合は、水平で平らな硬い面の上で行ってください。

- 機械から離れる前に：
 - エンジンを停止します。
 - パーキングブレーキをかけてください。
 - 作業機を下に降ろすかブロックしてください。
 - キーを抜きます。

注意

 **CAUTION**

Empty tank before removing attachment.

Winterize system when finished each day when operating in near freezing conditions.

Check system is at 0 PSI (0 kPa) before starting.

 **ATENCION**

Vaciar el tanque antes de quitar el accesorio.

Proteger el sistema contra el invierno cuando se termina cada jornada si se trabaja a temperaturas cercanas a la de congelación.

Revisar que el sistema tiene una presión de 0 psi (0 kPa) antes de arrancar.

MT6301

MT6301—UN—24NOV12

装置を取り外す前にタンクを空にしてください。

凍結条件で運転するときは、作業終了後に必ずシステムの防寒処置をしてください。

始動の前にシステムの圧力が 0 kPa (0 PSI) であることを確認してください。

警告

 **WARNING**

To avoid injury, keep hands and fingers away from this area.

 **ADVERTENCIA**

Para evitar las lesiones, mantener las manos y los dedos alejados de esta zona.



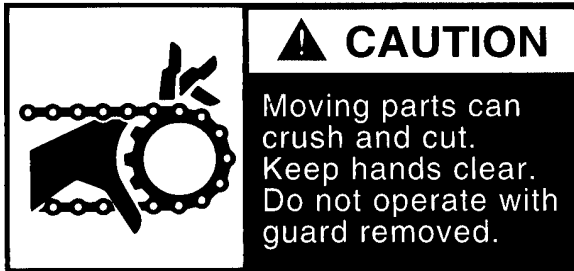
MT6380

MT6380—UN—24NOV12

けがを防止するため、この部分に手と指を近づけないでください。

安全ラベルのテキスト

注意



MX3605—UN—24NOV12

オプションの電気ホースリールキットの場合

可動部品が当たると手を切るおそれがあります。手を近づけないでください。ガードを外した状態で作業しないでください。

警告



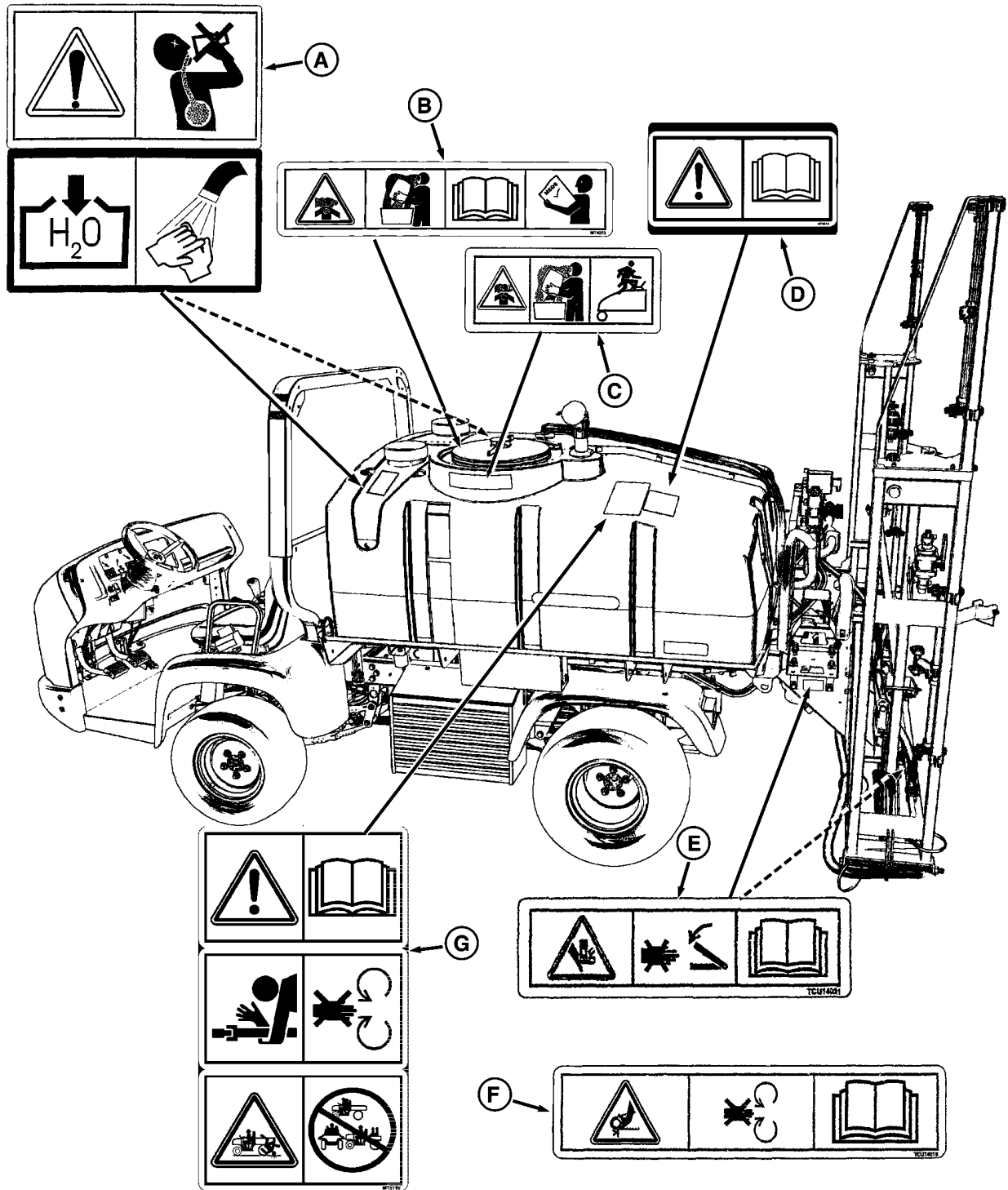
MT4163—UN—24NOV12

オプションの電動アクチュエータキット用です。

けがを防止するため、この部分に手と指を近づけないでください。

安全ラベル (説明文なし)

安全ラベルの位置：噴霧器タンク



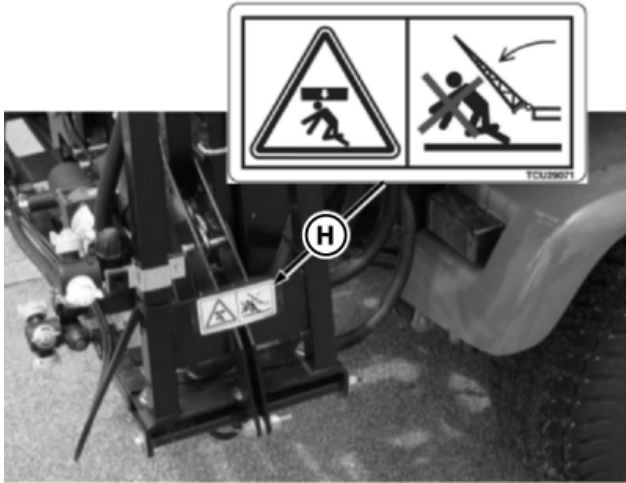
TCT012262—UN—26JAN15

- A — 飲料水によるけがの防止 MT4295
- B — 化学的危険によるけがの防止 MT4072
- C — タンクの中に入らない MT6073
- D — オペレータマニュアルを読む MT4074

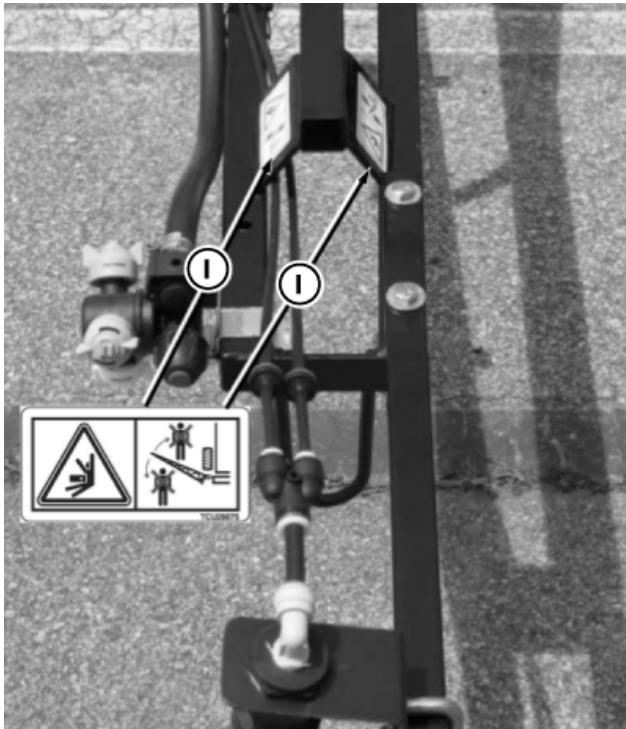
- E — 押し潰されてけがをする危険の防止 TCU14021
- F — 可動部品によるけがの防止 TCU14019
- G — オペレータマニュアルを読む、可動部品に近づかない、立入り禁止 TCU28908

安全ラベル (説明文なし)

安全ラベルの位置 : スプレーboom (5.5 m (18 ft))



TCT012263—UN—27JAN15



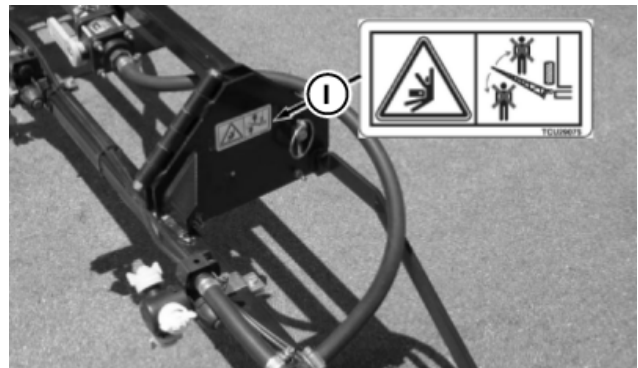
TCT012264—UN—27JAN15

H — 動いているboomによるけがの防止 TCU29071
I — boomの旋回区域でのけがの防止 TCU29075

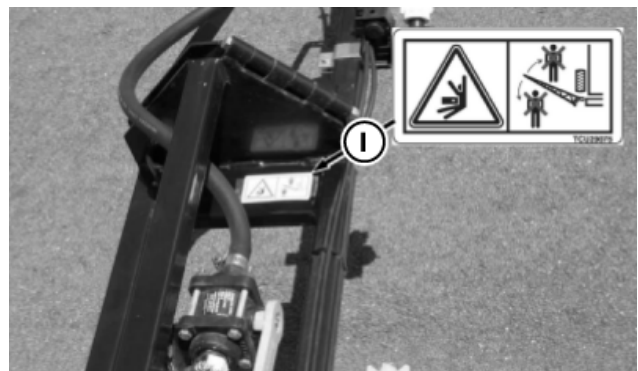
安全ラベルの位置 : スプレーboom (4.6~6.4 m (15~21 ft))



TCT012265—UN—27JAN15



TCT012266—UN—27JAN15



TCT012267—UN—27JAN15

H — 動いているboomによるけがの防止 TCU29071
I — boomの旋回区域でのけがの防止 TCU29075

機械の安全ラベル (説明文なし) の意味



TCT005498—UN—11SEP12

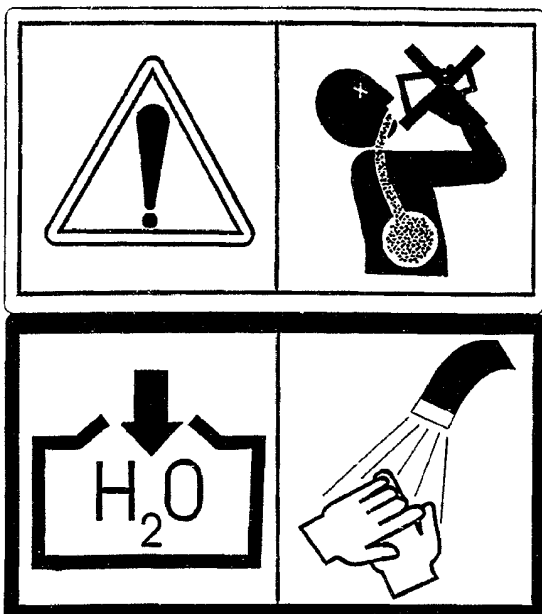
この機械のいくつかの重要な場所には、潜在的な危険を知らせるために安全標示ラベルが貼られています。危険要素は、警告用三角ラベルの絵で示されます。隣

安全ラベル (説明文なし)

接する絵はけがを防ぐための情報を提供します。これらの安全標示ラベル、機械上のラベルの位置、および簡単な説明をこの「安全」セクションに示します。

販売業者から供給される部品については、このオペレータマニュアルに転載されていない追加の安全情報が存在する可能性があります。

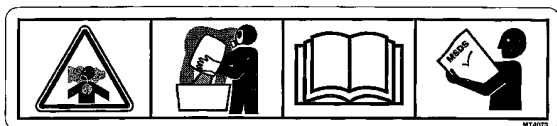
飲料水によるけがの防止



MT4295—UN—24NOV12

けがを防ぐため、この容器の水を飲まないでください。汚染されている場合があります。リンス/洗浄専用です。

化学的危険によるけがの防止



MT4072—UN—24NOV12

薬剤によるけがを防ぐために保護服を着用してください。薬剤メーカーのラベルおよび取扱説明書をお読みください。

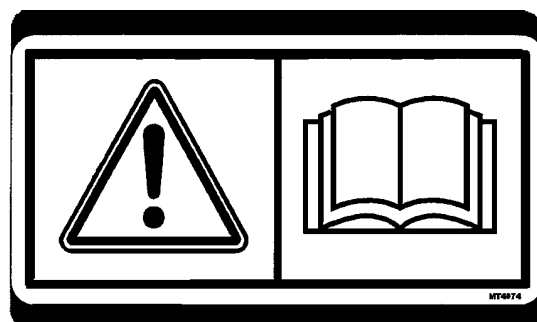
タンクの中に入らない



TCT012268—UN—27JAN15

化学的危険によるけがを防止するため、タンクの中に入らないでください。

オペレータマニュアルを読む



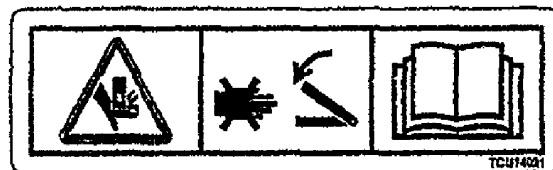
MT4074—UN—24NOV12

装置を取り外す前にタンクを空にしてください。

凍結条件で運転するときは、作業終了後に必ずシステムの防寒処置をしてください。

始動の前にシステムの圧力が 0 kPa (0 PSI) であることを確認してください。

押し潰されてけがをする危険の防止



TCU14021

TCU14021—UN—24NOV12

けがを防止するため、この部分に手と指を近づけないでください。

可動部品によるけがの防止



TCU14019

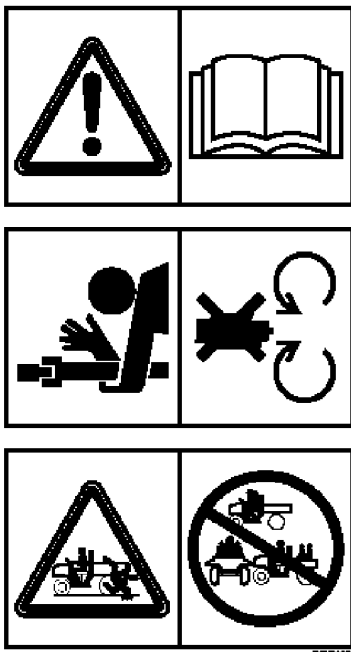
TCU14019—UN—24NOV12

オプションの電気ホースリールに取り付けます。

安全ラベル (説明文なし)

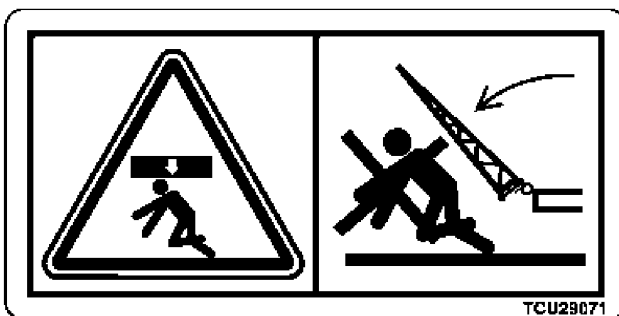
可動部分により押し潰され、切断される可能性があります。手を近づけないでください。ガードを外した状態で操作しないでください。

オペレータマニュアルを読む、可動部に近づかない、立入り禁止



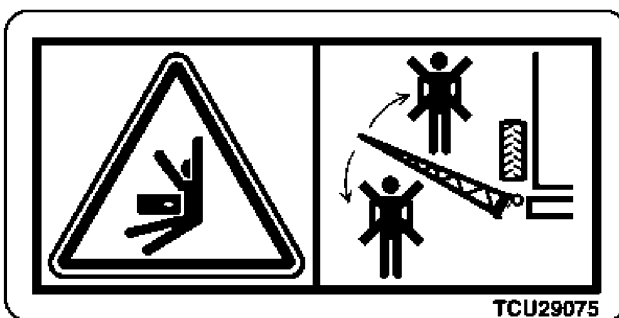
- けがを防止するため、オペレータマニュアルをお読みください。
- オペレータマニュアルにしたがってパワーユニットをバラストしてください。
- すべてのコントロールの位置と機能を理解してください。
- すべてのシールドを所定の位置に取り付けてください。
- 動力で駆動されている部品には近づかないでください。
- 絶対に他の人を同乗させないでください。
- お子様やペットを作業機に近づけないでください。
- 動力装置から装置を取り外す場合は、水平で平らな硬い面の上で行ってください。
- 機械から離れる前に：
 - エンジンを停止します。
 - パーキングブレーキをかけてください。
 - 作業機を下に降ろすかブロックしてください。
 - キーを抜きます。

動いているブームによるけがの防止



けがを防止するため、動いているブームから離れてください。

ブームの旋回区域でのけがの防止



けがを防止するため、ブームの旋回区域から離れてください。

作業機のオペレータマニュアルの安全に関する注意事項の確認

お使いの作業機のオペレータマニュアルに記載されている安全な操作に関する注意事項全般を確認し、安全に関する情報の理解を深めてください。

噴霧器の安全な操作

- 作業機とアタッチメントのオペレータマニュアルをよく読んでください。装置のコントロールと正しい使用法を一通り理解してください。作業機を停止する方法とコントロールをすぐに解除する方法を確認してください。
- お子様やトレーニングを受けていない人が作業機を操作しないようにしてください。
- 操作する前に必要な調整を行ってください。エンジンの動作中は、指示されない限りいかなる調整も行わないでください。
- 作業機を不在にする場合はすべての注意事項を守ってください。修理、調整または点検作業を行う前に、エンジンを停止してください。アタッチメントを下げ、パーキングブレーキをかけてエンジンを停止し、キーを抜いてください。
- 後退するまえに作業機の後方を確認してください。後退は慎重に行ってください。
- お子様をはじめとする他の人間を作業機やアタッチメントに乗せないでください。同乗者は異物に当たったり振り落とされてけがを負う可能性があります。また、同乗者はオペレータの視界を妨げるため作業機の安全運転が損なわれることがあります。
- 本製品のメーカーの承認を受けたアタッチメントとアクセサリのみを使用してください。
- 作業機が異常な振動を発生する場合は、エンジンを停止してただちに原因を調べてください。振動の発生は多くの場合何らかのトラブルを意味します。
- 本製品を長期間保管する場合は、必ずオペレータマニュアルの「保管」に関するセクションで重要事項の詳細を参照してください。
- 他の人やペットが作業領域に入らないようにしてください。付近に人が入ってきた場合は作業機を止めてください。
- 物と当たった場合は作業機を止めて点検を行ってください。修理を行ってから操作を始めてください。作業機は適切にメンテナンスし、正常な動作状態を維持してください。すべてのシールドとガードを所定の位置に取り付けてください。
- 噴霧器を使用する前後に必ず全体の点検を行ってください。システムを加圧する前に、すべての継手とホースがしっかり取り付けられていることを確認してください。ガードとシールドが良好な状態にあり、所定の位置に固定されていることを確認してください。操作する前に必要な調整を行ってください。
- 風が強い天候条件では噴霧器を絶対に使用しないでください。

- 噴霧器の充填、清掃または整備を行う前に、システム内の圧力を必ず解放してください。
- ノズルの先端や噴霧器の他の部品を口に付けて汚れを吹くようなことはしないでください。圧縮空気を使用してください。
- ユーティリティビークルのベッドに噴霧器を取り付けている場合は、噴霧器のタンクを満杯にした状態でベッドを上にはげないでください。整備作業や他の目的で上にはげる前に、一番下の充填ラインより下までタンクをドレンしてください。

安全な駐車

- 車両は傾斜地ではなく水平な場所に止めてください。
- 下に下げることができるカーゴボックスや作業機、他のアタッチメントを、すべて完全に下まで下げてください。
- パーキングブレーキをロックします。
- エンジンを停止します。
- キーを取り外します。
- 運転席から離れる前に、エンジンとすべての可動部品が停止するまで待ってください。
- 作業機の整備を行う前に、マイナスのバッテリーケーブルを外すか、スパークプラグの配線を取り外してください（ガソリンエンジンの場合）。

薬剤の安全な混合および取り扱い

- 薬剤を取り扱う際は完全防護の保護着を着用し、保護ゴーグルとゴム手袋でご自身を保護してください。
- 薬剤の容器のラベルに記載された指示事項に従ってください。
- 薬剤の容器は適切な工具で慎重に開けてください。
- 薬剤の注入、計量および混合はよく換気された場所で行ってください。
- 薬剤用に使用する機器はすべてその作業専用としてください。
- 薬剤を取り扱う場所では、喫煙、飲酒および食事をしないでください。
- 薬剤を撒くために噴霧器を使用した後は、石鹼水のシャワーを浴びることをお勧めします。
- 噴霧作業完了後、薬剤使用時に着用していた衣服はすべて別にして洗濯してください。

薬剤の容器のラベルの確認

- 薬剤は危険です。間違った農薬を選択または使用すると、人、動物、植物、土壌、またはその他の資産を破損します。作業に合った正しい薬剤を選び、慎重に使用してください。

- 容器を開ける前に、容器のラベルに記載されている指示事項、注意事項、および警告を確認してください。製品を使用する際はラベルの指示に必ず従い、指定された使用用途、使用量、使用回数を守り必要時のみ使用してください。
- 混合時を除いて、容器をしっかりと閉じてください。
- 薬剤の容器からラベルをはがさないでください。薬剤はすべて元の容器で保管してください。
- 容器のラベルに記載されている組み合わせ以外の薬剤を混合しないでください。
- 薬剤を使用しない時は容器のラベルに従って保管してください。

化学製品の安全な取り扱い

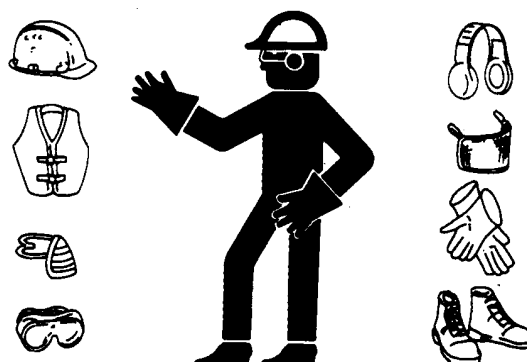
- 有害な化学薬品に直接さらされると、深刻な障害を引き起こすことがあります。John Deere 製装置で使用する有害な薬剤には、殺虫剤、除草剤および殺菌剤があります。
- 製品安全データシート (MSDS) は、化学製品に関する具体的な情報を提供します。物理的危険や健康上の危険、安全手順、緊急時の対処方法が記載されています。
- MSDS は、薬剤の購入時に取扱店から入手してください。
- 有害な薬剤を使用する作業を始める前に MSDS を確認してください。何が危険か、作業を安全に行うにはどうすればよいかを正確に理解してください。推奨の保護具は必ず着用してください。

安全メンテナンスの慣行

- 資格を備えた、十分なトレーニングを受けた成人作業員に限りこの作業機の整備を行ってください。
- 作業を開始する前に、整備の手順を確認してください。作業域を清潔で乾いた状態に保ってください。
- 危険な一酸化炭素が溜まるような限られたスペースでエンジンを動作させないでください。
- 作業機が動いている間は、絶対に作業機やアタッチメントの潤滑、整備または調整を行わないでください。安全装置を所定位置に配置し、動作状態を維持してください。金具の締め付けを維持してください。
- 可動部品に巻き込まれないように、手、足、衣服、装飾品および長い髪を近づけないでください。
- アタッチメントを整備する前に、アタッチメントを地面まで、あるいは既存のアタッチメントの機械ストッパまで完全に下げてください。すべての電源を外してエンジンを止めてください。パーキングブレーキをかけてキーを抜いてください。作業機を冷ましてください。
- バッテリーを外すかスパークプラグの配線を外してから (ガソリンエンジンの場合)、修理作業を行ってください。

- 作業機やアタッチメントを整備する前に、油圧部品やスプリング等のエネルギーを貯めた部品から慎重に圧力を解放してください。
- アタッチメントや切断装置を地面または機械ストッパまで下げて油圧を解放し、油圧コントロールレバーを動かしてください。
- 整備作業で持ち上げる必要のある作業機またはアタッチメントのエレメントをしっかりと支えてください。必要であればジャッキスタンドや固定用整備ラッチで構成部品を支えてください。
- パーキングブレーキをロックするまでエンジンを絶対に動作させないでください。
- すべての部品を良好な状態、および正しく取り付けられた状態に保ってください。破損は速やかに修理してください。摩耗、または破損している部品は交換してください。摩耗または損傷している安全ステッカーと指示ステッカーをすべて交換してください。
- すべての金具を頻繁に点検し、装置の安全な動作条件を維持してください。
- 作業機や安全装置を改造しないでください。作業機やアタッチメントに対して許可されていない改造を行うと、機能や安全性能に影響するおそれがあります。

適切な衣類の着用



TS206—UN—15APR13

- ぴったりした衣類と作業に適した安全具を着用してください。
- 作業条件によっては、オペレータと同乗者が車両の運転中に適切な安全具を着用することが求められます。作業機を運転する前に、現状と潜在的なリスクに対して十分に対策を講じてください。
- 現地の安全対策または保険の規制により、目の保護やヘルメットの着用等の追加安全装備の着用が求められる場合があります。
- 必ず厚手の履物と長ズボンを着用してください。裸足やサンダルで装置を操作しないでください。
- 薬剤の取り扱いや噴射器の使用中は適切な衣類と安全装備を着用してください。使用している薬剤のMSDSを参照し、適切な保護装備を使用するようにしてください。

高压流体の回避



X9811—UN—23AUG88

- 飲料容器を廃液に使用しないでください。誤飲の恐れがあります。
- 廃棄物のリサイクルや処分の方法については、現地のリサイクルセンターまたは認定取扱店にお問い合わせください。
- 製品安全データシート (MSDS) は、化学製品に関する具体的な情報を提供します。物理的危険や健康上の危険、安全手順、緊急時の対処方法が記載されています。各機械で使用されている薬剤製品の販売業者はその製品の MSDS を提供する責任があります。

- 物理的な損傷、ねじれ、経時変化および暴露により油圧ホースやラインが破損する場合があります。ホースやラインを定期的に点検してください。損傷しているホースやラインは交換してください。
- 作動油の接続部は物理的な損傷や振動により緩む可能性があります。定期的に接続部を点検してください。緩んだ接続部を締め付けます。
- 圧力のかかった液体が噴き出すと、皮膚に侵入して大けがをする恐れがあります。油圧パイプや他のパイプを外す前に圧力を解放して、危険を回避してください。また、圧力をかける前にすべての接続をしっかりと締めてください。
- ボール紙で漏れを探してください。手や身体を高圧流体から保護してください。
- 事故が発生した場合は、直ちに医師の診察を受けてください。皮膚にかかった液体は、数時間以内に外科的に除去する必要があります。除去しないと、壊疽を引き起こす場合があります。このような外傷に慣れていない医師は、専門医療機関に問い合わせてください。このような情報は、Deere & Company Medical Department (Moline, Illinois, U.S.A) から入手可能です。米国およびカナダでこの情報を得るには、1-800-822-8262 までお電話ください。

薬剤の適切な廃棄

- 余った噴霧剤を適切に処理することは非常に重要です。タンクの溶液が余った場合は、水で希釈して以前に散布した場所に使用するのが最善です。
- 溶液をドレンや湖または川に絶対に廃棄しないでください。
- 薬剤の容器は、噴霧器のタンクに洗淨水を追加して3回洗い流す必要があります。空の薬剤容器を燃やさないでください。容器はリサイクル施設で廃棄してください。

廃棄物や薬剤の取り扱い

使用済みのオイル、燃料、クーラント、ブレーキ液、バッテリーなどの廃棄物は環境および人にとって有害です。

作業機の準備

作業機の要件

お使いの作業機で噴霧器ポンプを使用するには、補助油圧キットを装備する必要があります。お使いの作業機に PTO コントロールレバー、作業機の後部の 2 つのクイックカブラー、補助タンク およびオイルクーラーが装備されている場合は、補助油圧キットが設置されています。

HD300 SelectSpray アタッチメントを使用する際は、いくつかの追加部品と変更が必要です。

- 4 つのポスト型 ROPS
- タイヤ圧を 110 kPa (16 psi) に調整したワイドタイヤ
- フロントおよびリアへのヘビーデューティースプリング

組立の準備

1. 機械を安全に駐車します。
2. お使いの作業機のオペレータマニュアルの指示に従ってカーゴボックスを取り外します。
3. 油圧リフトまたはリアピボットを使用するアタッチメントを取り外します。

組み立て

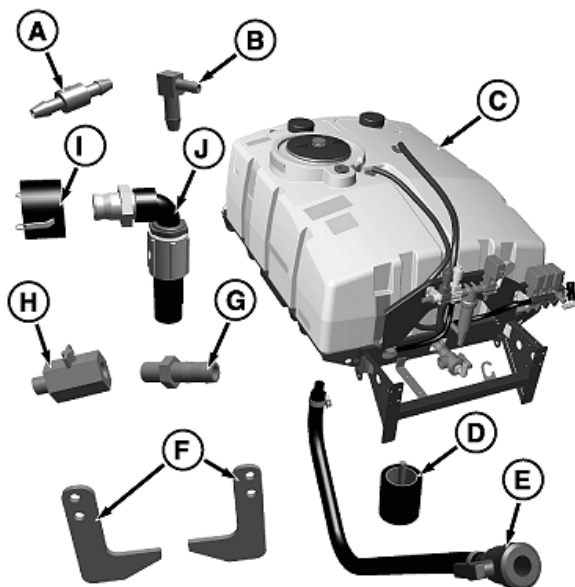
コントロールボックス取り付け部品

量	説明
1	ブラケット、上部
1	ブラケット、下部
1	座金、波形
1	ピン、クイックロック
2	ボルト、M8x55
2	M8、ロックナット
2	ボルト、1/4-20 x 3/4 in.
2	座金、1/4 in.
2	ナット、1/4-20
1	ピボット、コントロールボックス
1	ボルト、M8x75
2	ナット、M8
2	座金、摩擦

量	説明
6	ボルト、六角、M10x35
1	座金、平形、M26
1	クランプ、ホース、1/2 in.
1	エルボ、1/2 FTP x 1/2 MPT
1	ホース、3/8 in. x 12 in.
1	ホース、透明
4	クランプ、ホース、3/8 in.
2	ボルト、M6x60*
2	ロックナット、M6*
3	J クリップ
1	エルボ、ねじ付き、90 度
1	エルボ、ホースバンプ、90 度

*HD300 モデル用部品のみのみ。

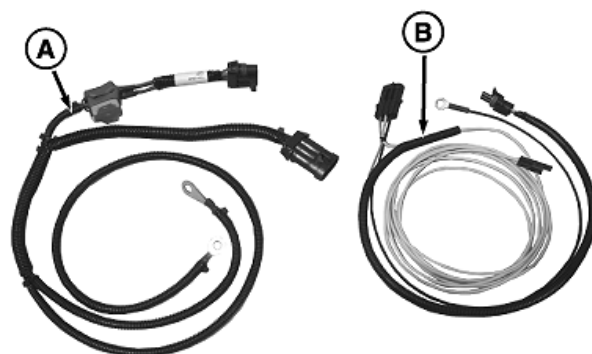
タンク構成部品



TCT005974—UN—16NOV12

量	説明
1	チェックバルブ、1/4 in. (A)
1	継手、パーブホース、1/4 in. (B)
1	タンクアセンブリ、噴霧器 (C)
2	ダウンストップ (55 mm) (D)
1	ホースアセンブリ、タンクドレン (E)
2	クランプ、フレーム (F)
1	継手、パーブ、1/2 MPT x 3/8 HB (G)
1	バルブ (H)
1	キャップ、ダスト (I)
1	アセンブリ、フィルター (J)
1	ブラケット、サポート*
6	ナット、ナイロック、M10

電気部品



TCT005975—UN—16NOV12

量	説明
1	電源ハーネス (A)
1	コンソールワイヤハーネス (B)
8	結束ストラップ

ポンプおよび油圧部品*

量	説明
1	継手、エルボ
2	ホースアセンブリ、油圧
1	ボールバルブ、スリーウェイ
1	継手、チェックバルブ
3	継手、アダプタ
1	ダストキャップ、赤
1	ダストキャップ、黄
1	ホース、1 in. 直径
2	クイックカプラー、オス
2	クランプ、ホース

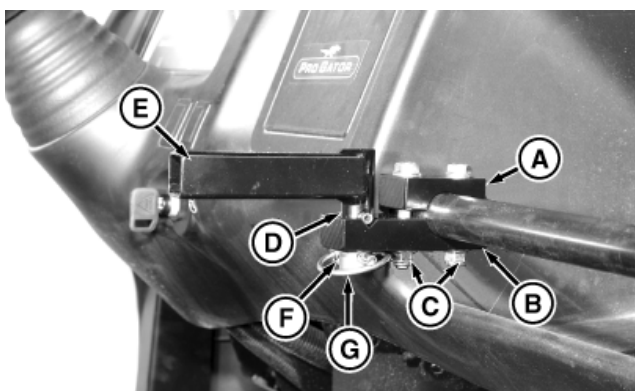
組み立て

*ポンプは別のキットに含まれています。

個人用洗浄タンク構成部品

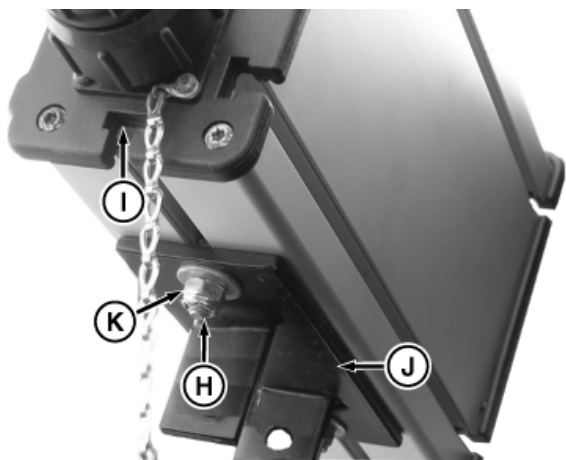
量	説明
1	エルボ
1	ボールバルブ
1	ホースバンプ
1	ホース
1	ホースクランプ

コントロールボックスの取り付け ブラケットの取り付け



TCT004378—UN—07AUG12

1. 六角ボルト 2 本とロックナット (C) を使用して、上部 (A) / 下部 (B) 取り付けブラケットを乗員用手すりに取り付けます。この時点では、金具を締め付けないでください。
2. 座金 (F) とクイックロックピン (G) を使用して、ポスト (D) を下部取り付けブラケットに通して取り付けアーム (E) に取り付けます。

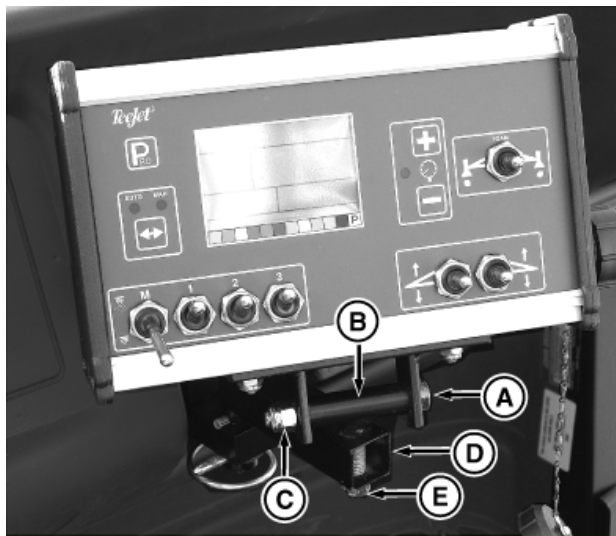


TCT004379—UN—07AUG12

3. 短い六角ボルト 2 本 (H) をコントロールボックスの底部のスロット (I) に取り付けます。

4. ボルトをコントロールボックスブラケット (J) の穴に通して、座金と六角ナット (K) を使用して固定します。

コントロールボックスの取り付け

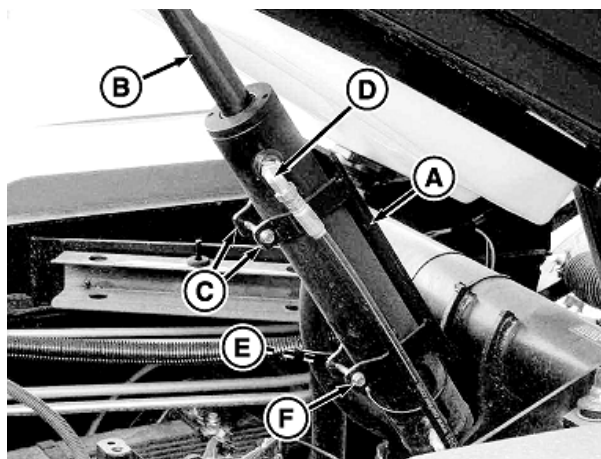


TCT004380—UN—07AUG12

1. 六角ボルト (B) と六角ナット (C) を使用して、T コネクタ (A) をコントロールボックスに取り付けます。
2. 六角ナット (E) を使用して、T コネクタを取り付けアーム (D) に取り付けます。
3. 必要に応じてコントロールボックスの位置を調整し、すべての留め具を締め付けます。

シリンダサポートブラケット (HD300) の取り付け

注記：噴霧器のタンクを取り付ける前に、シリンダサポートブラケットを取り付けることを推奨します。



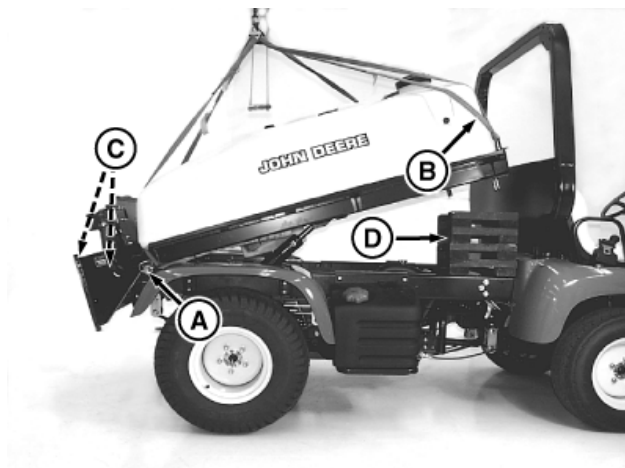
TCT005980—UN—19NOV12

組み立て

1. リフトシリンダを十分伸長させてサポートブラケット (A) をシリンダのロッド (B) 上でスライドさせます。
2. サポートブラケットをシリンダのロッドの上に取り付けます。
3. サポートブラケットの 2 つの溝 (C) をシリンダの上側の油圧ホース (D) と整列し、サポートブラケットをシリンダのベース上でスライドさせます。
4. 2 個の M6 X 60 ボルト (E) と 2 個の M6 ロックナット (F) を緩く取り付けます。
5. サポートブラケットの平面をタンクに向け、シリンダの末端から約 6 cm (2 1/2 in.) になるように位置を調整します。留め具をしっかり締め付けます。
6. タンクを上下に移動させてサポートブラケットと噴霧器のフレームの間のクリアランスを確認します。必要に応じてサポートブラケットの調整を行います。

噴霧器の取り付け

⚠ 注意： けがをしないでください。機械の部品やアタッチメントは重量があります。構成部品やアタッチメントの吊り上げ、取り付けまたは取り外しをするために適切な耐荷重を持つ安全なリフト装置を使用してください。



TCT004616—UN—20AUG12

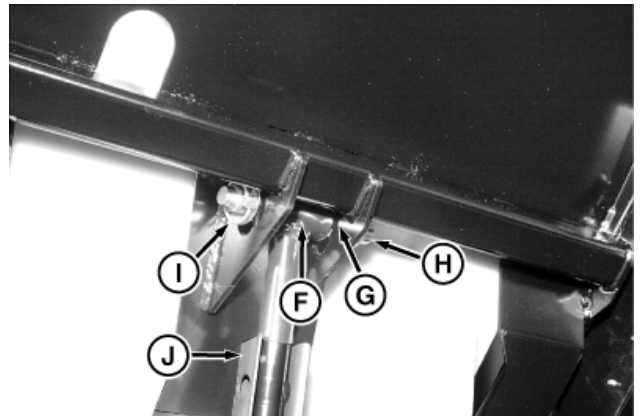
1. 装置がホイスティングで釣り合うように、噴霧器にリフトストラップまたはチェーンを取り付けます。リア側の取り付け穴 (A) には直接接続しないでください。
2. リフトストラップを噴霧器のフレームのフロント側にあるリフトループ (B) に取り付けます。
3. フレームの後部 (C) の周りにストラップを取り付けます。
4. 作業機のフレームと噴霧器のフレームの間に安全スタンド (D) を取り付けます。

5. 図のように、タンクまたはフレームを作業機の上で持ち上げます。



TCT004617—UN—07AUG12

6. 作業機後部の取り付け穴を整列してピボットピン (E) を取り付けます。ピボットピンをクイックロックピンで固定します。

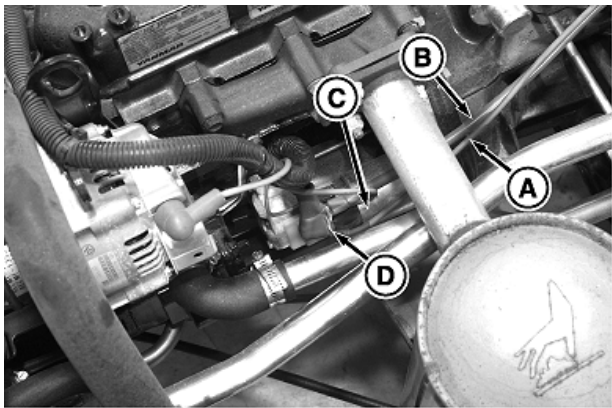


TCT004618—UN—07AUG12

7. リフトシリンダのロッドエンド (F) の穴とフレーム (G) の穴を整列します。接続ピン (H) を取り付け、M26 平座金とスプリングロックピン (I) で固定します。
8. ロッドエンドと油圧シリンダの間から安全スタンド (J) を取り外します。安全スタンドを作業機の保管場所に設置します。
9. 噴霧器からホイスを外し、リフトシリンダのレバーでタンクを下まで完全に下げます。

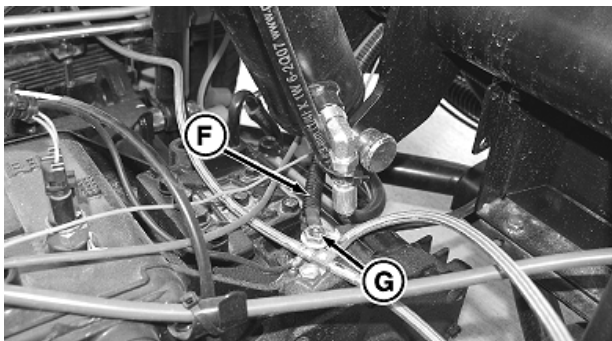
組み立て

電源ハーネスの取り付け



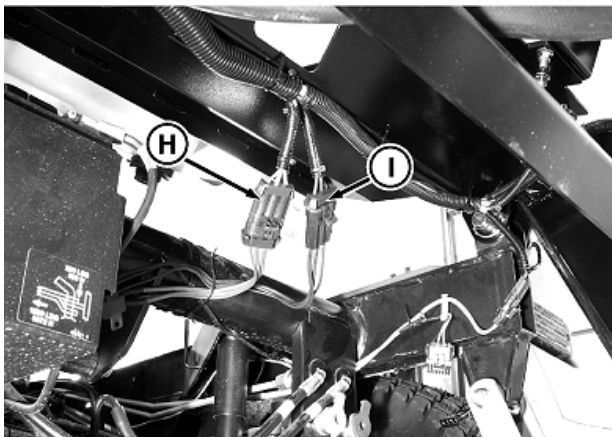
TCT005984—UN—19NOV12

1. 噴霧器の電源ハーネスの赤色のケーブル (A) を、バッテリーの赤色のケーブル (B) に沿ってスタータソレノイド (C) まで取り回します。ケーブルを損傷の原因から遠ざけ、リテーナで固定します。
2. 赤色のケーブルのリング型端子 (D) をスタータソレノイドの端子 (B) に取り付けます。



TCT005985—UN—19NOV12

3. 電源ハーネスの黒色のアースケーブル (F) のリング型端子をトランスアクスルのアースボルト (G) に取り付けます。

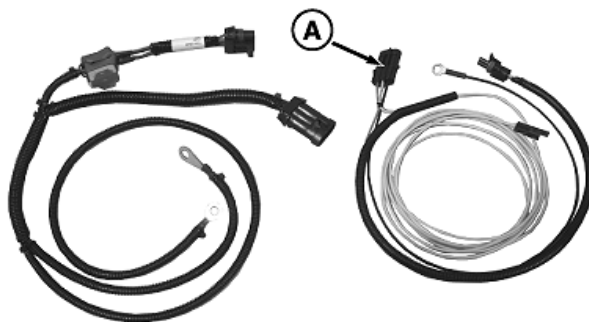


TCT005986—UN—19NOV12

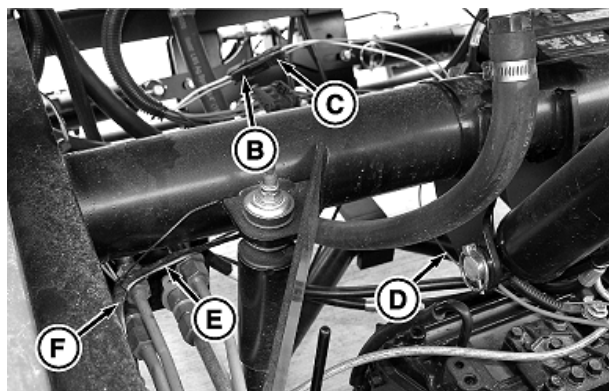
4. オスの電源ハーネスコネクタ (H) とメスのアースコネクタ (I) を噴霧器のメインハーネスの該当コネクタに接続します。

コンソールワイヤハーネスの取り付け

注記：フロントハーネスの 3 線式コネクタ (A) はオプションの自動レートコントロールキットで使用します。



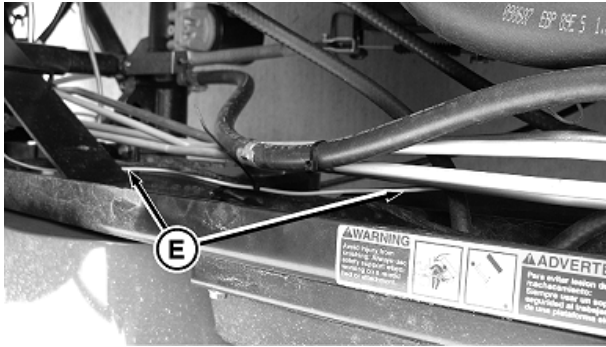
TCT005987—UN—19NOV12



TCT005988—UN—19NOV12

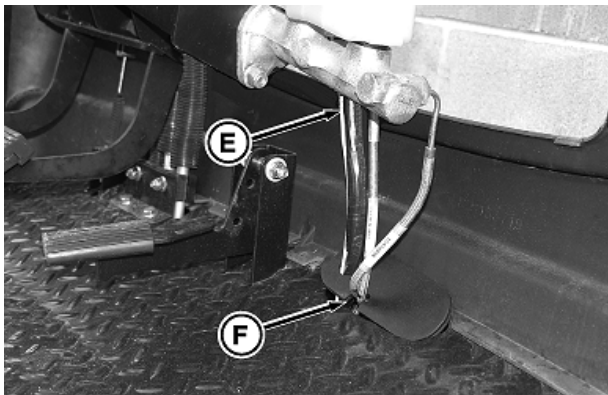
1. 噴霧器のメインハーネスのピンク色と黄色の配線コネクタ (B) をコンソールハーネスのピンク色と黄色の配線コネクタ (C) に接続します。
2. コンソールハーネスのピンク色の配線 (D) をトランスアクスルの上に取り回します。
3. コンソールハーネスの黄色の配線 (E) を右側のフレームのレールに沿って作業機のハーネス (F) に取り回します。

組み立て



TCT005989—UN—19NOV12

4. コンソールハーネスの黄色の配線 (E) を右側のフレームのレール内で作業機のハーネスに沿ってに取り回します。



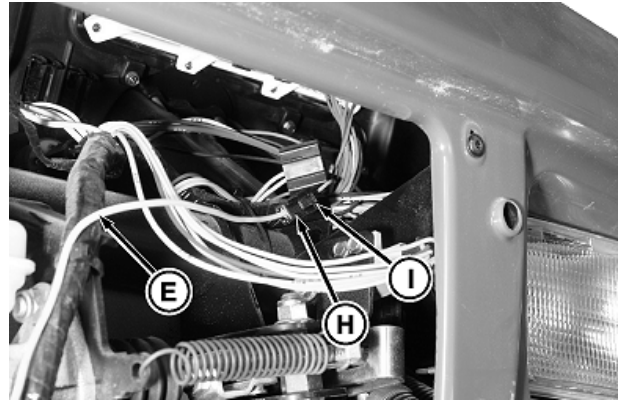
TCT005990—UN—19NOV12

5. 黄色の配線 (E) をキャビンの床下の作業機のハーネスに沿って開口部 (F) に通し、キャビンの床のエッジに取り回します。



TCT005991—UN—19NOV12

6. タブ (G) でグリルをつかみ、外側に引いてフロントグリルを取り外し、ワイヤハーネスにアクセスします。

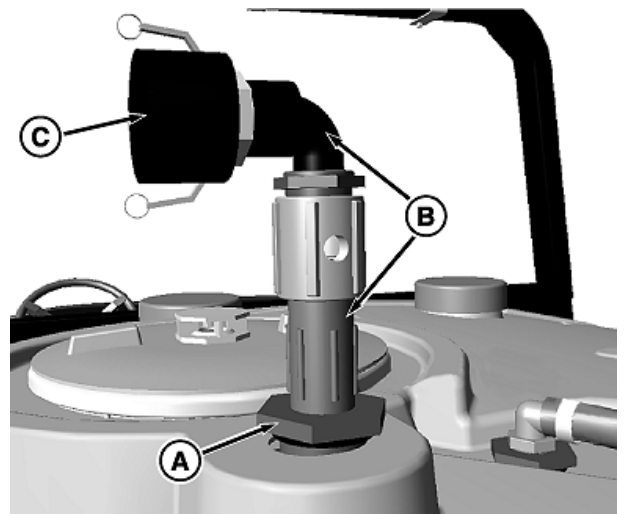


TCT005992—UN—19NOV12

7. 黄色の配線 (E) を、作業機のハーネスに沿ってダッシュボードの下に取り回します。
8. 黄色の配線のコネクタ (H) を作業機のハーネスのコネクタ (I) に取り付けます。
9. 取り付けした配線を結束バンドで固定します。
10. グリルを交換します。

噴霧器のタンクの構成部品の取り付け

注記： 最良の結果を得るために、ねじ部を含むすべての継手に対して耐薬品性のパイプシーラントを塗布してください。

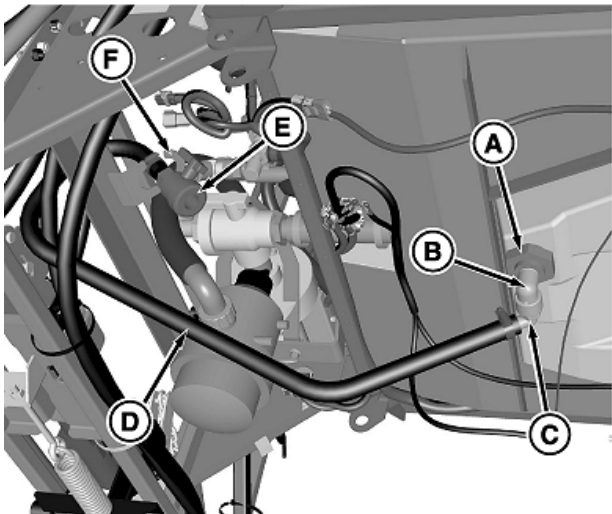


TCT005993—UN—19NOV12

1. タンク上面の注入ポート (A) からプラスチック製の保護キャップを取り外して廃棄します。
2. フィラーチューブアセンブリ (B) を注入ポートにねじ込みます。図のようにタンクの左側にクイックコネクタの開口部を向けて完全に締め付けます。
3. ダストキャップ (C) を取り付けます。

組み立て

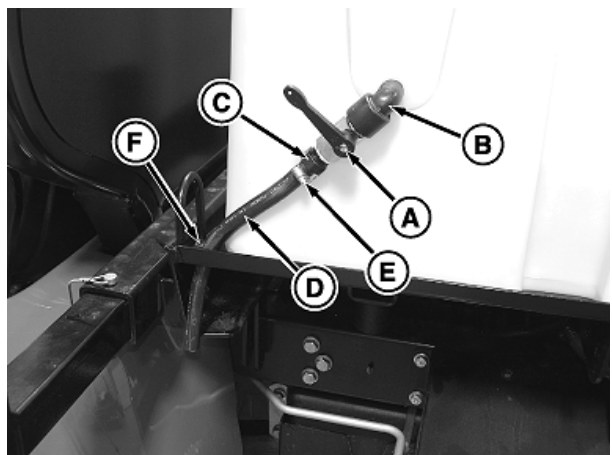
タンクのドレンホース



TCT005994—UN—19NOV12

1. タンクを持ち上げて適切に支持し、タンクのドレン (A) にアクセスします。
2. 90 度のねじ付きエルボ (B) をタンクのドレンに取り付けます。
3. 90 度のホースバープエルボ (C) を 90 度のねじ付きエルボに取り付けます。
4. ドレンチューブアセンブリ (D) を 90 度のホースバープエルボに取り付けます。
5. ドレンホースアセンブリを作業機後部フレームのクロスメンバ下に取り回し、その後ヒッチのブラケットの上に取り回して、図のようにクレードル (F) にドレンバルブ (E) をセットします。

個人用洗浄タンクのホース



TCT005995—UN—19NOV12

1. ボールバルブ (A) をエルボ (B) に取り付けます。
2. ホースバープ (C) をボールバルブに取り付けます。
3. エルボアセンブリを噴霧器の

洗浄タンクの左前コーナーにあるねじ穴に図のように取り付けます。

4. ホース (D) をホースクランプ (E) でホースバープに取り付けます。
5. ホースを噴霧器のフレームにある穴 (F) を通して取り回します。

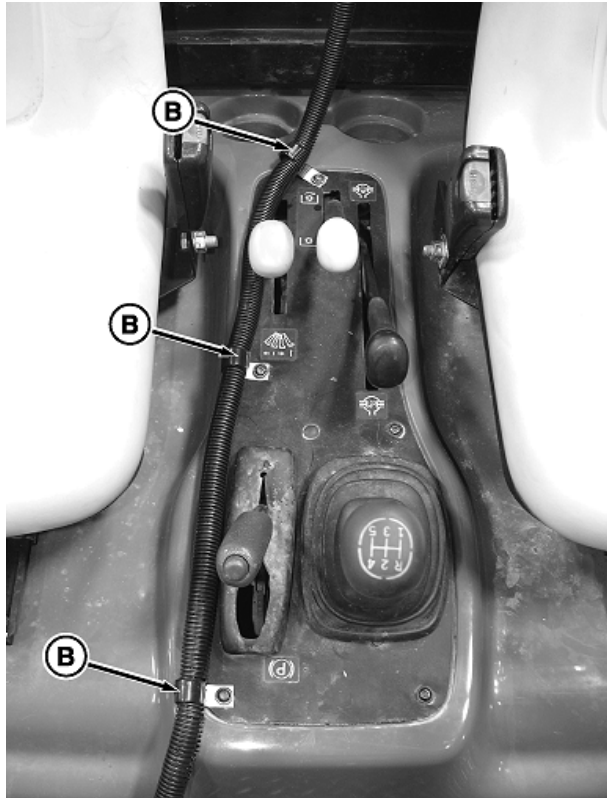
コントロールボックスへの噴霧器メインハーネスの接続



TCT005996—UN—19NOV12

1. 噴霧器のメインハーネス (A) の一部を保持している結束ストラップを取り外して噴霧器のフレームの横に移動します。
2. ハーネスを噴霧器と作業機の間、ROPS フレームの下半分のプレート上に取り回します。

組み立て



TCT005997—UN—19NOV12

3. 中央制御パネルのボルトに J 型クリップを取り付けます。
4. J 型クリップにハーネスを取り付け、作業機の前に取り回します。



TCT005998—UN—19NOV12

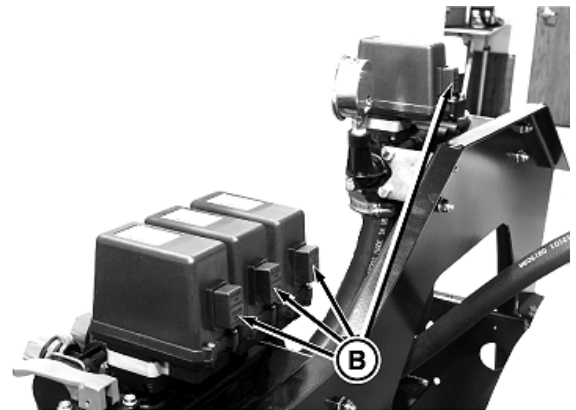
5. コントロールボックス (D) へハーネスコネクタ (C) を接続します。

リアワイヤハーネスの接続



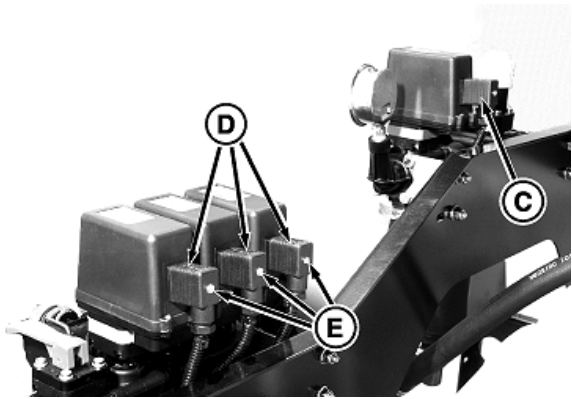
TCT005999—UN—19NOV12

1. 噴霧器のフレームの後部コーナーにリアハーネスの束 (A) を固定している結束ストラップを切断します。



TCT006000—UN—19NOV12

2. マスターおよびブームソレノイドのバルブのカバーから保護キャップ (B) を取り外します。

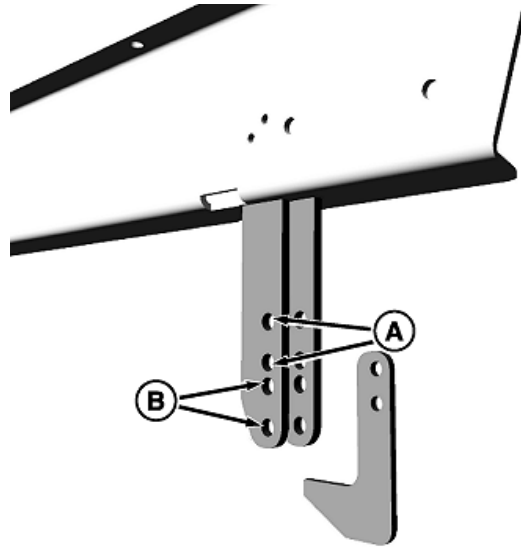


TCT006001—UN—19NOV12

3. シングルハーネスのプラグ (C) をマスターソレノイドのバルブに接続します。
4. マルチハーネスのプラグ (D) をブームソレノイドのバルブに左から右の正しい順で接続します。
 - a. 長いソレノイドのリード線を外側のソレノイドに接続します。
 - b. 中間の長さのソレノイドのリード線を中間のソレノイドに接続します。
 - c. 短いソレノイドのリード線を内側のソレノイドに接続します。
5. ボルト (E) で各プラグをバルブに固定します。
6. オプションの噴霧装置を装備している場合は、この時点で必要なすべての電気接続とホース接続を行います。お使いのオプション装置の取り付け作業の指示事項を参照してください。
7. オプションの噴霧装置を装備していない場合は、余った噴霧器のハーネスのリード線をソレノイドマニホールド下のバックパネル裏に取り回し、結束ストラップで固定します。

フレームクランプの取り付け

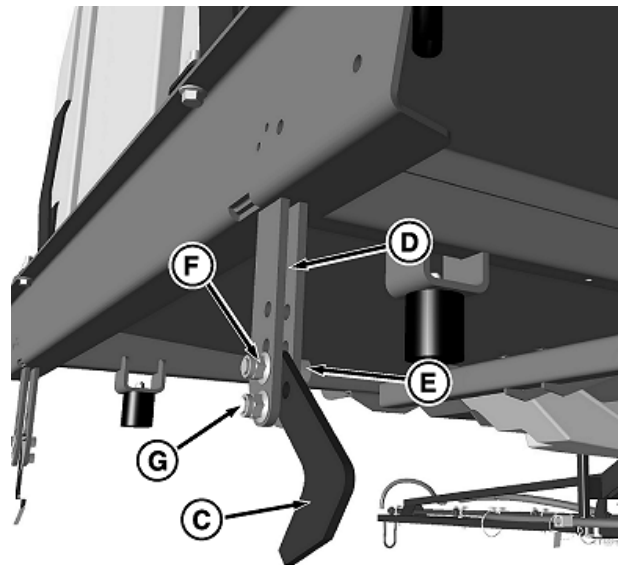
噴霧器は ProGator の現行モデルおよび以前のモデルに取り付けることが可能です。モデルにより、フレームブラケットの取り付け穴を変更する必要があります。作業機ごとの適切な取り付け穴の選択方法については以下の図を参照してください。



TCT006002—UN—19NOV12

- A — 旧モデル (2020、2030) の上側および下側の取り付け穴
B — 現モデル (2020A、2030A) の上側および下側の取り付け穴

噴霧器へのフレームクランプの取り付け



TCT006003—UN—19NOV12

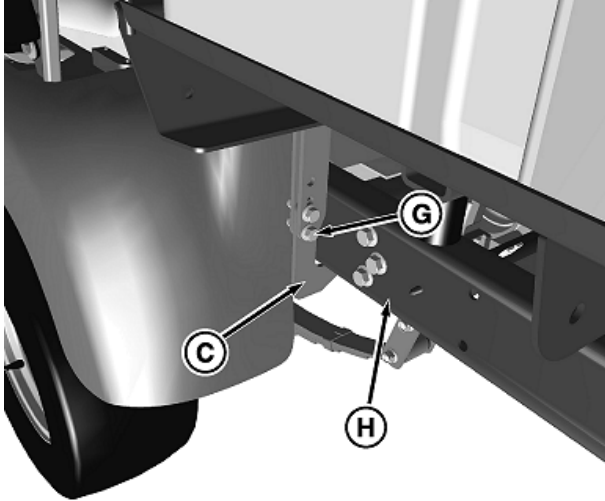
現行モデルの取り付けの場合

1. フレームクランプ (C) をフレームブラケット (D) に配置し、適切な取り付け穴に M10x35 ボルト (E) を取り付けます。M10 ロックナット (F) をボルトに取り付け、締め付けずにします。
2. フレームクランプを上に戻し、適切な取り付け穴に M10x35 ボルト (G) を取り付けます。ロックナットをボルトに取り付け、締め付けずにします。噴霧器を下げる際に ProGator のフレームを接触させないためには、フレームクランプをこのオープン位置の状態にしておく必要があります。

フレームへの噴霧器の固定

噴霧器を取り付けた後、ProGator のフレームに固定してから操作します。

1. 噴霧器を下げます。



TCT006004—UN—19NOV12

2. 下の M10 ロックナットと M10x35 ボルトを取り外し、フレームクランプ (C) を下に回転させて噴霧器を ProGator のフレーム (H) に固定できるようにします。
3. M10x35 ボルト (G) をフレームブラケットに通し、M10 ロックナットで固定します。
4. 留め具をしっかり締め付けます。

取り外しと保管

取り外し前の作業機の準備

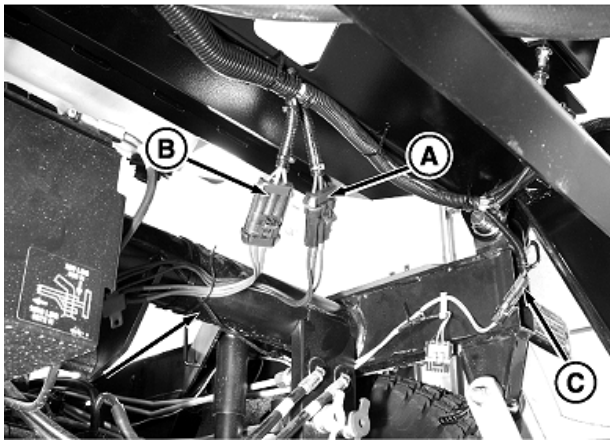
1. 機械を安全に駐車します。
2. 噴霧器のタンクを空にして荷重を減らしバランスを調整します。
3. ブームウィングを直立位置で固定します。

油圧ホースの切り離し

⚠ 注意： けがを防止してください! 圧力流体が噴き出すと、皮膚に侵入して壊疽等の大けがをする恐れがあります。

- 油圧または他の加圧状態のラインの接続を外す前に、圧力を解放してください。
 - ボール紙や木片で漏れを探してください。高圧流体に手や体を曝さないでください。
 - また、圧力をかける前にすべての接続をしっかりと締めてください。
1. 作業機後部の黄色および赤色のメス形クイックカプラーから、噴霧器の油圧ラインを切り離します。リフトシリンダのラインは接続したままにします。
 2. ダストキャップを噴霧器の油圧ラインとクイック解除カプラーに取り付けます。

後部ワイヤハーネスの接続解除

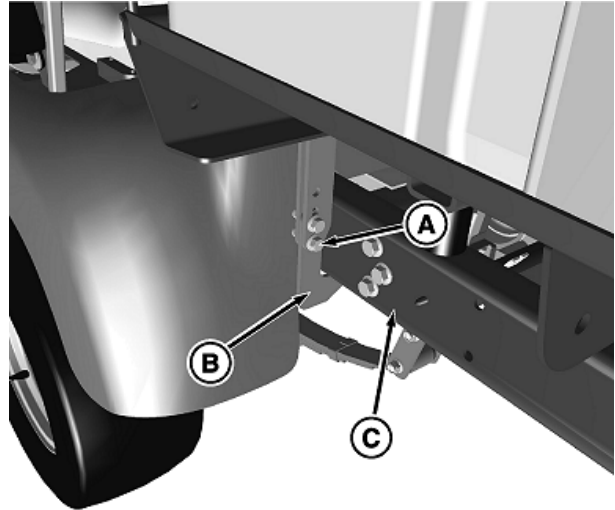


TCT006005—UN—26NOV12

重要： 損傷を防止してください。機械からユニットを取り外す前に、すべての噴霧器補助装置の電気およびホースの接続を外します。

1. 噴霧器メインハーネスの大型のハーネスコネクタ (A) とコネクタ (B) の接続を外します。
2. 噴霧器メインハーネスの大型のハーネスコネクタ (C) の接続を外します。

サポートスタンドを使用しない噴霧器の取り外し

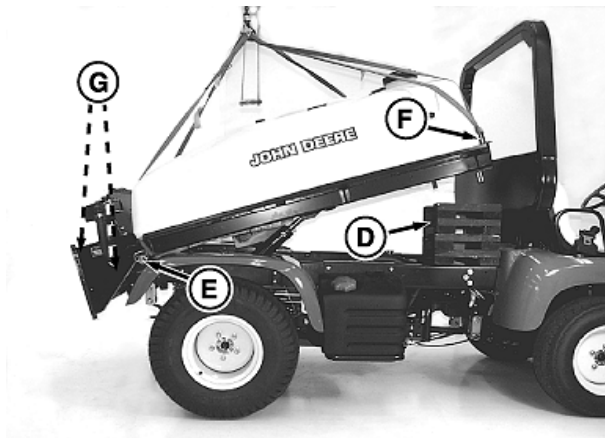


TCT006006—UN—26NOV12

⚠ 注意： けがを防止してください! 安全でないリフト装置やサポートから機械が落下したり、滑り落ちたりすることがあります。

- 持ち上げる荷重に適した安全なリフト装置を使用してください。
 - 機械をジャッキスタンドやその他の安定したサポートの上に降ろし、整備前にホイールをブロックしてください。
1. 作業機を安全なリフト装置付近に安全に配置してください。
 2. 噴霧器のワイヤハーネスが噴霧器から完全に切り離されていることを確認します。
 3. 下側の M10 ロックナットと M10x35 ボルト (A) を取り外し、フレームクランプ (B) をフレーム (C) からオープン側へ回転できるようにします。反対側で繰り返します。
 4. クランプを上へ回転させ、M10x35 ボルト (A) と M10 ロックナットを取り付けてクランプをオープン位置に固定します。
 5. リフトシリンダのコントロールレバーでリフトシリンダのロッドを約 25~30 cm (10~12 in.) 伸ばし、リフトシリンダの接続ピンにアクセスできるようにします。
 6. エンジンを停止し、キーを抜いてパーキングブレーキをかけます。

取り外しと保管



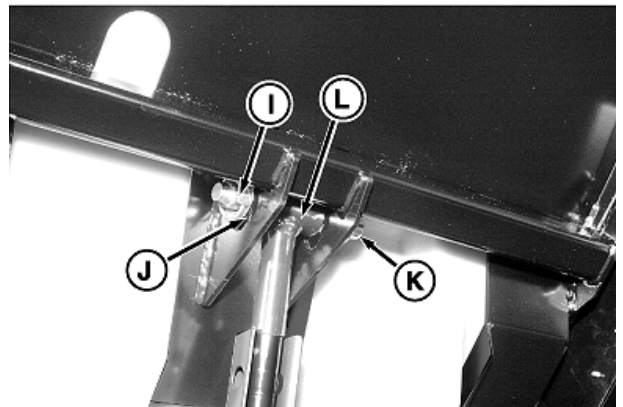
TCT006007—UN—26NOV12

7. 作業機のフレームと噴霧器のフレームの間に安全スタンド (D) を取り付けます。
8. 装置がホイスティングで釣り合うように、噴霧器にリフトストラップまたはチェーンを取り付けます。リア側の取り付け穴 (E) には直接接続しないでください。
9. リフトストラップを噴霧器のフレームのフロント側にあるリフトループ (F) に取り付けます。
10. フレームの後部 (G) の周りにストラップを取り付けます。



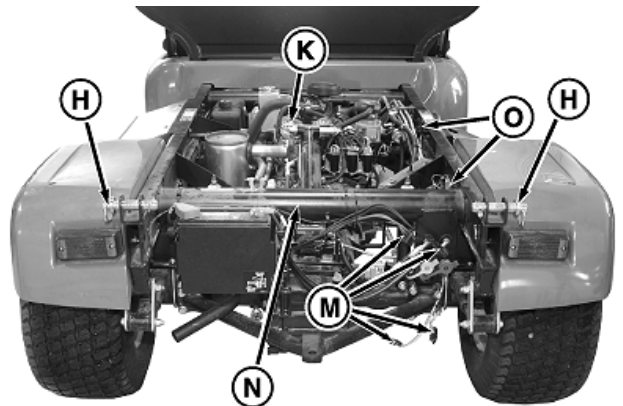
TCT006008—UN—26NOV12

11. 噴霧器のフレームを少し持ち上げ、作業機後部のクイックロックピンとピボットピン (H) を取り外します。



TCT006009—UN—26NOV12

12. リフトシリンダのロッドエンド (L) のスプリングロックピン (I)、M6 座金 (J)、および接続ピン (K) を取り外します。
13. 噴霧器を作業機から持ち上げ、水平な面に置きます。噴霧器からリフトギアを取り外します。

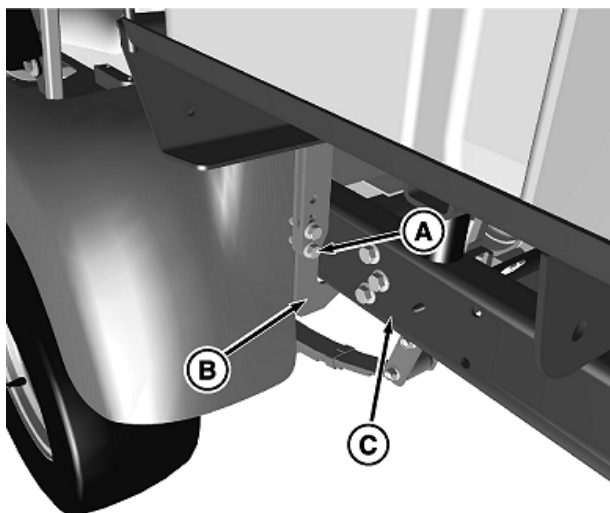


TCT006010—UN—26NOV12

14. 保管のために作業機の後部にピボットピン (H) を取り付けます。
15. 保管のためにリフトシリンダに接続ピン (K) を取り付けます。
16. 作業機のフレームから安全スタンドを取り外します。
17. 噴霧器のワイヤーハーネス (M) の余りを、フレームチューブ (N) の下とフレーム (O) に沿って作業機の後から前へ取り回します。可動部品から離して結束ストラップで固定します。

取り外しと保管

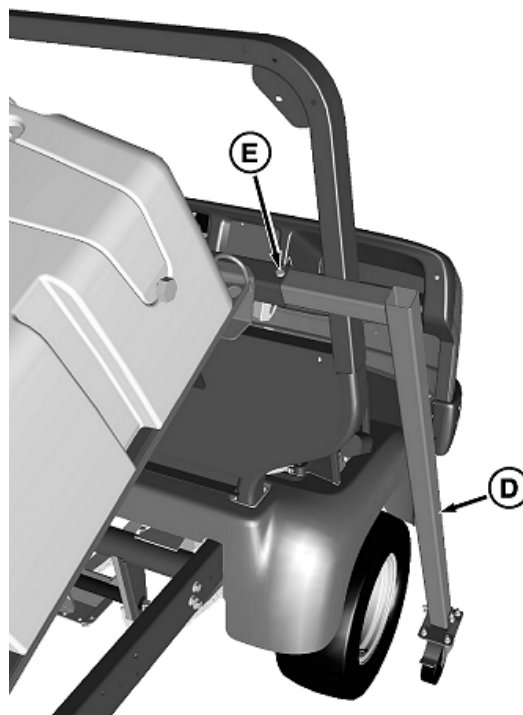
オプションのサポートスタンドを使用した噴霧器の取り外し



TCT006006—UN—26NOV12

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照してください。）
2. 噴霧器のワイヤハーネスが噴霧器から完全に切り離されていることを確認します。
3. 下側の M10 ロックナットと M10x35 ボルト (A) を取り外し、フレームクランプ (B) をフレーム (C) からオープン側へ回転できるようにします。反対側で繰り返します。
4. クランプを上へ回転させ、M10x35 ボルト (A) と M10 ロックナットを取り付けてクランプをオープン位置に固定します。
5. 作業機のリフトシリンダのコントロールレバーでリフトシリンダのロッドを約 25~30 cm (10~12 in.) 伸ばし、リフトシリンダの接続ピンにアクセスできるようにします。
6. エンジンを停止し、キーを抜いてパーキングブレーキをかけます。
7. 本マニュアルの「コントロールボックスの取り外しおよび保管」の指示事項に従ってください。

注記： 右側と左側にサポートスタンド (D) があります。



TCT006011—UN—26NOV12

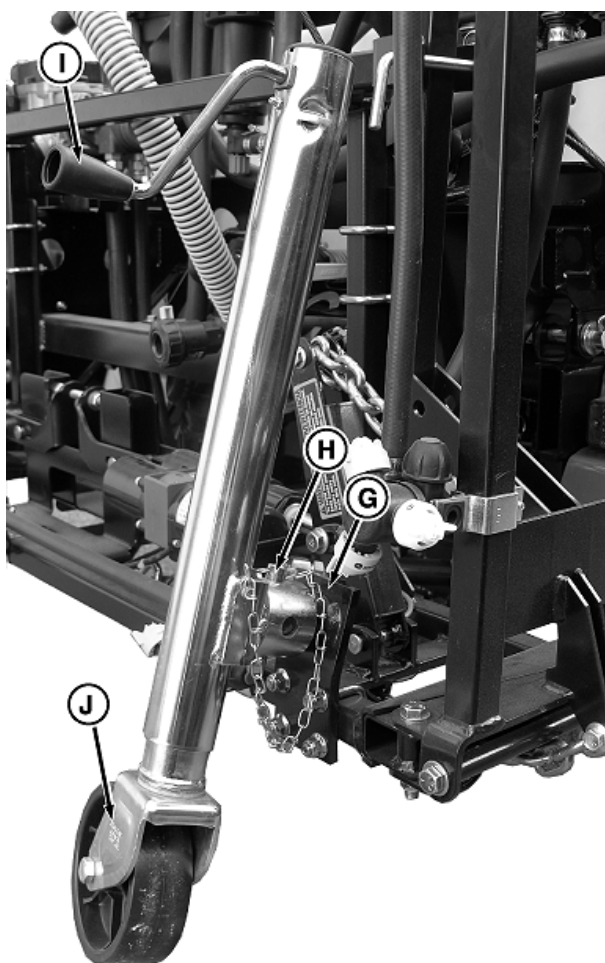
8. フロントサポートスタンド (D) をサポートスタンドのブラケットに挿入し、クイックロックピン (E) で固定します。



TCT006012—UN—26NOV12

- a. ブラケット (F) の角度が作業機のリアに向くようにして、噴霧器の横にフロントサポートスタンドを取り付けます。
 - b. 反対側で繰り返します。
9. 作業機のリフトシリンダのレバーを前に押して、フロントサポートスタンドが水平な地面に着くまで噴霧器を下げます。

取り外しと保管



TCT006013—UN—26NOV12

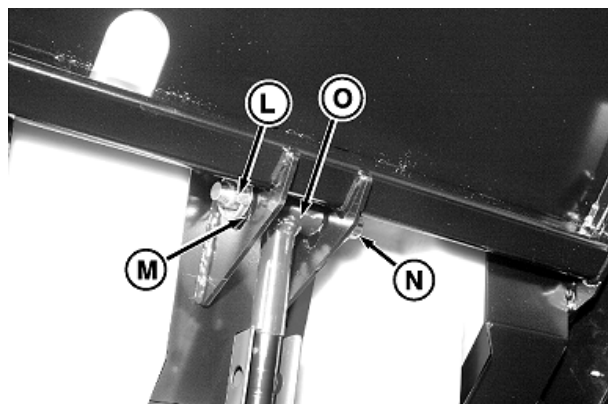
右側のサポート位置

10. ジャッキベースブラケット (G) に調整式ジャッキを垂直方向に取り付けます。ピン (H) を取り付けてジャッキをジャッキベースブラケットに固定します。
11. ハンドル (I) を回してジャッキのホイール (J) が水平な地面に着くように下げて調整します。反対側で繰り返します。



TCT006014—UN—26NOV12

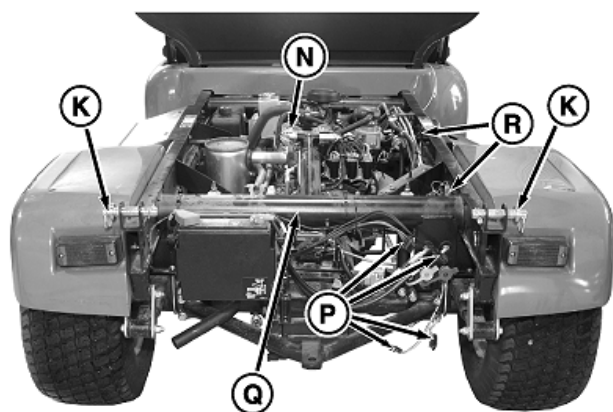
12. 作業機後部のピボットピン (K) が前後に動くようになるまで、両側のジャッキを回します。クイックロックピンとピボットピン (K) を取り外します。



TCT006015—UN—26NOV12

13. リフトシリンダのロッドエンド (O) のスプリングロックピン (L)、M6 座金 (M)、および接続ピン (N) を取り外します。
14. 噴霧器アセンブリがフレームから完全に離れるまで、それぞれのハンドル (I) を等分に回します。タンクの底からドレンホースを離せるまで噴霧器を上に向けていることを確認します。
15. 作業機をゆっくり運転して噴霧器アセンブリから離します。

取り外しと保管



TCT006016—UN—26NOV12

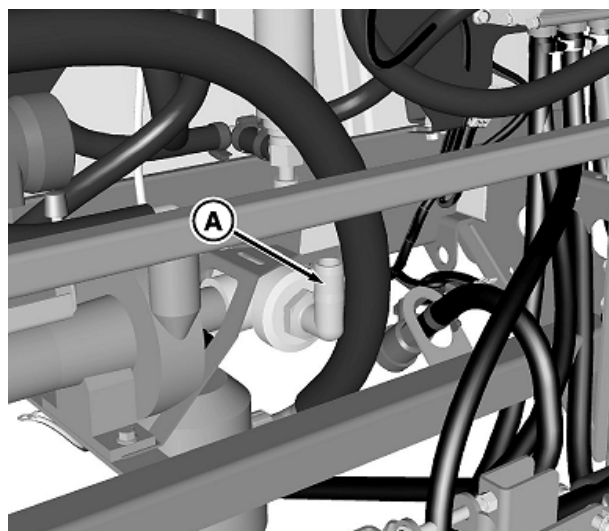
16. 保管のために作業機の後部にピボットピン (K) を取り付けます。
17. 保管のためにリフトシリンダロッドに接続ピン (N) と金具を取り付けます。
18. 噴霧器のワイヤハーネス (P) の余りを、フレームチューブ (Q) の下とフレーム (R) に沿って作業機の後から前へ取り回します。可動部品から離して結束ストラップで固定します。

安全な保管

⚠ 注意： けがを防止してください！ 燃料蒸気は爆発性および可燃性があります。エンジンの排気ガスは一酸化炭素を含んでおり、深刻な病気や死亡事故の原因になります。

- 保管場所へまたは保管場所からの移動に必要な時間のみエンジンを運転してください。
- 作業機が冷める前に保管したり、エンジンおよびマフラー周辺からごみを取り除かない、あるいは可燃性の物質の近くに保管すると、作業機や構造から火災が発生するおそれがあります。
- タンクに燃料が残っている車両を、燃料蒸気ガスが直火や火花に達する可能性がある建物内に保管しないでください。
- 閉鎖区域に機械を保存する前にエンジンを冷ましてください。

防寒対策および保管



TCT006017—UN—26NOV12

スプレーヤー

1. 余った薬剤を希釈して噴射することによりタンクを空にします。
2. 機械を安全に駐車します。
3. 噴霧器のタンクを洗い流してドレンします。
4. 攪拌機バルブの黄色のノブを完全に閉じる位置まで時計回りに回します。
5. スリーウェイボールバルブのエルボニップル (A) が上に向いていることを確認します。必要に応じて回転させます。
6. ハンドルが水平でタンクと逆の方を向くようにスリーウェイボールバルブを回します。
7. エルボニップルに RV アンチフリーズを満杯になるまで注入します。

取り外しと保管

8. ポンプを短時間始動させてアンチフリーズを循環させ、ポンプを止めます。
9. 手順 7 と 8 を繰り返し、アンチフリーズをポンプとリアのすべての配管に循環させます。
10. エルボニップルに追加のアンチフリーズを満杯になるまで注入します。
11. 装備されている場合は、ブームウィングの延長部を折りたたんで固定します。
12. ブームウィングを上げて直立位置で固定します。

フォームマーカ (装備されている場合)

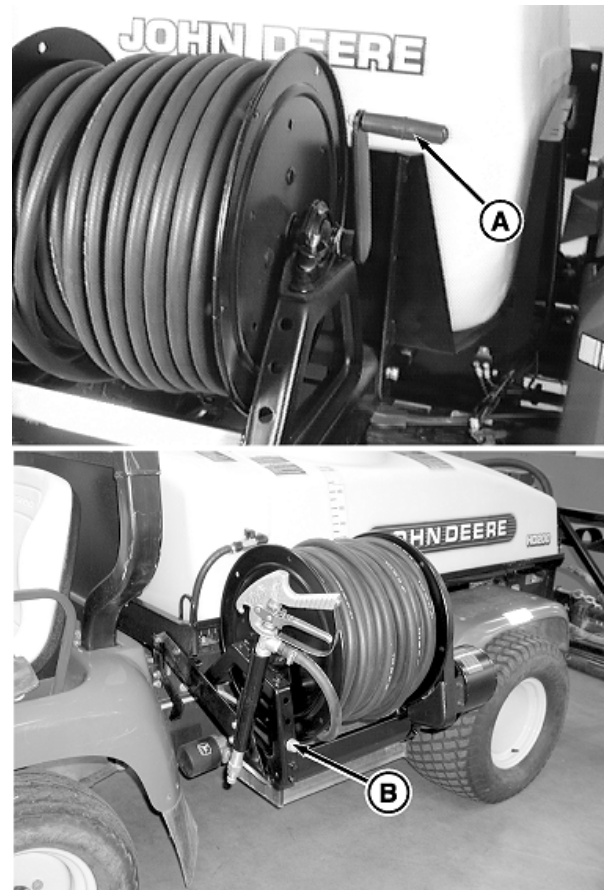
フォームマーカの保管にあたっては、以下の手順で準備してください。作業完了後、すべての配管と濡れた部品を RV アンチフリーズで満たします。乾燥状態で保管するよりもこちらの方が適しています。

1. マーカータンクをドレンし、タンクのアウトレットストレーナを洗浄または交換します。
2. タンクストレーナとストレーナカバーを取り付けます。

注記：RV アンチフリーズの容器のラベルに記載されたすべての安全対策と混合時の指示事項に従ってください。

3. マーカーのタンクを RV アンチフリーズで満たします。
4. フォームマーカをそれぞれの側で 2 分間ずつ通常通り動作させます。これにより水やマーカの溶剤を排出し、システムをアンチフリーズで満たすことができます。
5. フォームマーカのキャビネット内部を清掃します。
6. エアポンプのインレットエアフィルタを清掃します。

ホースリール (装備されている場合)



TCT006018—UN—26NOV12

1. 機械を安全に駐車します。
2. ホースリールのバルブのレバーをオフの位置にします。
3. ハンドガンを一瞬作動させてホースから空気圧を解放します。

⚠ 注意：けがを防止してください! 可動部品が当たると手を切るおそれがあります。手を近づけないでください。ガードを外した状態で作業しないでください。

電気式ホースリール：最後の 2 m (6.5 ft) は手動で巻き取ることにより、高速で巻き取られるホースでけがをしないようにしてください。

4. 以下の手順でホースをリールに巻き取ってください。
 - a. 手動式ホースリール：片手でホースを導きながら、手でハンドル (A) を回します。
 - b. 電気式ホースリール：電源スイッチ (B) を押して電気モーターを動かし、自動でホースをリールに巻き取ります。ホースを導く際に手をドラムに近づけないでください。ホースの最後の 2 m (6.5 ft) は手で巻き取ってください。
5. ハンドガンを保管用チューブに取り付けます。

取り外しと保管

個人用洗浄タンク

個人用洗浄タンクの保管にあたっては、以下の手順で準備してください。

1. 洗浄タンクをドレンし、必要に応じて清掃します。
2. 必要に応じてタンクの内部を清掃して洗い流します。
3. 栓を開き、水をすべてドレンします。
4. 栓を開いたままにし、結露した水もドレンさせます。

保管からの復帰

重要： 損傷を防止してください! 一部の RV アンチフリーズ溶液は環境に有害です。溶液は容器に入れ、メーカーの指示に従って廃棄してください。

スプレーヤー

1. 噴霧器のタンクを清浄な水で部分的に満たします。
2. スリーウェイボールバルブのハンドルを噴霧器のタンクに向けて回します。
3. RV アンチフリーズがシステムから除去されるまで噴霧器を作動させます。

フォームマーカ (装備されている場合)

1. マーカータンクをドレンし、タンクのアウトレットストレーナを洗浄または交換します。

注記： RV アンチフリーズの容器のラベルに記載されたすべての安全対策の指示事項に従ってください。

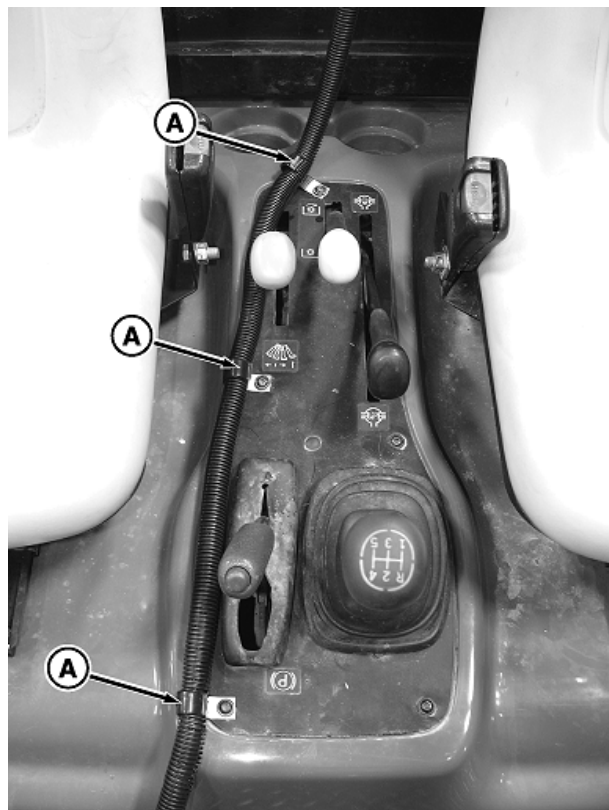
2. 清浄な水または特別な希釈用液を使用し、マーカータンクを満たします。
3. アンチフリーズのすべての痕跡が消えるまで、両側で通常通りフォームマーカを作動させます。
4. マーカータンクから残った清浄な水または特別な希釈用液をドレンします。タンクのストレーナが清浄で適切に取り付けられていることを確認します。ストレーナのカバーを取り付けて締め付けます。
5. フォームマーカのキャビネット内部を清掃します。
6. フォームマーカのタンクを満たします。
7. フォームがフォームノズルから出てくるまで、最大フォーム速度でフォームマーカを作動させます。反対側で繰り返します。
8. 通常のフォーム速度に調整します。

個人用洗浄タンク

1. 数ガロンの清浄な水をタンクに注入してドレンさせます。これによりタンク、栓、およびドレンホースからごみを洗い流します。

2. 栓を閉じます。
3. タンクを清浄な水で満たします。
4. カバーを取り付けて締め付けます。
5. 栓を開くと、水がホースからスムーズにドレンされることを確認します。水の排出が遅いかまったく出ない場合は、カバーのベントを点検し清掃します。

コントロールボックスの取り外しおよび保管



TCT006019—UN—26NOV12

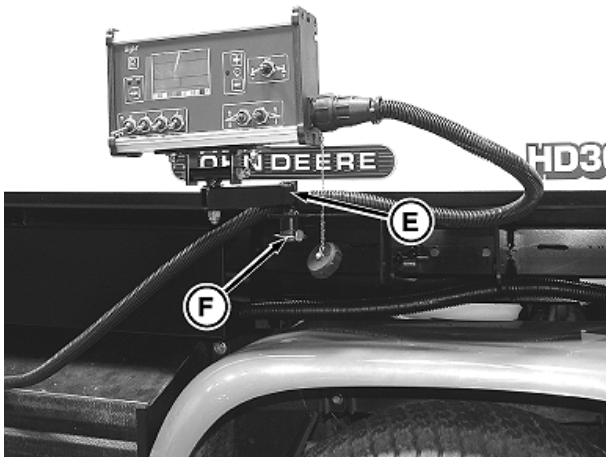
1. J型クリップ (A) からハーネスを取り外します。

取り外しと保管



TCT006020—UN—26NOV12

2. コントロールボックス取り付けアーム (C) からクイックロックピン (B) と波型座金を取り外します。
3. ブラケット (D) からコントロールボックスと取り付けアームのアセンブリを取り外します。



TCT006021—UN—26NOV12

4. 中央フレームのコントローラー保管用ブラケット (E) にコントロールボックスを取り付け、波型座金とクイックロックピン (F) を取り付けて所定位置に固定します。

取り付け

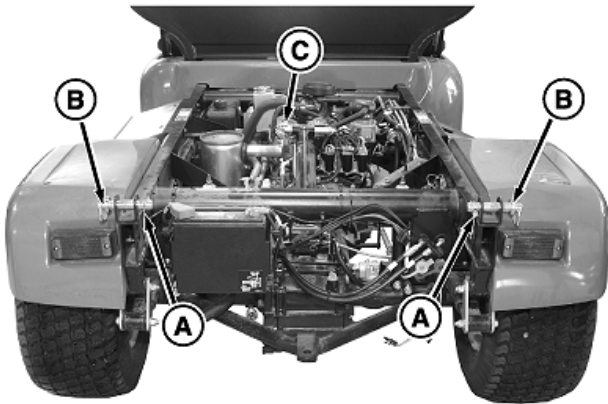
オプションのサポートスタンドを使用しない作業機への噴霧器の取り付け

作業機への噴霧器の最初の取り付け手順については、「組立」のセクションに記載しています。最初の取り付け作業後に作業機へ噴霧器を取り付ける際のチェックリストを以下に示します。

- 安全なリフト装置かサポートスタンドを使って作業機のフレームに噴霧器のタンクを取り付けます。
- リアワイヤハーネスを接続します。
- 噴霧器の油圧ホースを接続します。
- 取り付けクランプで噴霧器を作業機のフレームに固定します。
- ブームの高さと水平を確認し、必要に応じて調整します。

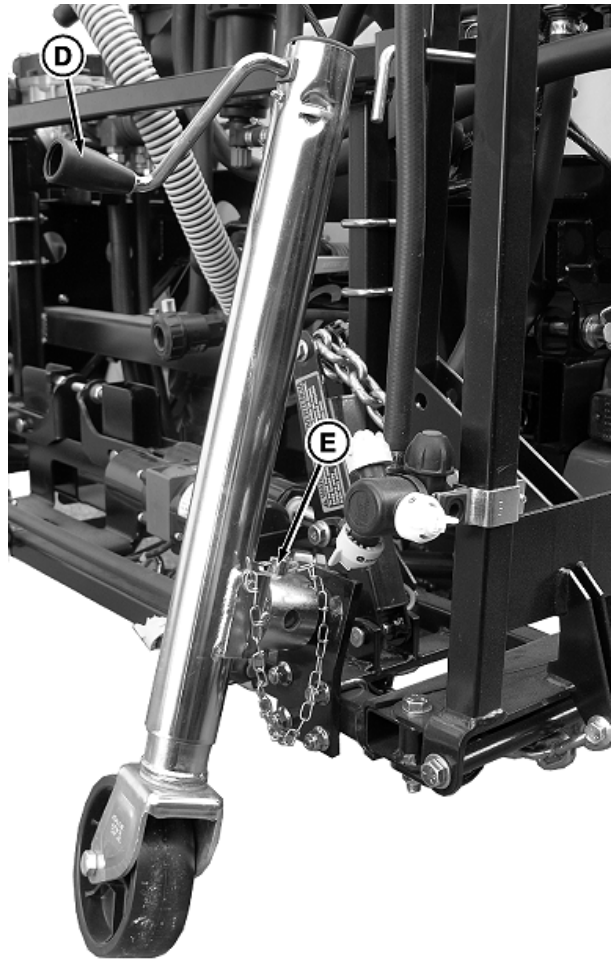
オプションのサポートスタンドを使用した作業機への噴霧器の取り付け

1. 噴霧器の下へ作業機を慎重に後退させ、作業機を安全に駐車します（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照）。



TCT006022—UN—19NOV12

2. クイックロックピン (A)、リアのピボットピン (B) およびシリンダのピン (C) を取り外します。
3. 噴霧器のフレームの取り付け位置が ProGator のリアのピボットの上になるように噴霧器の位置を調整します。



TCT006023—UN—19NOV12

4. 噴霧器のフレームの穴が ProGator のリアのピボットの穴とそろうまでジャッキハンドル (D) を回します。

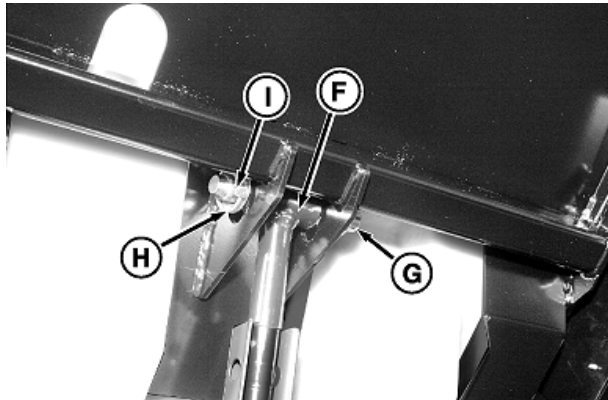


TCT006024—UN—19NOV12

5. リアのピボットピン (B) を取り付け、クイックロックピンで固定します。

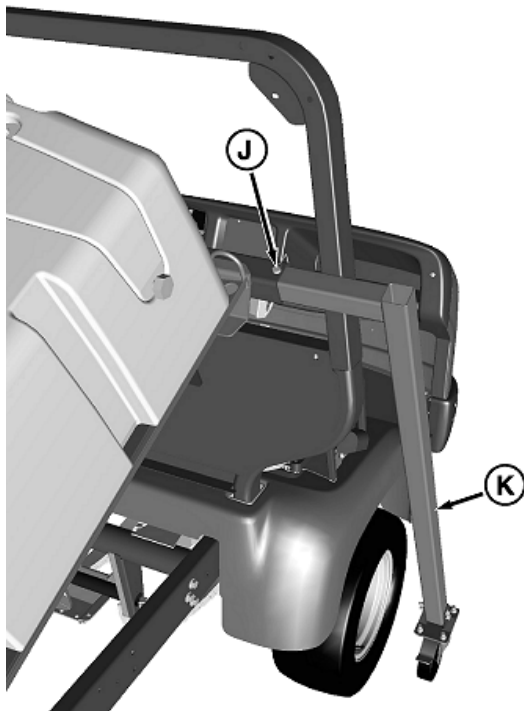
取り付け

6. 両方のリアのジャッキが完全に格納されるまでジャッキハンドルを回し、ジャッキピン (E) を引いてジャッキを取り外します。リアのジャッキは保管時にのみ使用し、噴霧作業中では取り付けないでください。
7. エンジンを始動し、作業機のリフトシリンダのレバーを引き戻してリフトシリンダを 25~30 cm (10~12 in.) 伸長させます。
8. エンジンを停止し、キーを抜いてパーキングブレーキをかけます。



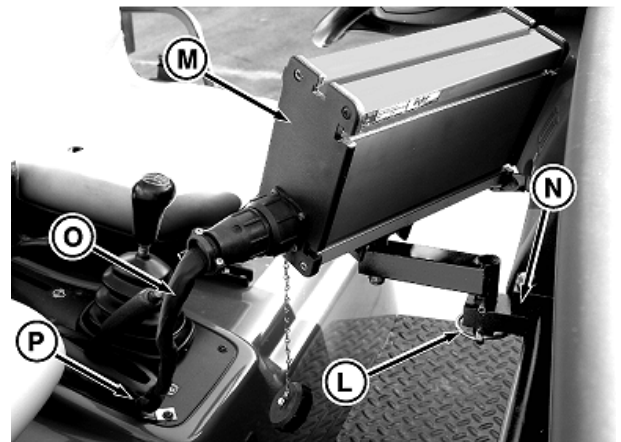
TCT006025—UN—19NOV12

9. シリンダエンド (F) を噴霧器のフレームの所定位置に取り付け、ピン (G)、座金 (H)、およびクイックロックピン (I) で固定します。



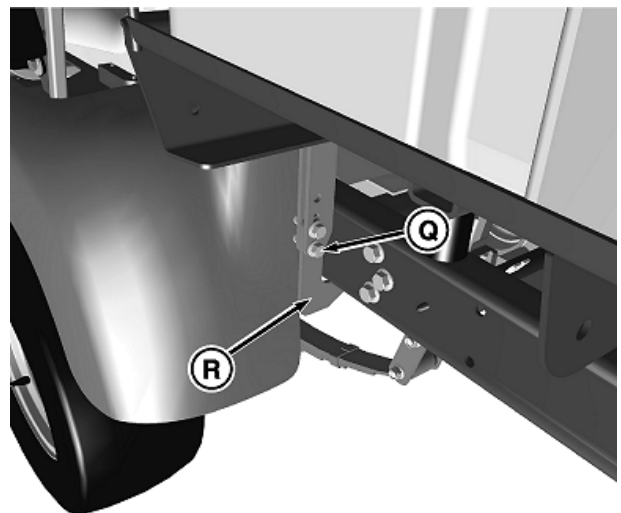
TCT006026—UN—19NOV12

10. フロントサポート (K) のスタンドを固定するクイックロックピン (J) を取り外し、フロントサポートスタンドを取り外します。フロントサポートスタンドは保管時にのみ使用し、噴霧作業中では取り付けないでください。
11. エンジンを動作させずキーをオフの位置にしたまま、作業機のリフトシリンダのレバーを押し下げて噴霧器をフレームの上まで下げます。
12. 油圧ラインを接続します。
13. リアの電気コネクタを接続します。



TCT006027—UN—19NOV12

14. 自動速度コントローラーの保管位置からピン (L) とばね座金を取り外します。コントローラー (M) をフロント側のグローブボックス (N) に移動し、ばね座金とピンで固定します。
15. ハーネス (O) を J 型クランプ (P) を通してオペレータコントロールの右側に取り回します。



TCT006028—UN—19NOV12

16. M10 ロックナットと M10x35 ボルト (Q) を取り外し、両方のフレームクランプ (R) をフレームレール

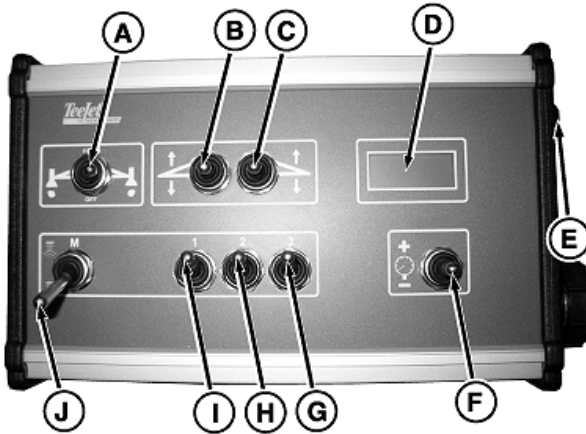
取り付け

の下まで回します。 ボルトとロックナットを再度
取り付けます。

コントロールの操作

デジタル型式の手動コントロールボックス

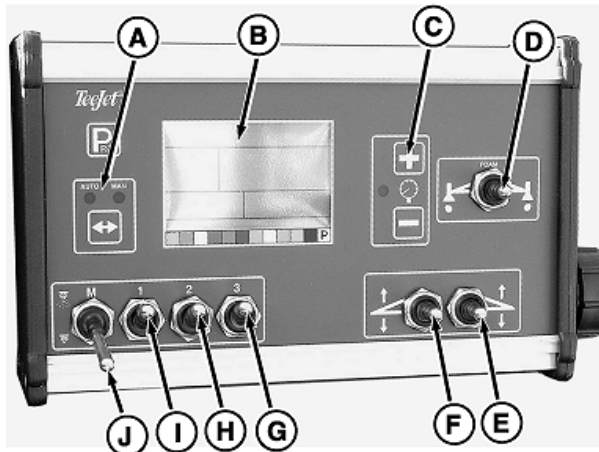
- H — 中央ブームセクションスイッチ
I — 左側ブームセクションスイッチ
J — ブームマスタースイッチ



TCT006030—UN—19NOV12

- A — マーカースイッチ
B — 左側ブームウィングスイッチ
C — 右側ブームウィングスイッチ
D — デジタル型式圧力表示画面
E — オン/オフスイッチ
F — 圧力制御
G — 右側ブームセクションスイッチ
H — 中央ブームセクションスイッチ
I — 左側ブームセクションスイッチ
J — ブームマスタースイッチ

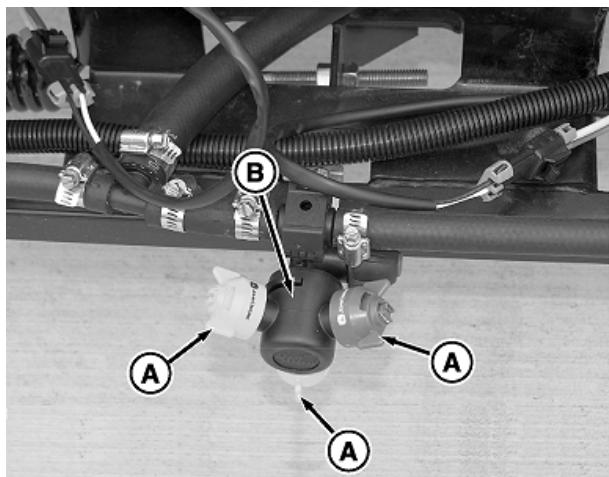
自動速度コントロールボックス



TCT006031—UN—19NOV12

- A — 自動/手動コントロール
B — デジタル表示画面
C — 圧力制御
D — マーカースイッチ
E — 右側ブームウィングスイッチ
F — 左側ブームウィングスイッチ
G — 右側ブームセクションスイッチ

スプレー先端の操作



TCT006032—UN—19NOV12

注記：作動（下向き）位置では、各スプレーチップを配置するデント位置が3つあります。推奨されていませんが、下向き位置の間の3つの追加デント位置に合わせることで、各スプレーのバルブを遮断することもできます。

1. スプレーチップのノズル (A) の色を選択し、スプレーチップアセンブリ (B) を回転させて、選択した色のものが下向きになるようにします。
2. ブームセクションの残りのスプレーチップについても、選択した色で同様の手順を繰り返します。

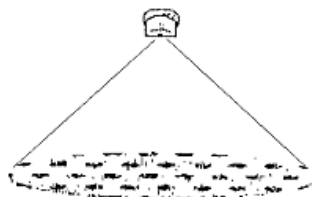
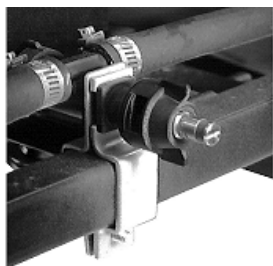
スプレーチップの選択

図のスプレーチップは参照例です。

実際の噴出速度は、スプレーチップの流量、作業機の数、オーバーラップおよび使用圧力から計算する必要があります。

スプレーチップと詳細な情報については、John Deere 取扱店にお問い合わせください。

フラッド型スプレーチップ

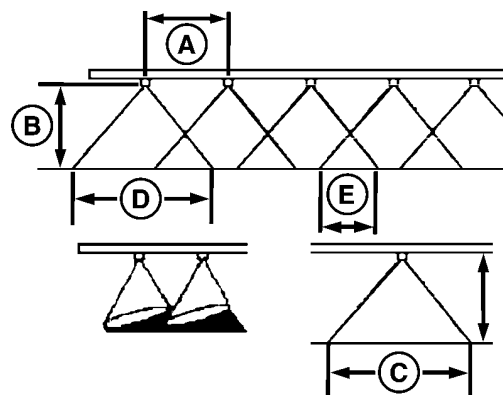


TCT006033—UN—19NOV12

一般的な散布パターンを右に図示します。

これは全面散布用の広角、フラットノズルです。適切な対象範囲を確保するには、100% オーバーラップの散布パターンを推奨します。

ノズル寸法



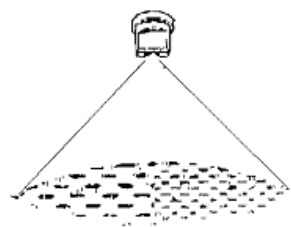
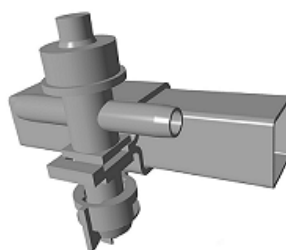
TCT012904—UN—16JUL15

- 間隔 (A) = 500 mm (19.7 in)
- 高さ (B) = 406 mm (16 in)**
- 散布角度 (C) = 115°~125°
- 散布範囲 (D) = 102 cm (40 in)
- オーバーラップ (E) = 100%

**噴霧器タンク満タンで測定。

ノズル高さを変更するには、ブーム高さを調整します。

超低ドリフト型スプレーチップ

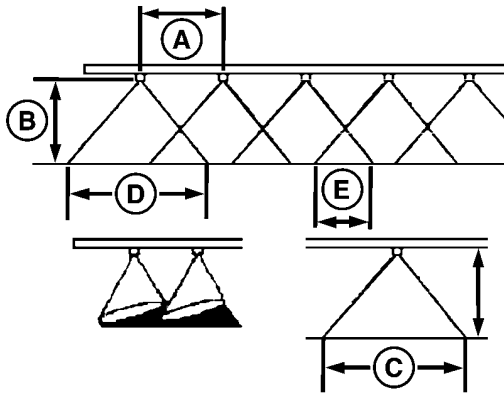


TCT006035—UN—19NOV12

一般的な散布パターンを右に図示します。

これは、デュアル空気吹き出しの広角、フラットファン型ノズルです。全面散布用の均一なパターンを提供します。

ノズル寸法



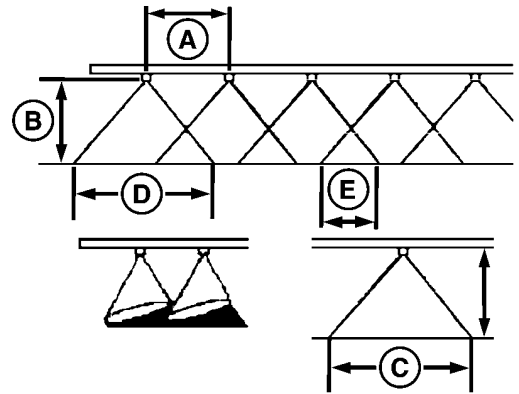
TCT012904—UN—16JUL15

- 間隔 (A) = 500 mm (19.7 in)
- 高さ (B) = 406 mm (16 in)**
- 散布角度 (C) = 120°
- 散布範囲 (D) = 102 cm (40 in)
- オーバーラップ (E) = 100%

**噴霧器タンク満タンで測定。

ノズル高さを変更するには、ブーム高さを調整します。

ノズル寸法



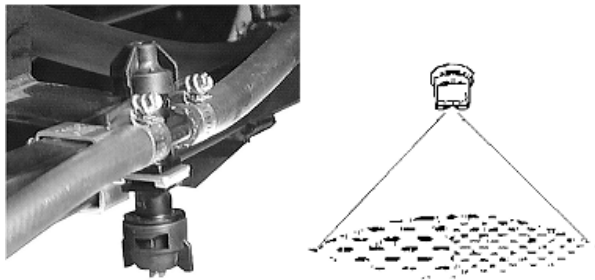
TCT012904—UN—16JUL15

- 間隔 (A) = 500 mm (19.7 in)
- 高さ (B) = 457～508 mm (18～20 in)**
- 散布角度 (C) = 80°～110°
- 散布範囲 (D) = 762 mm (30 in)
- オーバーラップ (E) = 50%

**噴霧器タンク満タンで測定。

ノズル高さを変更するには、ブーム高さを調整します。

フラットファン型スプレーチップ



TCT006036—UN—19NOV12

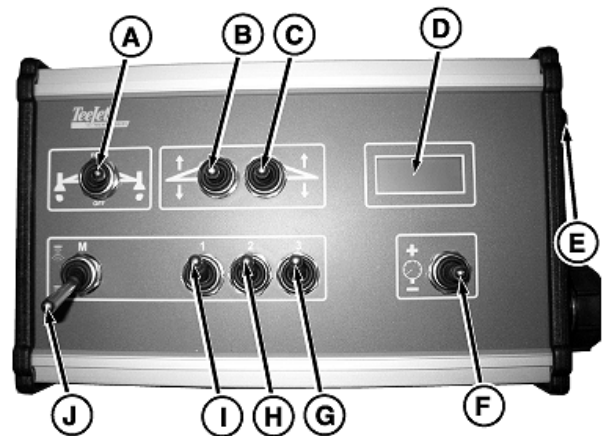
一般的な散布パターンを右に図示します。

このノズルは、各先端で精巧にテーパ状になった扇形の散布パターンを提供します。テーパ状の端部により、散布パターンのオーバーラップ部分が相殺され、均一な散布範囲が確保されます。

高圧力では、浸透が向上し、小さい粒子で精密な散布範囲が得られます。

低圧力では、液体粒子が大きくなり、ドリフト (液体粒子の浮遊) の危険が減少します。

デジタル型式の手動コントロールボックスの使用



TCT006030—UN—19NOV12

- A — マーカースイッチ
- B — 左側ブームウィングスイッチ
- C — 右側ブームウィングスイッチ
- D — デジタル型式圧力表示画面
- E — オン/オフスイッチ
- F — 圧力制御
- G — 右側ブームセクションスイッチ

H — 中央ブームセクションスイッチ
I — 左側ブームセクションスイッチ
J — ブームマスタースイッチ

- マーカースイッチ (A) : 「FOAM」スイッチによりフォームマーカーをコントロールします。スイッチを中央位置にすると、マーカーフォームを落としません。スイッチを右側の位置にすると、右側のスプレーブームの端にあるノズルからフォームを落とします。スイッチを左側の位置にすると、左側のスプレーブームの端にあるノズルからフォームを落とします。
- 左側ブームウィングスイッチ (B) : このスイッチで左側ブームウィングのリフトをコントロールします。スイッチを上にするると左側ブームウィングが上がります。スイッチを下にするると左側ブームウィングが下がります。
- 右側ブームウィングスイッチ (C) : このスイッチで右側ブームウィングのリフトをコントロールします。スイッチを上にするると右側ブームウィングが上がります。スイッチを下にするると右側ブームウィングが下がります。

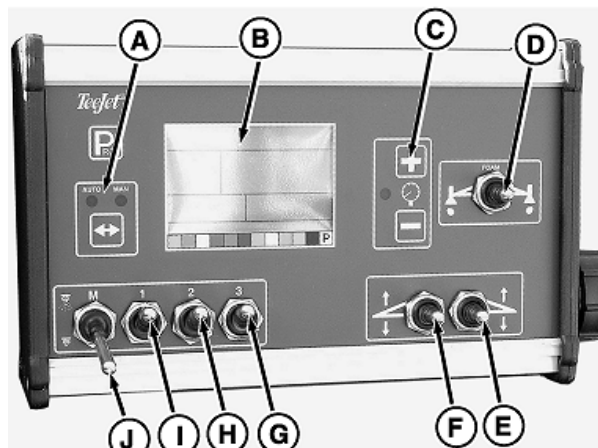
注記：デジタル形式の手動コントローラーでは圧力センサーの校正は不要です。

- デジタル形式圧力表示画面 (D) : 圧力表示画面は噴霧器の使用圧力を表示し、システムの性能のインジケータとして使用できます。噴霧器の動作中は、システムの性能は一定である必要があります。動作中の表示圧力が大きく変動する場合は、調査を要するシステムの障害が発生している可能性があります。(例：1つ以上のノズルが詰まると、通常よりも圧力の表示が増加します。重大な漏れやノズルの損失があると、通常よりも圧力が減少します。)
- オン/オフスイッチ (E) : このスイッチにより表示画面の電源のオンとオフを切り替えます。
- 圧力コントロール (F) : 「+」スイッチにより、ノズルに供給する流体の圧力をコントロールします。
- 右側ブームセクションスイッチ (G) : スイッチ「3」により右側ブームセクション絶縁バルブをコントロールします。右側ブームセクションのスプレーノズルに流れるようにするには、スイッチ 3 を上にします。(スイッチ M も上にします。) 右側ブームセクションのスプレーノズルに流れないようにするには、スイッチ 3 を下にするします。
- 中央ブームセクションスイッチ (H) : スイッチ「2」により中央ブームセクション絶縁バルブをコントロールします。中央ブームセクションのスプレーノズルに流れるようにするには、スイッチ 2 を上にします。(スイッチ M も上にします。) 中央ブームセクションのスプレーノズルに流れないようにするには、スイッチ 2 を下にするします。
- 左側ブームセクションスイッチ (I) : スイッチ「1」により左側ブームセクション絶縁バルブをコントロールします。左側ブームセクションのスプレーノズルに流れるようにするには、スイッチ 1 を上にします。(スイッチ M も上にします。) 左側ブームセク

ションのスプレーノズルに流れないようにするには、スイッチ 1 を下にするします。

- ブームマスタースイッチ (J) : スイッチ「M」によりすべてのブームセクションのバルブへの流れをコントロールします。すべてのブームセクション絶縁バルブに流れるようにするには、スイッチ M を上にします。すべてのブームセクション絶縁バルブに流れないようにするには、スイッチ M を下にするします。

自動速度コントロールボックスの使用



TCT006031—UN—19NOV12

- A — 自動/手動コントロール
- B — デジタル表示画面
- C — 圧力制御
- D — マーカースイッチ
- E — 右側ブームウィングスイッチ
- F — 左側ブームウィングスイッチ
- G — 右側ブームセクションスイッチ
- H — 中央ブームセクションスイッチ
- I — 左側ブームセクションスイッチ
- J — ブームマスタースイッチ

- 自動/手動コントロール (A) : 「Auto」と「Man」のタッチパッドスイッチにより、噴霧器の動作を自動制御と手動制御によるコントローラーの動作のいずれかに切り替えます。自動動作モードにすると、使用条件の変化に応じてコントローラーが自動的に一樣な使用量を維持します。手動動作モードでは、使用用途の要件に合わせて速度を一時的に増減できます。
- デジタル表示画面 (B) : デジタル表示画面では、噴霧器の使用圧力、流量、対地速度、およびその他の動作パラメータから選んで値を表示できます。これらの値で噴霧器のコントローラーの動作を設定し、使用中の動作を監視することができます。
- 圧力コントロール (C) : 「+」と「-」のタッチパッドスイッチにより、コントローラーの設定中または動作中にノズル圧力を変更します。+ スイッチを押すとシステムの圧力が増えます (システムの限度内)。- スイッチを押すとシステムの圧力が下がります (システムの限度内)。

- マーカースイッチ (D) : 「FOAM」スイッチによりフォームマーカーをコントロールします。スイッチを中央位置にすると、マーカーフォームを落としません。スイッチを右側の位置にすると、右側のスプレーブームの端にあるノズルからフォームを落とします。スイッチを左側の位置にすると、左側のスプレーブームの端にあるノズルからフォームを落とします。
- 右側ブームウィングスイッチ (E) : このスイッチで右側ブームウィングのリフトをコントロールします。スイッチを上にするすると右側ブームウィングが上がります。スイッチを下にするすると右側ブームウィングが下がります。
- 左側ブームウィングスイッチ (F) : このスイッチで左側ブームウィングのリフトをコントロールします。スイッチを上にするすると左側ブームウィングが上がります。スイッチを下にするすると左側ブームウィングが下がります。
- 右側ブームセクションスイッチ (G) : スイッチ「3」により右側ブームセクション絶縁バルブをコントロールします。右側ブームセクションのスプレーノズルに流れるようにするには、スイッチ 3 を上にします。(スイッチ M も上にします。) 右側ブームセクションのスプレーノズルに流れないようにするには、スイッチ 3 を下にします。
- 中央ブームセクションスイッチ (H) : スイッチ「2」により中央ブームセクション絶縁バルブをコントロールします。中央ブームセクションのスプレーノズルに流れるようにするには、スイッチ 2 を上にします。(スイッチ M も上にします。) 中央ブームセクションのスプレーノズルに流れないようにするには、スイッチ 2 を下にします。
- 左側ブームセクションスイッチ (I) : スイッチ「1」により左側ブームセクション絶縁バルブをコントロールします。左側ブームセクションのスプレーノズルに流れるようにするには、スイッチ 1 を上にします。(スイッチ M も上にします。) 左側ブームセクションのスプレーノズルに流れないようにするには、スイッチ 1 を下にします。
- ブームマスタースイッチ (J) : スイッチ「M」によりすべてのブームセクションのバルブへの流れをコントロールします。すべてのブームセクション絶縁バルブに流れるようにするには、スイッチ M を上にします。すべてのブームセクション絶縁バルブに流れないようにするには、スイッチ M を下にします。

面積／体積表示機能

マスターブームスイッチを「オン」にした状態では、コントローラーで散布面積と合計の散布体積を計測することができます。

- 面積カウンターにより作業した領域を計測することができます、これはプログラムしたブームセクションごとのチップの数とチップの間隔の値により変わります。

注記：体積カウンターはマスタースイッチを「オン」にしている間の流れを計測します。3つのブームをすべて「オフ」にするには、必ずマスタースイッチを「オフ」にしてください。各ブームのスイッチを「オフ」にしてマスタースイッチを「オン」のままにすると、コントローラーは流量計を通る流れの計測を続けます。

- 体積カウンターは流量計のパルスに基づいて計測します。
- コンソールの右下のエリアで、3秒ごとに2つの計測が切り替わります。
- カウンターまたは体積の計測値を消去するには、
 - a. マスターブームスイッチを「オフ」にします
 - b. 「Auto」または「Man」キーを3秒間押したままにします
 - c. コントローラーにフィールドカウンターを消去するかどうか尋ねるメッセージが表示されます。
 - d. 「+」または「-」キーで「Yes」または「No」を選びます。
 - e. Pro キーを押して変更内容を承認し、通常の動作モードに戻ります。

タンクの体積表示機能

コンソールでタンクに残っている体積をカウントダウンし、タンクの低レベル位置に達するとオペレータに警告することができます。

タンクの低レベル位置は、システム設定モードでオペレータによりプログラムできます。

- タンク内の体積をリセットするには、
 - a. マスタースイッチを「オフ」にします
 - b. 「+」と「-」キーを同時に押すと、タンク内体積インジケータが表示され数字が点滅します
 - c. 「+」または「-」キーで増分単位でタンク内の体積を現在の体積に合わせるか、「Auto」または「Manual」キーを押して最大タンク内体積にリセットします
 - d. 「Pro」ボタンを押して値を保存します
 - e. タンクに液体を追加するたびにこの操作を行ってください。

ブーストモード

コントローラーにより目標レートを10%の増分で上下にブーストすることができます。

ブーストアップ：

- システムが作動モードでマスタースイッチを「オン」にした状態では、「+」キーを押すと目標レートが10%増えます。さらに+キーを押すと目標レートが10%ずつ増えます。
- レートのブースト量は2秒間表示されます。システムがブーストモードの間は目標マークが点滅します。

- 目標使用レートを戻すには、- キーを押して 10% の増分で戻します。ただちに目標レートに戻すには、+ キーと - キーを同時に押します。

ブーストダウン：

- システムが作動モードでマスタースイッチを「オン」にした状態では、「-」キーを押すと目標レートが 10% 減ります。さらに - キーを押すと目標レートが 10% ずつ減ります。
- レートのブースト量は 2 秒間表示されます。システムがブーストモードの間は目標マークが点滅します。
- 目標使用レートを戻すには、+ キーを押して 10% の増分で戻します。ただちに目標レートに戻すには、+ キーと - キーを同時に押します。

センサーアラーム

- 使用量アラーム：コントローラーが目標使用レートと実際の使用レートの間で 10% 以上の差を検知すると、使用レートのウィンドウが点滅します。これによりオペレータに噴霧器の配管、動作、またはプログラミングの問題があることを知らせます。この機能を有効にすると音響警報が作動します。短いビープ音が 3 回鳴り、高い優先順位であることを示します。
- 速度無検出アラーム：このアラームはマスターブームスイッチが「オン」の時にのみ発生します。速度センサーからコントローラーへのパルスの受診が止まると、速度表示のトラクターのマークがディスプレイの上部で点滅します。この機能を有効にすると音響警報が作動します。一定のビープ音が鳴り、中程度の優先順位であることを示します。
- 流量無検出アラーム：このアラームはマスターブームスイッチが「オン」の時にのみ発生します。このアラームにより、流量計からコントローラーへのパルスの受診が止まったことを示します。コンソールの上部でタービンのマークが点滅します。この機能を有効にすると音響警報が作動します。一定のビープ音が鳴り、中程度の優先順位であることを示します。
- 圧力無検出アラーム：このアラームはマスターブームスイッチが「オン」の時にのみ発生します。このアラームにより、圧力トランスデューサが故障したか接続が失われたことを示します。この機能を有効にすると音響警報が作動します。一定のビープ音が鳴り、中程度の優先順位であることを示します。
- タンク内体積低下アラーム：タンク内体積がシステム設定モードで設定したタンク内体積の下限に達するとこのアラームが発生します。ディスプレイ画面のタンク内体積のマークが点滅します。

ユーザープログラム型チップ

自動速度コントローラーは以下のノズルに対応するようにあらかじめ設定されています。

- 橙色：0.38 L/min (0.1 gpm) (US ガロン/分)
- 緑色：0.57 L/min (0.15 gpm)
- 黄色：0.76 L/min (0.20 gpm)

- 青色：1.14 L/min (0.30 gpm)
- 赤色：1.51 L/min (0.40 gpm)
- 茶色：1.89 L/min (0.50 gpm)
- 灰色：2.27 L/min (0.60 gpm)
- 白色：3.03 L/min (0.80 gpm)
- 薄青色：3.79 L/min (1.00 gpm)
- 薄緑色：5.68 L/min (1.50 gpm)
- 黒色：7.57 L/min (2.00 gpm)

例えば、定格が 4.73 L/min (1.25 gpm) のノズル等、プリセットに適合しないノズルも使用することができます。このタイプのノズルはコントローラーに入力し、ユーザープログラム型チップ機能により使用します。

ユーザープログラム型チップを入力するには、アプリケーション設定モードに入ります。Pro キーを 3 回押し、ノズルのカラーバーの上にある三角形を点滅させます。+ または - キーでカラーバーの右側にある「P」の上の三角形を動かします。そして Pro キーを 4 回押し「P」の上のコントローラー画面の右下の数字を点滅させます。+ または - キーで使用したいノズルの定格の gpm 値を入力します。Pro キーを 3～30 秒の動作時間の間押し続けて保存します。

これで新しいノズルの定格が保存され、使用可能になります。

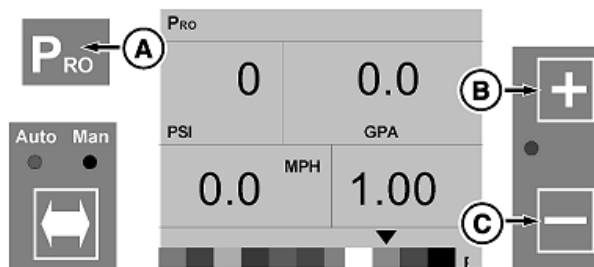
コントローラーの起動

コントローラーの起動：Pro キーを 1 回押しコンソールを起動します。コンソールの画面上部にソフトウェアのバージョンが表示された後、画面下部にコンソールのシリアル番号が表示されます。約 5 秒後、コンソールが作動モードになります。

コントローラーの停止

コントローラーの停止：コンソールを停止するには、マスターブームスイッチを「オフ」にした状態で - キーと Pro キーを同時に押してから離します。コンソールが新しい情報 (面積と体積のカウンター) をメモリに保存してから停止します。

自動レートコントロールボックスの構成



TCT006037—UN—19NOV12

1. 「Pro」ボタン (A) を 1 回押して、レートコントロールユニットを作動させます。
ソフトウェアバージョンが表示された後、画面は操作画面に進みます。次に、「Pro」ボタンを 3 秒間押し続けて、「System Setup (システムセットアップ)」モードに進みます。

2. 使用する単位を選択するには、「+」ボタン (B) または「-」ボタン (C) を押します。
既定値 = U.S. (gal./acre)
その他のオプション：

- trf : US gal/1000 sft
- INP : 英 gal./acre
- LM2 : L/sqm
- SI : メートル法 (L/min、l/ha、km/hr、cm)

注記：「+」または「-」ボタンを押して、すべての手順で値を変更します。いつでも、「Pro」ボタンを 3 秒押し続けて「System Setup (システムセットアップ)」を終了できます。値を承認して次のプログラミングステップに進むには、「Pro」ボタンを押します。

3. 「Pro」ボタンを押して、「Speed Sensor Calibration (速度センサーの校正)」に進みます。
既定値 = 980 US (gal./acre)
この手順の値は、91.44 m (300 ft) において速度センサーで生成されたパルス数です。既定値では、ProGator™ ダッシュの速度と自動レートコントロールユニットは一致する必要があります。一致しない場合、またはメートル法単位 (LM2 または SI) で散布している場合は、速度センサーをさらに校正する必要があります (「自動レートコントロールの校正」を参照してください)。

注記：次のプロセス中の噴霧を避けるため、個々のブームセクションスイッチを「オフ」の位置にします。

4. 「Pro」ボタンを押して、「Distance Counter (距離カウンター)」に進みます。
「Distance Counter (距離カウンター)」機能は校正手順ではありません。コントロールユニットが正しく作動するには、特定の値をここに入力しないでください。この機能は距離をフィート (メートル) で測定します。この機能を使用して自動速度校正を確認できます。
カウンターを作動させるには、マスターブームスイッチを「オン」にします。
カウンターを停止するには、マスターブームスイッチを「オフ」にします。
既存の距離値を消去するには、「Auto/Man (自動/手動)」ボタンを 3 秒間押し続けます。
自動速度校正を確認するには、車両を 91.44 m (300 ft) の同じコースで運転します。

5. 「Pro」ボタンを押して、「Pressure Sensor Installed (取り付け済みの圧力センサー)」の選択に進みます。
既定値 = YES

- このコントロールパッケージの標準機器として、デジタル圧力センサーが取り付けられています。
- 既定の設定を変更しないでください。

6. 「Pro」ボタンを押して、「Pressure Transducer Low-Pressure Calibration (圧力変換器の低圧校正)」(P rEF) に進みます。
既定値 = 4.00

- システムに取り付けられた圧力変換器のゼロ圧力設定を校正するために使用されます。
- このコントロールユニットで使用される圧力変換器の読み値は、4.00 mA でゼロ圧力です。

PTO がオフのときにコントロールユニットで圧力の読み値がゼロではない場合は、圧力センサーをさらに校正する必要があります (「自動レートコントロールの校正」を参照してください)。

7. 「Pro」ボタンを押して、「Pressure Transducer Maximum Rating (圧力変換器の最大定格)」(P Hi) に進みます。

- 既定値 = 2 500 kPa (25.0 bar) (363 psi)
- システムで圧力変換器最大定格を設定するために使用されます。
- 既定の設定を変更しないでください。

8. 「Pro」ボタンを押して、「Flow Sensor Installed (取り付け済みフローセンサー)」に進みます。
既定値 = YES

- このコントロールパッケージの標準機器として、流量計が取り付けられています。
- 既定の設定を変更しないでください。

9. 「Pro」ボタンを押して、「Flow Meter Pulses (流量計のパルス数)」に進みます。
既定値 = 79.0

- 流量計のステッカーに表示されている校正数に合わせてあらかじめプログラムされています。
- コントロールユニットに表示されている散布容積が実際の散布容積と一致しない場合は、流量計をさらに校正する必要があります。流量計を校正するには、「自動レートコントロールの校正」を参照してください。

10. 「Pro」ボタンを押して、「Flow Sensor Minimum Flow Capacity (フローセンサーの最小流量)」に進みます。

- 既定値 = 9.5 L/min (2.5 gal/min)
- 既定の設定を変更しないでください。
- 圧力センサーとフローセンサーの両方が取り付けられている場合、流量計の能力未滿に流量が低下すると、コントロールユニットはそれを検出して、圧力ベースの調整に自動的に切り替わります。流量が流量計で調整するための受け入れ可能なレベルに復帰すると、コントロールユニットは流量ベースの調整に自動的に切り替わります。
- コントローラでは 16D 流量計を使用しており、9.5 L/min (2.5 gal/min) で設定する必要があります。

11. 「Pro」ボタンを押して、流量ベースまたは圧力ベースの調整モードに進みます。
既定値 = FLO

- FLO：流量計は流量の制御に使用され、圧力変換器は実際の圧力の表示のみに使用されます。
- オプション：PRS：圧力変換器は流量の制御と実際の圧力の表示の両方に使用されます。
- 制御システムでは、流量計または圧力変換器のいずれかまたは両方を使用できます。この手順では、調整を制御するために使用されるセンサーの種類をコンソールに指定します。
- 「FLO」または「PRS」を選択するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します（「FLO」と「PRS」による調整）を参照してください。

12. ノズル間隔を設定するには、「Pro」ボタンを押します。

既定値 = 50 cm (20 in)

- ノズル間隔は in 単位で記録する必要があります（SI モードの場合は cm）。
- ノズル間隔を増減するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。

13. 「Pro」ボタンを押して、コントローラボックスで示されたブームセクション 1 のノズルチップの数を入力します。

既定値 = 4 (5.5 m (18 ft) または 6.4 m (21 ft) ブーム)

- 4.6 m (15 ft) ブームでは 2 に変更します。

14. 「Pro」ボタンを押して、コントローラボックスで示されたブームセクション 2 のノズルチップの数を入力します。

既定値 = 3 (5.5 m (18 ft) ブーム)

- 4.6 m (15 ft) または 6.4 m (21 ft) ブームの場合は、5 に変更します。

15. 「Pro」ボタンを押して、コントローラボックスで示されたブームセクション 3 のノズルチップの数を入力します。

既定値 = 4

- ブームセクション 1 と同様に設定します。

16. 「Pro」ボタンを押して、「Liquid Specific Gravity (Density) (液体の比重 (密度))」に進みます。

既定値 = NO

- 密度を入力する場合は、既定値を「YES」に変更します。
- 「Pro」ボタンを押した後に「YES」を選択すると、密度画面が表示されます。コンソールディスプレイの上部で「D」が点滅します。
- 既定値 1.00 は水の比重に相当し、ほとんどの殺虫剤散布に適正です。肥料など、一部の散布溶剤は異なる密度を持っています。このような溶剤を使用する場合は、既定値の代わりに新しい値を入力する必要があります。他の溶剤の比重を求めるには、次の表を使用してください。

溶剤のガロンあたりの重量	比重
3.18 kg (7.0 lb)	0.84
3.63 kg (8.0 lb)	0.96

溶剤のガロンあたりの重量	比重
3.78 kg (8.34 lb) (水)	1.00
4.54 kg (10 lb)	1.20
4.83 kg (10.65 lb) (28% N)	1.2
4.92 kg (10.85 lb) (30% N)	1.30
4.99 kg (11.0 lb)	1.32
5.44 kg (12.0 lb)	1.44
6.35 kg (14.0 lb)	1.68

ディスプレイの値を変更するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。値を承認して次の手順に進むには、「Pro」ボタンを押します。

- 使用する溶液が表に掲載されていない場合は、次の手順に従って比重を計算します。

比重 = 溶剤の重量 / 水の重量

17. 「Pro」ボタンを押して、「Pressure Regulating (圧力調整)」モードに進みます。

既定値 = thr

- 圧力調整バルブがブームコントロールバルブの供給ラインに配置されることを示しています。
- 既定の設定を変更しないでください。

18. 「Regulator Valve Capacity (レギュレータバルブ容量)」を設定するには、「Pro」ボタンを押します。

既定値 = 151 L/min (40 gal/min)

- 調整バルブの最大流量を gal./min で表します。
- 既定の設定を変更しないでください。

19. 「Pro」ボタンを押して、「Regulating Valve Speed - Coarse Adjustment (調整バルブ速度 - 粗調整)」に進みます。

既定値 = 5

- 種々の散布ニーズに合わせて、圧力調整バルブ速度を調整できます。運転条件では、調整バルブの高い応答速度や低い応答速度が必要な場合があります。粗調整では、コントロールユニットで大きい流量調整が必要な場合のバルブの速度を制御します。
- 調整バルブは、絞り位置 (thr) に配置されるため、粗調整速度 5 で始めて散布要件に合わせて数値を調整してください。応答時間を増減するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。
- 「0」～「19」の間の任意の数値を選択できます。「0」 = 低速、「19」 = 高速

20. 「Pro」ボタンを押して、「Regulating Valve Speed - Fine Adjustment (調整バルブ速度 - 微調整)」に進みます。

既定値 = 2

- 微調整では、コントロールユニットで小さい流量調整が必要な場合のバルブの速度を制御します。
- 微調整速度 2 で始めてください。ほとんどの散布で適切に機能します。散布作業中に数値を最適化できます。応答時間を増減するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。

- 「0」～「9」の間の任意の数値を選択できます。「0」 = 低速、「9」 = 高速
21. 「Pro」ボタンを押して、「Maximum Tank Volume (最大タンク容量)」に進みます。
既定値 = 757 L (200 gal)
- コントローラはタンクの最大内容量からタンク容量の残りゼロまで容量を追跡します。この設定で容積をモニタできます。
 - HD200 SelectSpray の既定の設定を変更しないでください。
 - HD300 SelectSpray では、300 gal に変更します。
 - コントロールユニットは、タンクが残りゼロ近くなるとオペレータに通知します。
 - 容積「0」では、タンク容量機能が無効になります。
 - 最大タンク容量を増減するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。
22. 「Pro」ボタンを押して、「Low Tank Indicator (タンク容量低下インジケータ)」に進みます。
既定値 = 94.6 L (25 gal)
- タンク容量が低レベルに達すると、コントローラは可視アラームをコントロールユニットに表示します。この設定では、コントロールユニットにアラームが表示される容量を選択できます。
 - このアラームが表示される液体レベルを増減するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。
 - 値「0」では、この機能は無効です。
23. 「Pro」ボタンを押して、「Communications (通信)」に進みます。
既定値 = 「No Connections (通信なし)」(コンピュータ、GPS など)
- この設定は変更しないでください。このコントロールユニットは外部との通信機能を備えていません。
24. 「Pro」ボタンを押して、「Simulated Low Speed (低速シミュレーション)」に進みます。
既定値 = 10 km/h (6 mph)
- 噴霧器を動かすことなく、コントロールユニットの機能と噴霧器を検証できます。
 - 実際に散布する前にテストする必要があります。
 - コントローラには、低対地速度シミュレーションと高対地速度シミュレーション機能があり、これら 2 つの機能を切り替えて速度の変化をシミュレーションすることができます。これにより、噴霧器を点検中にコンソールは正しく調整を実行できます。
 - マスタースイッチを ON にした通常の操作モード中に速度のシミュレーションを作動させるには、次の手順に従います。
「Pro」ボタンと「-」ボタンを押して、低速シミュレーションに進みます。
- 「Pro」ボタンと「+」ボタンを押して、高速シミュレーションに進みます。
- 噴霧器が動き始めてコントロールユニットが実際の速度センサーパルスを受信すると、対地速度シミュレーション機能は無効になります。
 - この設定を変更するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。
25. 「Pro」ボタンを押して、「Simulated High-Speed (高速シミュレーション)」に進みます。
既定値 = 15 km/h (9 mph)
- この設定を変更するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。
26. 「Pro」ボタンを押して、「Minimum Speed Alarm (最低速度アラーム)」に進みます。
既定値 = 3.2 km/hr (2 mph)
- コントローラはあらかじめプログラムされた速度でブームのセクションを自動的に停止して、減速時または旋回時にオペレータ機能を排除します。噴霧器速度が既定の最低速度を超えると、ブームセクションはまた回復します。
 - 値「0」では、この機能は無効です。
 - 手動モードでは、この機能は無効になります。
 - この設定を変更するには、「+」ボタンと「-」ボタンを使用します。
27. 「Pro」ボタンを押して、「High Pressure (高圧)」に進みます。
既定値 = 1 034 kPa (10.34 bar) (150 psi)
- 噴霧器で調整できる最高圧力を設定します。これにより、散布圧力が使用しているスプレーチップの推奨圧力範囲を超えないようにすることができます。
 - 設定は使用しているノズルに基づく必要があります。
28. 「Pro」ボタンを押して、「Memory Reload (メモリの再読み込み)」に進みます。
既定値 = No
- 今までに設定した全プログラミング値を復元するために使用します。コントローラは、SelectSpray™ シリーズの較正部品基準の仕様を使ってあらかじめプログラムされています。これにより、必要に応じてあらかじめプログラムされた値に戻すことができます。
 - 既定値を「Yes」に変更して「Pro」ボタンを押すと、既定の設定に戻ります。
29. 「Pro」ボタンを 3 秒間押して、「Escape and Save Changes (終了して変更を保存)」に進みます。

自動レートコントロール較正

ほとんどの場合、工場初期設定を使用すると自動レートコントロールは正確です。さらに較正する必要はありません。さらに較正する必要がある場合は、較正できる次の 3 つの構成部品があります。

速度センサー

ProGator™ ダッシュの速度とレートコントロールユニットの速度が一致しない場合にのみ、速度センサーを校正してください。校正するには、まず 91.44 m (300 ft) のコースを正確に設定します。ProGator™ をコースの始まりの近くに配置します。次に、「System Setup Mode (システムセットアップモード)」に入り、「Speed Sensor Calibration (速度センサーの校正)」画面に達するまで「Pro」キーを押します (既定値 3 710 L/m²(980 gal/acre))。「+」キーと「-」キーを 3 秒間同時に押し続けて、運転を開始します。コースの開始地点と交差したときに、「+」キーを押して校正を開始します。終了地点と交差したときに、「+」キーを押します。速度センサの新しい校正値が表示されます。新しい値を承認するには、「Pro」キーを押します。

自動速度校正プロセスは、噴霧器タンクに半分入っているときに実施する必要があります。

自動速度校正プロセスは 2 回以上実施し、校正数値の平均値を使用します。

校正値を求めたら、コンソールに入力する必要があります。

圧力センサー

注記：デジタル手動コントロールユニットでは、圧力センサーの校正は不要です。

噴霧器の PTO がオフのときにコントロールユニットの圧力の読み値がゼロではない場合にのみ、圧力センサーを校正してください。

注記：校正を完了するには、圧力センサーを配管システムから取り外すことが適切な場合があります。

校正するには、噴霧器の PTO がオフであり、システムに圧力がかかっていないことを確認してください。次に、「System Setup (システムセットアップ)」モードに入り、「Pressure Sensor Reference (圧力センサ参照)」画面に達するまで「Pro」キーを押します (既定値 4.00)。校正を開始するには、「+」キーと「-」キーを 3 秒間同時に押します。コントロールユニット画面の左下で、1~10 がカウントされます。カウンターが 10 に達すると、新しい校正数値が表示され、その数値は 4.00 +/- 0.20 である必要があります。新しい値を承認するには、「Pro」キーを押します。

流量計

コントロールユニットに表示されている合計散布量が実際の散布量と一致しない場合にのみ、流量計を校正する必要があります。注記：マスタースイッチが ON の場合、コントロールユニットはいつでも流量を計測します。特に輸送するためなど、3 つのブームすべてをオフにするときは、マスタースイッチをオフにしてフローパルスのカウントを停止してください。流量計を校正するには、「System Setup (システムセットアップ)」モードに入り、「Flow Meter calibration (流量計の校正)」画面に達するまで「Pro」キーを押します (既定値 79.0)。校正を開始するには、「+」キーと「-」キー

を 3 秒間同時に押します。校正数値がゼロに設定され、「CAL」がコントロールユニットに表示されます。PTO を接続し、「+」キーを押して校正を開始してブームのセクションをオンにします。既知の液量 (378.5 L (100 gal)) を散布します。既知の量を散布しているときに、コンソールはパルスをカウントします。既知の量を散布したら、マスタースイッチをオフにします。「Pro」キーを押します。散布された既知の量に値を調整するには、「+」キーと「-」キーを押します。次に、「Pro」キーを押すと、新しい校正数値が表示されます。新しい値を承認するには、「Pro」キーを 3 秒間押します。

自動流量計校正プロセスは 2 回以上実施し、校正数値の平均値を使用します。

校正値を求めたら、コンソールに入力する必要があります。

FLO および PRS による調整

TeeJet 自動速度コントローラーには、流量ベース (FLO) または圧力ベース (PRS) の 2 種類の方法で目標の散布量を得る機能があります。

FLO 調整モード

FLO 調整モードでは、コントローラーは流量計から入力信号を受信します。これによりコントローラーが圧力調整バルブを調整し、流量計のパルスに基づいた散布量を得ます。ProGator が加速や減速を行うと、調整バルブが適切な流量計のパルスを維持するように調整を行います。コントローラーに表示される圧力と散布量は、実際の圧力と散布量です。

PRS 調整モード

PRS 調整モードでは、コントローラーは圧力センサーから信号を受信し、流量計からの信号を無視します。アプリケーション設定モードから、コントローラーが任意の対地速度とノズルに基づいて圧力の目標値を判断します。コントローラーが圧力センサーから信号を受信し、圧力調整バルブを調整して目標の散布量を維持できるように適切な圧力を得ます。ProGator が加速や減速を行うと、調整バルブが適切なノズル圧力を維持するように調整を行います。コントローラーに表示される圧力は実際の使用圧力ですが、散布量は速度と圧力に基づく計算上の値です。

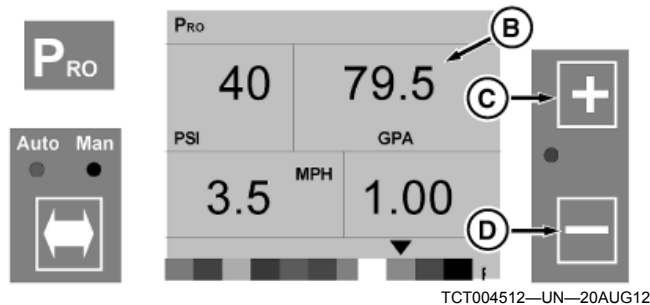
これらの調整モードはいずれも散布量の維持を目的とする点で同じです。目的を達するために使用するセンサーが違うだけです。スプレーする薬剤の比重が水に近い場合は、FLO と PRS のどちらでも正確な結果が得られます。しかしスプレーする薬剤の比重が水と異なる場合は、製品の密度を考慮しないと FLO モードで精度を維持することができません。FLO ベースで良好な調整を行うには、「自動速度コントロールボックスの設定」の指示に従って溶剤の比重をコントローラーに入力する必要があります。PRS モードでは、コントローラーに比重を入力して散布量を維持する必要はありません。

自動レートコントロールボックスでの散布率のプログラミング

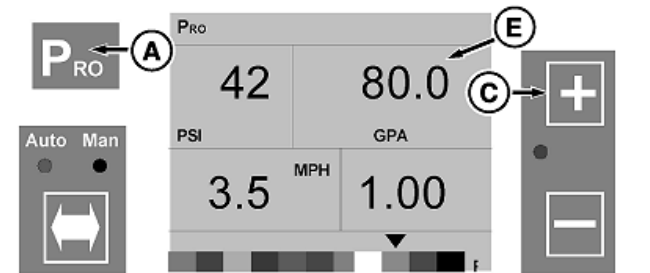


セットアップ

1. 「Pro」ボタン (A) を 2 回押してオペレータ画面を終了し、「Application Setup (アプリケーションセットアップ)」画面に進みます。



2. 画面で散布率 (B) が点滅し、変更可能であることが示されます。設定を変更するには、「+」ボタン (C) または「-」ボタン (D) を押して 0.01 区切りで調整します。

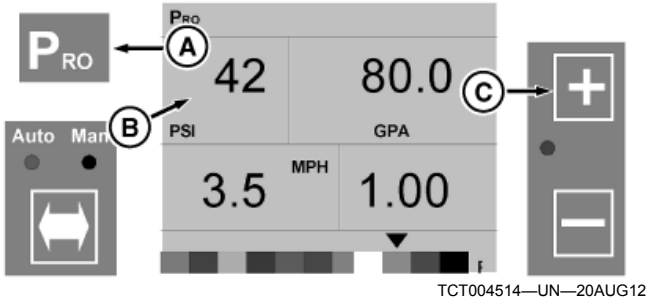


3. 「+」ボタン (C) を押して 950 L/ha (80 Gal./acre) (E) に変更します。

注記：残りの圧力、速度、ノズルの計算は自動的に行われます。したがって、散布率は適正です。ただし、これらの値を個別に調整することもできます。コントローラはこれらの数値を保存しませんが、散布率を確認し、適宜変更することができます。

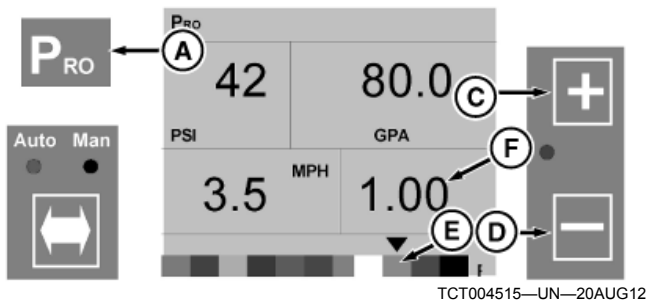
4. 新しい散布率を保存するには、「Pro」ボタン (A) を押します。「Pro」ボタンを押しても散布率は保存さ

れません。散布率を保存するには、「Pro」ボタン (A) を 2~3 秒間押し続けます。散布率が保存され、オペレータ画面に戻ります。散布率を保存する前に、散布率調整手順に従って設定を検証します。



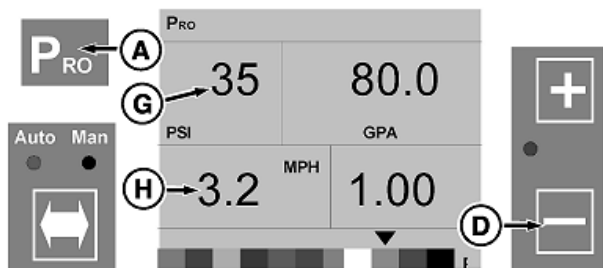
散布率の調整

1. 「Pro」ボタン (A) をもう一度押します。psi (B) の数値が点滅します。
2. 以下の手順に従って、散布率が適正であることを確認します。
 - a. 所定のノズルと圧力で必要な散布率を得るために必要な速度をコントロールユニットに計算させるには、圧力を変更します。
 - b. 所定のノズルと速度で必要な散布率を得るために必要な圧力をコントロールユニットに計算させるには、速度を変更します。
 - c. 所定のノズルで必要な散布率を得るために必要な圧力をコントロールユニットに計算させるには、ノズルの種類を変更します。



3. 「Pro」ボタン (A) と「+」(C) および「-」(D) ボタンを押して、圧力、速度、またはノズルの種類を個々に選択し、必要な目標散布率に達するために各カテゴリで実現する必要がある項目を確認します。前述の例では、薄青のノズル (E) と 3.76 L/min (1.00 gal/min) のチップ (F) を使用しています。

運転

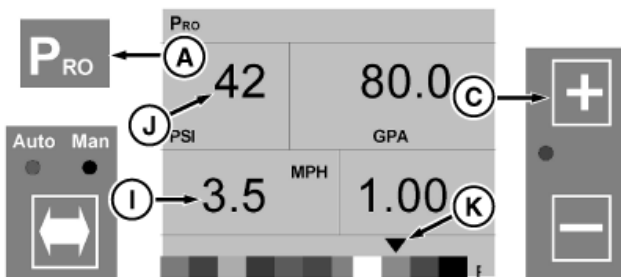


TCT006043—UN—20NOV12

- たとえば、290 kPa (2.90 bar) (42 psi) が圧力設定で高すぎると考えて、240 kPa (2.40 bar) (35 psi) に変更したい場合があります。kPa (bar) (psi) の値 (G) が点滅しているときに、「-」ボタン (D) を使用して、6.89 kPa (0.069 bar) (1 psi) 区切りで圧力を下げます。この調整を行っているときに速度 (H) も変わることがわかります。

- ここで、「Pro」ボタン (A) を押して機械の走行速度を変更できます。「Pro」ボタンを押した後、機械速度 (H) が点滅します。

注記： 3.76 L/min (1.00 gal/min) の薄青ノズル、散布圧力 240 kPa (2.40 bar) (35 psi) の場合、必要な圧力で正しい散布率により散布するには、機械が 5.15 km/h (3.2 mph) に減速することを確認しました。速度が上下すると、コントロールユニットがそれに合わせてシステム圧力を調整し、目標散布率を実現します。



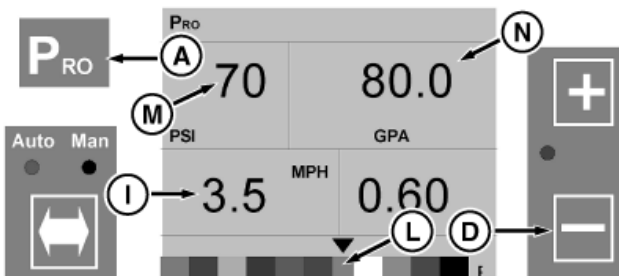
TCT004517—UN—20AUG12

- ここでは、速度を変更して圧力への影響を確認します。「+」(C) ボタンを押して速度を 5.63 km/h (3.5 mph) (I) に調整します。調整すると、圧力 (psi) が 290 kPa (2.90 bar) (42 psi) (J) に変化することがわかります。
- 「Pro」ボタン (A) を押してノズルの種類を変更できます。ノズル選択矢印 (K) が点滅していることがわかります。

注記： 3.76 L/min (1.00 gal/min) の薄青ノズル、走行速度 5.63 km/h (3.5 mph) の場合、必要な速度で正しい目標散布率により散布するには、圧力レギュレータで圧力を 290 kPa (2.90 bar) (42 psi) に調整する必要があることを確認しました。速度が上下すると、コントロールユニットがシステム圧力を調整して目標散布率を実現します。

- 5.63 km/h (3.5 mph) の速度が必要であるが、圧力が低すぎると考える場合は、次の 2 つのオプションがあります。
 - 散布率を変更する。
 - ノズルを変更する。

注記： セットアップ手順のノズル選択セットアップ部分では、散布対象に対してノズルが適切であるかを判定できます。



TCT004518—UN—20AUG12

- 「-」ボタン (D) を使用して、5.63 km/h (3.5 mph) (I) の速度でおおよそ 483 kPa (4.83 bar) (70 psi) (M) の圧力により散布するノズル (L) を見つけます。
- 「Pro」ボタン (A) をもう一度押して始めに戻り、散布率を調整できます。散布率 (N) が点滅します。

注記： 操作モードでは、実際の圧力の読み値、実際の速度の読み値、および実際の散布率が表示されます。このとき、入力は何も点滅していません。



TCT004519—UN—20AUG12

- 散布率を保存するには、「Pro」ボタン (A) を 2~3 秒間押し続けます。

噴霧器の操作

- オプションのエダクタキットを取り付けている場合は、作業前にすべてのバルブを閉じます。
- タンク後部のスリーウェイバルブのハンドルを回し、タンクの方に向けます。
- 噴霧器のタンクの半分を水で満たします。
- お使いのノズルの種類と散布量に応じた移動速度とシステム圧力を求めます。

5. ノブを反時計回りに回し、インラインストレーナバルブを閉じます。
6. 3 連ノズルの本体を回してスプレーチップを選びます。
7. ブームの高さを調整してスプレーチップの角度を合わせ、目標のスプレー角度に応じてノズルを合わせます。
8. ProGator のパーキングブレーキをかけ、ギアシフトレバーをニュートラル位置にしてエンジンを始動します。
9. ProGator の PTO を接続します。
10. 目標の対地速度と用途に応じたギア選択に基づいて、ProGator の RPM を設定します。
11. 攪拌機のバルブの黄色のノブを回してタンクの攪拌条件を調整します。
12. 自動速度コントロールボックスで散布量をプログラムします。
13. 自動速度コントロールボックスを手動コントロールに設定します。
14. コントロールボックスで、希望するboomセクションのスイッチをオンにします。
15. コントロールボックスのマスターboomスイッチをオンにします。
16. コントロールボックスの圧力コントロールでシステム圧力を設定します。
17. 絞り弁を調整します。
18. コントロールボックスのマスターboomスイッチをオフにします。
19. 手動またはオプションのエダクタによりタンクに薬剤を充填します。
20. タンクに必要な量の水を注入します。
21. 自動速度コントロールボックスを自動コントロールに設定します。
22. 適切な移動速度を維持します。
23. コントロールボックスのマスターboomスイッチをオンにします。

噴霧器の停止

1. マスターboomスイッチをオフにします。
2. ProGator の PTO を解除します。

ポンプの使用

噴霧器のポンプの寿命を長くするには、

- 構成部品が損傷するおそれがあるため、ポンプに薬剤や残留物を一昼夜残したままにしないでください。
- 乾燥させた状態でポンプを動作させないでください。

- 指示に従って噴霧器を適切に防寒対策してください。
- 噴霧器を芝地へのスプレー用途に使用しないでください。

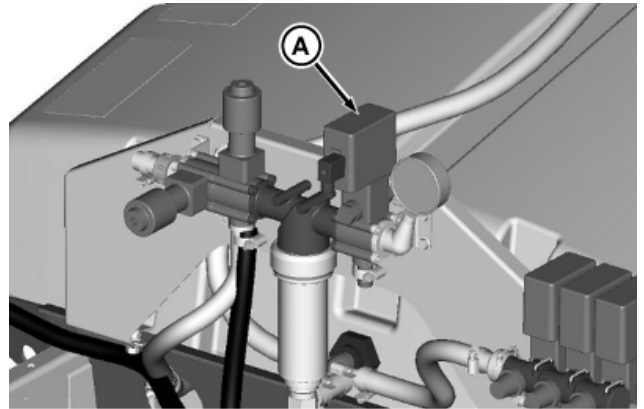
システム圧力の調整

正しい性能を得るには、使用するノズルに合わせてシステム圧力を調整する必要があります。

噴霧器を操作しているときは、システム圧力をダッシュコントロールパネルで読み取ります。

必要に応じてシステム圧力を調整します。

- 圧力を上げるには、制御パネルの圧力制御で「+」ボタンを押します。
- 圧力を下げるには、制御パネルの圧力制御で「-」ボタンを押します。



TCT012906—UN—17JUL15

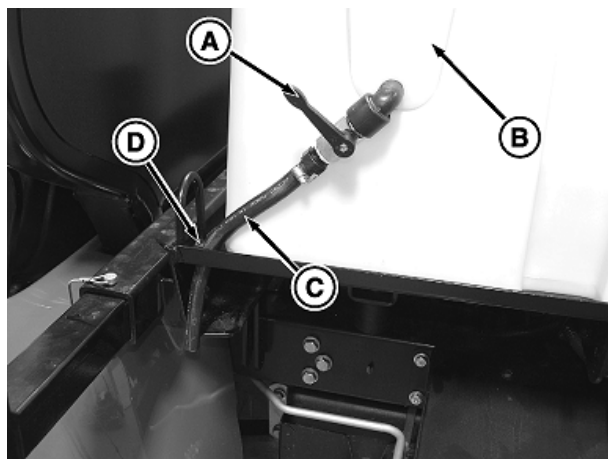
注記：圧力が表示されない場合、または圧力計の表示が不正確な場合は、圧力計のチューブやアイソレータのエア抜きを実施してください。

噴霧器の後部にある圧力調整弁 (A) には手を加えないでください。

個人用洗浄水タンクの使用

⚠ 注意：けがを防止してください。絶対に、リンス／洗浄目的で洗浄水タンクに浄水以外のものを充填しないでください。

この容器の水を飲まないでください。内部に含まれる液体は汚染されているかもしれません。



TCT006048—UN—20NOV12

1. 蛇口バルブ (A) を閉めます。
2. フィルカバーの周囲を清掃します。
3. フィルカバーを取り外します。
4. 洗浄水タンク (B) に上水を注入します。
5. フィルカバーを取り付けます。
6. ホース (C) を噴霧器フレームの穴 (D) から取り外します。
7. 蛇口バルブを開きます。
8. 必要に応じて洗い、蛇口バルブを閉めます。
9. ホースを噴霧器フレームの穴に戻します。

噴霧器のタンクの充填およびドレン

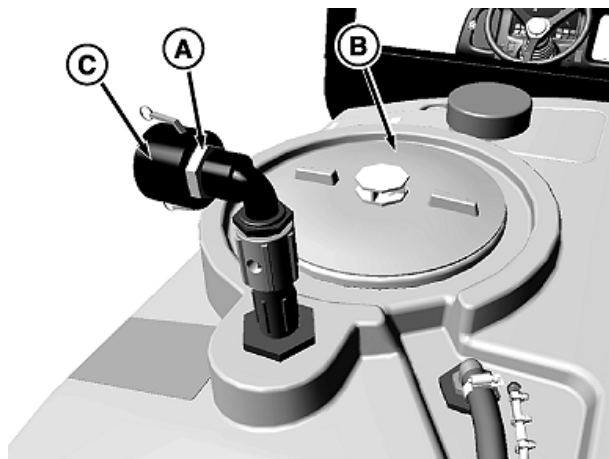
タンクへの注入

⚠ 注意： けがを防止してください! 薬剤は危険です。

オペレータや同伴者がけがをしないようにしてください。

- 薬剤の容器のラベルに記載されている混合および取り扱い時の指示事項を確認してください。 薬剤の取扱店が提供している製品安全データシート (MSDS) から、安全対策に関する正しい情報を得ることができます。
- 噴霧薬剤の取り扱い時や使用時は適切な衣類と安全装備を着用してください。
- 完全防護の衣服、保護ゴーグルおよびゴム手袋を着用してください。
- 薬剤を取り扱う場所では、喫煙、飲酒および食事をしないでください。
- タンクに注入する際は、水を入れるホースの端を薬剤の溶液に絶対に接触させないようにしてください。

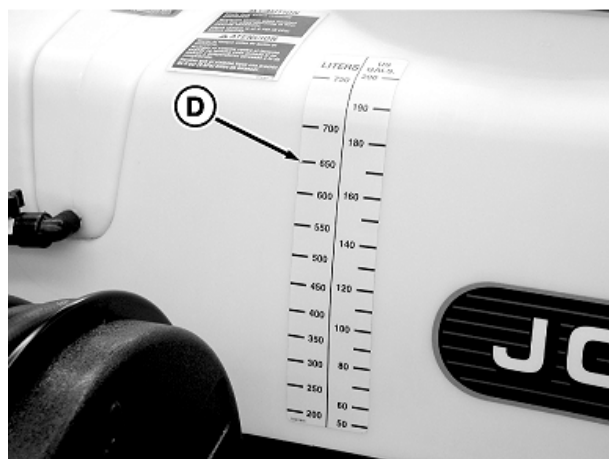
1. 機械を安全に駐車します。



TCT006049—UN—20NOV12

2. クイックカプラー (A) か注入ポート (B) を選んで注入します。
3. 注入部を清掃してタンクが汚染しないようにします。
4. クイックカプラーからダストキャップ (C) を取り外し、1 インチの継手に接続します。

注記： 容器のラベルに記載されている薬剤メーカーの混合に関する指示事項に従い、適切な比率と散布量を確認してください。



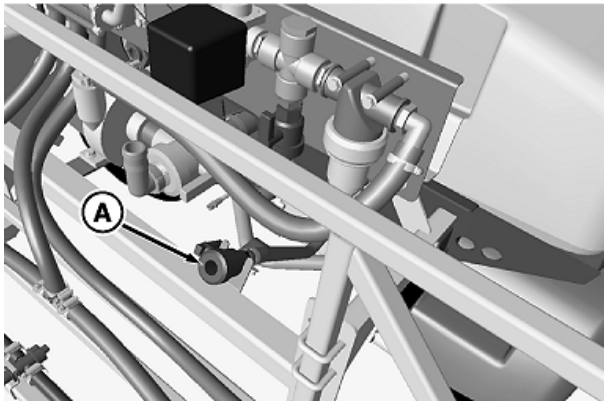
TCT006050—UN—20NOV12

5. 適切な量の薬剤をタンクに注入し、正常な水と混合します。 注入マーク (D) でおよその測定ができます。

タンクのドレン

重要：損傷を防止してください!

- 余った噴霧剤を適切に処理することは非常に重要です。水で希釈し、すでに作業した場所に散布してください。
 - 余りを雨水管や湖または川に絶対に廃棄しないでください。
1. 作業機を薬剤による損傷を受けない平坦な場所に安全に駐車します。雨水管、湖、または川の近くに駐車しないでください。
 2. 必要に応じてタンクの内部を洗い流してください。



TCT006051—UN—20NOV12

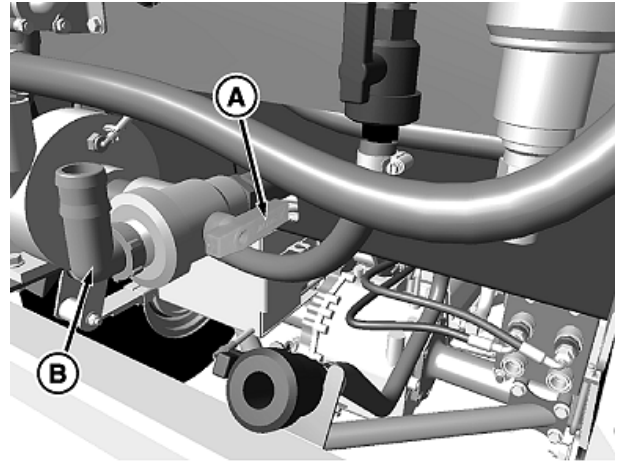
3. 噴霧器後部のドレンホース (A) の下に容器を置きます。
4. 固定クレードルからホースを取り外します。
5. バルブのハンドルを回してホースと合わせ、バルブを開きます。
6. タンクを完全にドレンします。

重要：損傷を防止してください! ポンプに損傷を与えないように注意してください。タンクのドレン後、ホースと直角になるようにバルブのハンドルを回します。

7. バルブを 90° 回してホースと直角にし、バルブを閉じます。
8. 固定クレードルにホースを固定します。
9. 水を適切に廃棄または洗い流します。

スリーウェイバルブの使用

重要：損傷を防止してください! 噴霧器を作動させる前に、図のようにスリーウェイボールバルブのハンドル (A) の矢印がタンクに向いていることを必ず確認してください。乾燥状態でポンプを作動させると、数分間で重大な損傷を受けます。



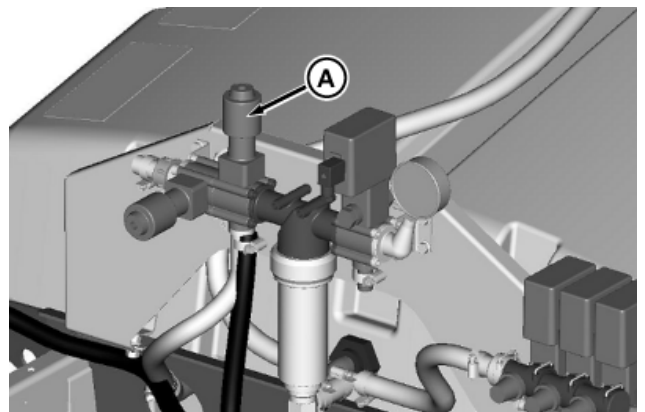
TCT006052—UN—20NOV12

- 噴霧器を作動させる際、ハンドル (A) の矢印をタンクに向けてタンクから液体を排出します。
- オプションの洗浄タンクが取り付けられている場合は、矢印がタンクと反対方向を向くようにハンドルを回し、ポート (B) から液体を排出します。
- スリーウェイバルブのハンドルを直角方向にすると、ポンプには液体が入りません。

攪拌機の使用

三方弁のハンドルが垂直位置にある場合、液体はポンプに流れません。

1. 噴霧器を停止します。
2. 機械を安全に駐車します。

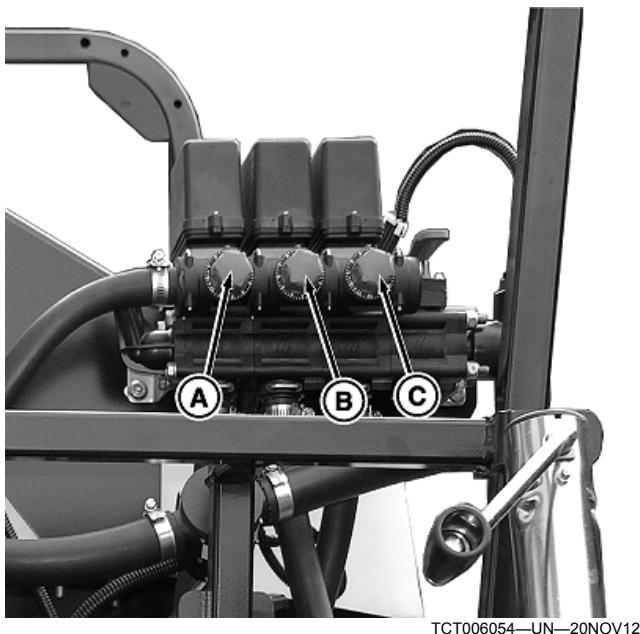


TCT012907—UN—17JUL15

3. 攪拌機バルブのノブ (A) を反時計回りに回して開き、必要な攪拌率を設定します。
4. 通常の散布作業を再開します。
5. 攪拌機を停止するには、次の手順に従います。
 - a. 噴霧器を停止します。
 - b. 機械を安全に駐車します。

- c. 攪拌機バルブのノブを閉位置まで時計回りに回します。

絞り弁の調整



TCT006054—UN—20NOV12

1. 3つの絞り弁のノブ、左 (A)、中央 (B)、および右 (C) を時計回りに回して「0」にするか、最後まで回します (オフの位置)。

注記：自動速度コントロールボックスを使用している場合は、これを手動コントロールに設定する必要があります。

2. 作業機の前部に移動し、3つのブームバルブをすべてオンにします (手動コントロールボックスまたは自動速度コントロールボックスを用いて)。
3. マスターコントロールをオンにします (手動コントロールボックスまたは自動速度コントロールボックスを用いて)。
4. コントロールボックスのスプレーの使用圧力をメモします。
5. フロント側のコントロールボックスで、右側ブームセクションをオフにします。

注記：ブームセクションをオフにすると、スプレーの使用圧力が上がります。

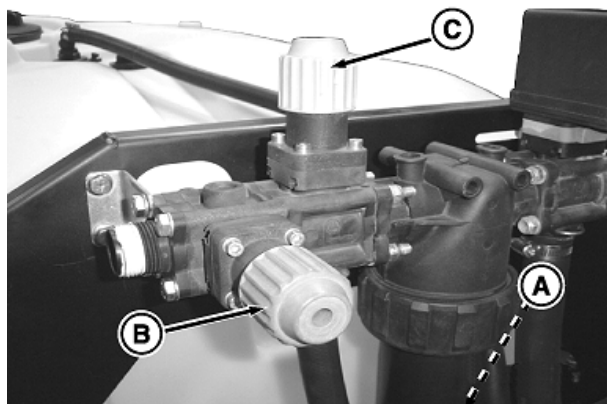
6. 右側の絞り弁のノブ (C) を調整し、先にメモしたスプレーの使用圧力にします。
7. フロント側のコントロールボックスで、右側ブームセクションをオンにし、中央のセクションをオフにします。
8. 中央の絞り弁のノブ (B) を調整し、先にメモしたスプレーの使用圧力にします。

9. フロント側のコントロールボックスで、中央ブームセクションをオンにし、左側のセクションをオフにします。
10. 左側の絞り弁のノブ (A) を調整し、先にメモしたスプレーの使用圧力にします。
11. 3つすべてのブームセクションをオフにしてオンにした後、いずれかのブームセクションをオフにしてスプレー圧を同じ値に維持することによって、各絞り弁の設定を短時間で確認することができます。

システム開放圧力の設定 (ダイアフラムポンプのみ)

システムがデッドヘッド状態になった場合は、ダイアフラムポンプキットに圧力リリーフバルブが付属しており、液体をタンクに戻す経路が提供されます。このバルブは、圧力が1 379 kPa (13.79 bar) (200 psi) に達したときにシステムを保護するように初期セットアップ時に設定する必要があります。

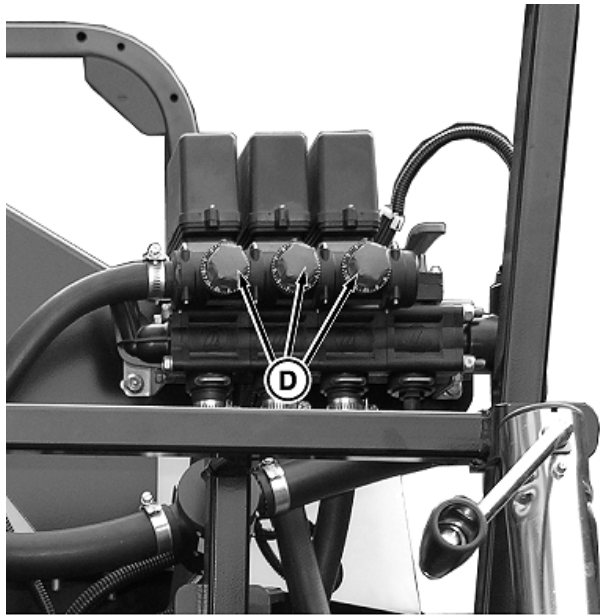
1. オプションのエダクターキットが取り付けられている場合は、操作する前にすべてのバルブを閉めます。
2. タンク後部の三方弁のハンドルを回してタンクに向けます。
3. 噴霧器タンクに半分まで水を入れます。



TCT006055—UN—20NOV12

4. ノブを反時計回りに回してインラインストレナーバルブ (A) を閉めます。
5. 圧力リリーフバルブの緑色のノブ (B) を反時計回りにいっぱいまで回して開きます。
6. 機械のパーキングブレーキをロックし、エンジンを始動します。
7. 機械の PTO を接続します。
8. 機械をフルエンジン回転数に設定します。
9. 攪拌機バルブの黄色のノブ (C) を時計回りにいっぱいまで回して閉めます。

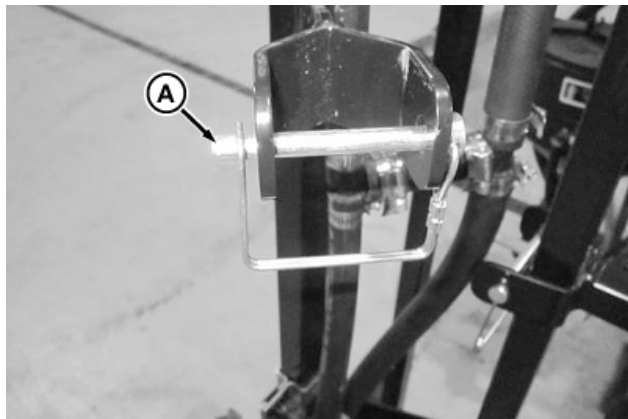
運転



TCT006056—UN—20NOV12

10. 3 つ絞り弁の赤色のノブ (D) をすべて時計回りにいっぱいまで回して閉めます。
11. 噴霧器後部の液体圧力計の読み値が 200 psi になるまで、圧力リリーフバルブの緑色のノブを時計回りに回します。
12. 以上で、ダイヤフラムポンプのシステムリリーフ圧力が設定されました。200 psi を超える噴霧器圧力が必要な場合を除き、さらに調整する必要はありません。

ブームウイングの使用



TCT012910—UN—17JUL15

1. スプリングロックピン (A) を取り外します。
2. ピンを保管チューブに入れてラッチをかけます。

重要： 損傷を防止してください。ブームウイングが上昇位置にある場合、噴霧器を操作しないでください。

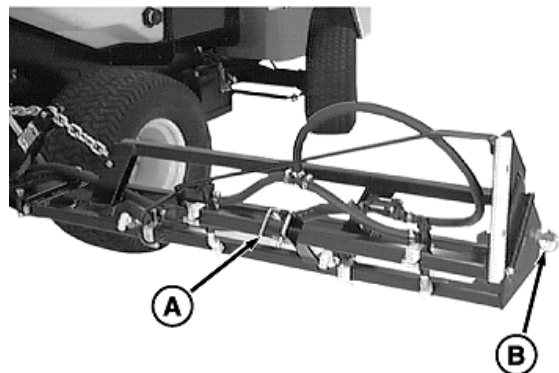
ブームウイングが上昇位置にあり、輸送の準備が整っている場合は、スプリングロックピンが取り付けられウイングが固定されていることを確認してください。

3. 左右のブームウイングスイッチを「RAISE (上昇)」または「LOWER (下降)」位置に動かして、必要な高さになるまでブームウイングを上昇または下降させます。

ブームウイング延長部の使用 (4.6/6.4 m (15/21 ft) ブームのみ)

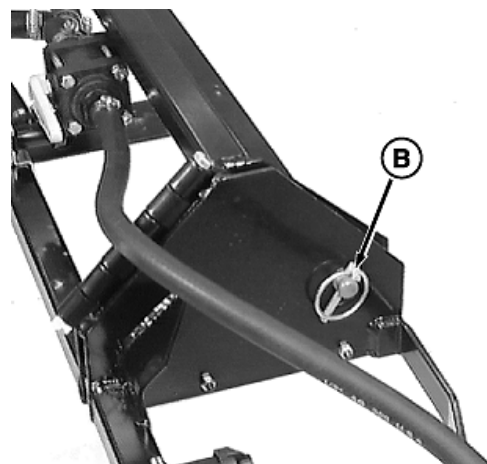
注記： 延長部を使用しない時は、元の位置にピンを固定しボールバルブを閉じます。

1. ブームウイングを作業位置まで下げます。



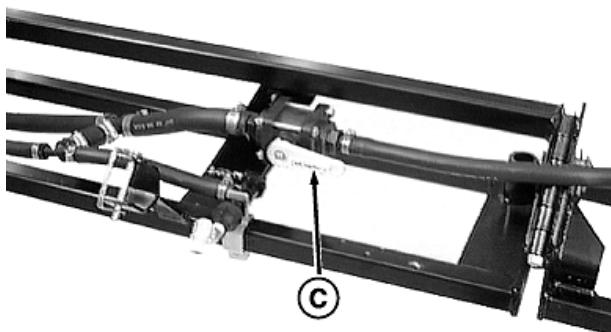
TCT006058—UN—20NOV12

2. ワイヤロックピン (A) とクイックロックピン (B) を取り外します。



TCT006059—UN—20NOV12

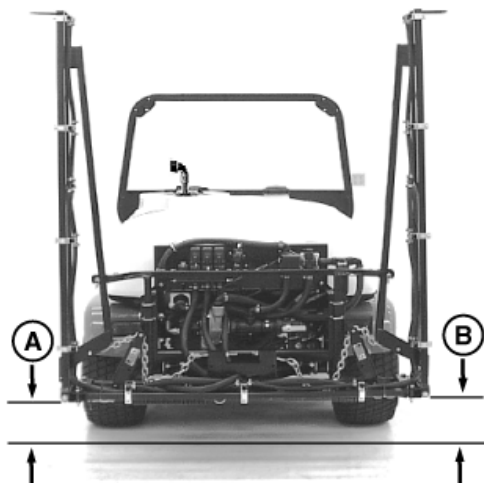
3. ブームウイング延長部を展開し、クイックロックピン (B) を取り付けます。



TCT006060—UN—20NOV12

4. ボールバルブのハンドル (C) を、
 - スプレー時は水平にして開きます。
 - ブームウイング延長部をたたんで使用しない時は垂直にして閉じます。
5. ワイヤロックピン (A) を取り付けます。

ブーム高さの調整



TCT004575—UN—15AUG12

ブームウイングのセクション (装備されている場合はエクステンションを含む) を展開できる十分な空間を備えた平坦で水平な面に機械を安全に駐車します。

注記：スプレーブームセンターセクションの高さ測定と水平調整は、機械への負荷を均一にするために両方のスプレーブームウイングを同じ位置 (上昇位置または下降位置) にして実施する必要があります。

ブームセンターセクションの調整

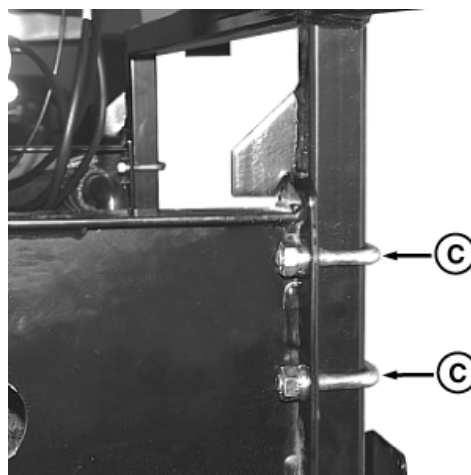
注記：高さ調整と水平調整を実施するには、噴霧器装置を機械に取り付ける必要があります。

ブームセンターセクションは、水平であり、スプレーノズルがノズル散布角と意図する散布に対応する正しい高さにあるように配置する必要があります。

1. タイヤ圧力を点検します。各タイヤの空気圧が等しく、取り付けられている噴霧器装置の仕様内であるように必要に応じて調整します。
2. 地面とノズルチップの間の距離を測定します。測定値 (A) と (B) は等しい必要があり、最小 50 cm (20 in) である必要があります。

注記：ブームアセンブリの概略重量は約 111 kg (245 lb) です。ブーム高さを調整するときは、適切な能力を備えた吊り上げ装置を使用して、ブームアセンブリを吊り上げて支持します。

3. 高さ調整が必要な場合は、ブームアセンブリを均一に支持します。センターブームの両側にホイストとスリングの組み合わせ、またはフロアジャッキを使用します。



TCT004576—UN—07AUG12

4. ブームセンターセクションをサポートフレームに固定している U ボルトクランプ 4 個 (C) を緩めます。
5. ブーム高さが必要な高さになり、ブームが水平になるまで、センターセクションの位置を調整します。
6. すべての U ボルトクランプを締め付けます。
7. ブームウイングセクションの調整に進みます。

ブームウィングレベルの調整



TCT004577—UN—15AUG12

注記：ブーム中央部の高さや水平の調整をしてから、ブームウィング部の確認または調整を行います。（「ブーム高さの調整」を参照。）

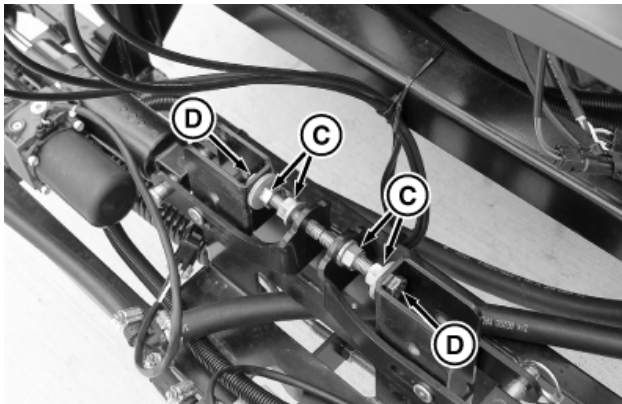
注記：スプレーブームのレベルの測定と調整は、両方のスプレーブームウィングを下げ、両方のウィング延長部（装備されている場合）を折りたたむか展開して、作業機の両側の負荷を均等にした状態で行う必要があります。

ブームウィングレベルの調整

ブームウィング部は水平にし、ウィング部のスプレーノズルの高さが両側と中央部で同じになるように調整する必要があります。

注記：下げた状態のスプレーブームウィングをリフトアクチュエータで支えないでください。測定と調整はスプレーブームウィングを完全に下げた状態で行い、拘束チェーンのみで最大ドロップをコントロールできるようにします。

1. ブームウィング部を完全に下げます。
2. 地面とブームウィング両端との間隔を測定します。（A）と（B）の測定値は同じで、ブーム中央部の測定値と同じになる必要があります。
3. 必要に応じてブームウィングレベルを調整し、ブームウィング（またはウィング延長部）の外側の端部がブーム中央部の高さと同じになるようにします。



TCT004578—UN—07AUG12

4. ブームウィングレベルを調整するには、
 - a. ナット（C）を緩めます。
 - b. ボルト（D）を締めるか緩めることにより、ブームウィングの端部を上下させます。
 - c. ナット（C）を完全に締めます。

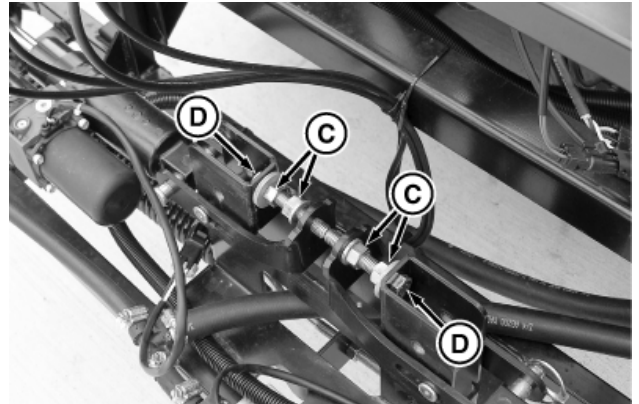
グラウンドホイール（装備されている場合）によるブームウィングのレベル調整

1. ブームのレベルを調整します。
2. ブームとウィングからロックピンを外し、完全に下げます。



TCT004579—UN—15AUG12

3. 地面とブームウィング両端との間隔を測定します。（A）と（B）の測定値は同じで、ブーム中央部の測定値と同じになる必要があります。
4. ブームウィングレベルを調整するには、



TCT004578—UN—07AUG12

- a. ナット（C）を緩めます。
- b. ボルト（D）を締めるか緩めることにより、ブームウィングの端部を上下させます。
- c. ナット（C）を完全に締めます。

噴霧器の上昇および下降

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」を参照してください。）
2. 「噴霧器のタンクの注入およびドレン」の指示事項に従い、タンクの最低注入マークより下までタンク

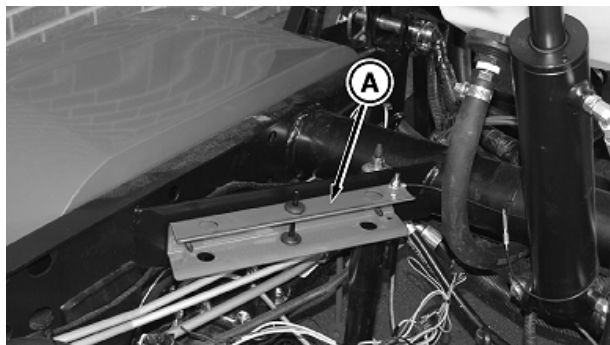
運転

内の液体をドレンしてからカーゴボックスを上げます。

3. お使いの ProGator のオペレータマニュアルの指示事項に従い、カーゴボックスを上下させます。

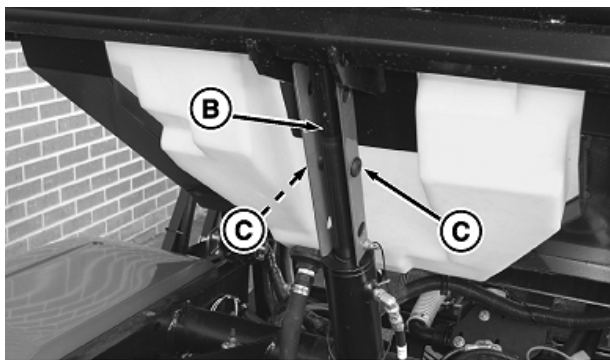
⚠ 注意：けがを防止してください! アタッチメントは重いため危険です。

- 上に上げたアタッチメントは、機械式ロックかその他の安全な方法で支持したうえで整備してください。
 - すべてのアタッチメントから材料を排出してから整備してください。
4. 作業機の安全支持具を取り付けてから整備します。



TCT006064—UN—20NOV12

- a. 右側の車両後部にある保管位置から安全支持具 (A) を取り外します。



TCT006065—UN—20NOV12

- b. リフトシリンダロッド (B) に安全支持具を取り付けます。リフトシリンダロッドが安全支持具のゴム製のグロメット (C) の間にあることを確認します。
5. 安全支持具を取り外してからカーゴボックスを下げます。

1. エダクタを取り付けている場合は輸送位置にしてください。
2. 余った薬剤を希釈して噴射することにより安全にタンクを空にします。
3. 機械を安全に駐車します。
4. 噴霧器のタンクを洗い流してドレンします。
5. 装備されている場合は、ブームウィングの延長部を折りたたんで固定します。
6. ブームウィングを上げて直立位置で固定します。
7. 必要に応じてブームに注意喚起の旗を付けます。

輸送

重要：損傷を防止してください! 輸送中は常に噴霧器の高さと幅に注意してください。

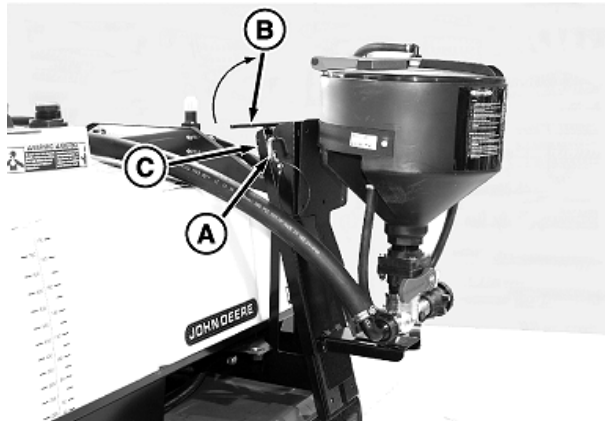
オプションの装置とキット

エダクタの使用

作業時および輸送時の位置

重要： 損傷を防止してください! エダクタを作業位置にしてから薬剤を注入してください。

エダクタを輸送位置に上げる前にエダクタから薬剤を空にしてください。



TCT006066—UN—20NOV12

1. ホッパーを作業位置へ動かすには、ラッチロックピン (A) を回して取り外します。
2. ラッチ (B) をホッパーの方へ引いてブラケット (C) から上昇台を外し、ホッパーへ注入する作業位置まで台を下げます。



TCT006067—UN—20NOV12

3. ラッチロックピン (A) を保管位置に取り付けます。
4. 作業機を移動または輸送する際は、上昇台を上 (輸送時) 位置に戻し、ブラケットにラッチを取り付けてロックピンで上昇位置に固定します。

始動

注記： 始動前にすべてのバルブを閉じてください。インレットバルブ (C)、ホッパーバルブのハンドル (D)、および洗浄タンクのバルブ (A) を閉じます。



TCT006068—UN—20NOV12

1. タンクの蓋 (A) を開け、システムの性能低下や汚染の原因になる異物がないか確認します。
2. 蓋を閉じ、カバーを時計回りに回してロックします。
3. インレットバルブのハンドル (C) を水平に回して、インレットラインにポンプの流れを誘導します。最低圧力は 2.1 bar (30 psi)、最高圧力は 10.4 bar (150 psi) にする必要があります。
4. ホッパーバルブのハンドル (D) を下に回して開きます。
5. カバーを反時計回りに回して蓋のロックを解除し、ゆっくり開きます。

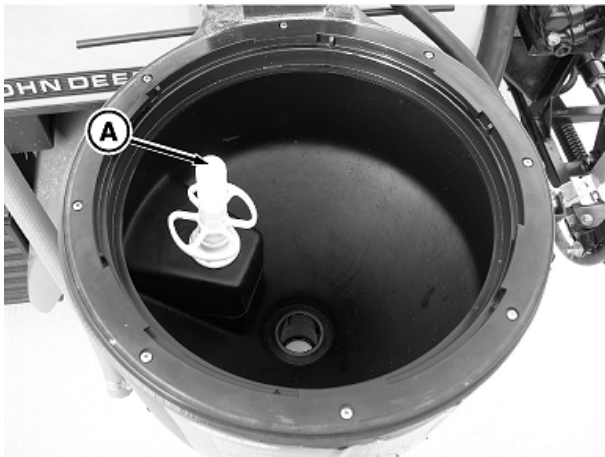
オプションの装置とキット

ホッパーへの薬剤の注入

⚠ 注意： けがを防止してください! 薬剤は危険です。

オペレータや同伴者がけがをしないようにしてください。

- 薬剤の容器のラベルに記載されている混合および取り扱い時の指示事項を確認してください。薬剤の取扱店が提供している製品安全データシート (MSDS) から、安全対策に関する正しい情報を得ることができます。
 - 噴霧薬剤の取り扱い時や使用時は適切な衣類と安全装備を着用してください。
 - 完全防護の衣服、保護ゴーグルおよびゴム手袋を着用してください。
 - 薬剤を取り扱う場所では、喫煙、飲酒および食事をしないでください。
 - タンクに注入する際は、水を入れるホースの端を薬剤の溶液に絶対に接触させないようにしてください。
1. タンクの蓋を開けます。ホッパーに必要な量の薬剤を注入します。ホッパーから薬剤の液体や粉末が飛び散らないように注意します。



TCT006069—UN—20NOV12

2. 必要に応じて、空の薬剤容器を洗浄します。容器の開口部を容器洗浄バルブ (A) の上に取り付け、下に押します。これにより洗浄バルブが作動し容器を洗浄します。
3. ホッパーを洗い流します。蓋を閉じ、カバーを時計回りに回してロックします。ホッパータンクの洗浄バルブ (赤色のハンドル) の安全ロックバンドを外し、20 秒間オンにします。ボールバルブを開じ、ロックバンドをロック位置に戻します。
4. 蓋を開けて薬剤の残留物がないか確認します。必要な場合、繰り返します。
5. ホッパーのバルブを閉じます。

オプションのサクションランスによる薬剤の注入

注記： ランスによる吸込はエダクタの圧力と流量によります。最良の結果を得るために、150 psi の最高圧力を使用してください。

1. ランス本体を O リングとともにエダクタに挿入し、O リングをシールします。
2. ランスの自由端でバッグまたは容器を突き刺し、粉末または液体の薬剤を吸引します。
3. ランスを洗い流します。ランスの端部を清浄な水入りの容器に入れ、ランスアセンブリを洗い流します。
4. エダクタからランスの本体を外し、残りの液体をホッパーにドレンします。
5. ホッパーのナイフバルブを閉じます。インレットボールバルブをオフにします。

停止

1. 以下の点を確認してください。
 - すべてのバルブを閉じてください。最初にホッパーのバルブを閉じてください。
 - 薬剤の残留物を除去してください。
 - ホッパーの蓋を閉じ、カバーを時計回りに回してロックしてください。
2. ポンプの流れを通常の動作に戻します。

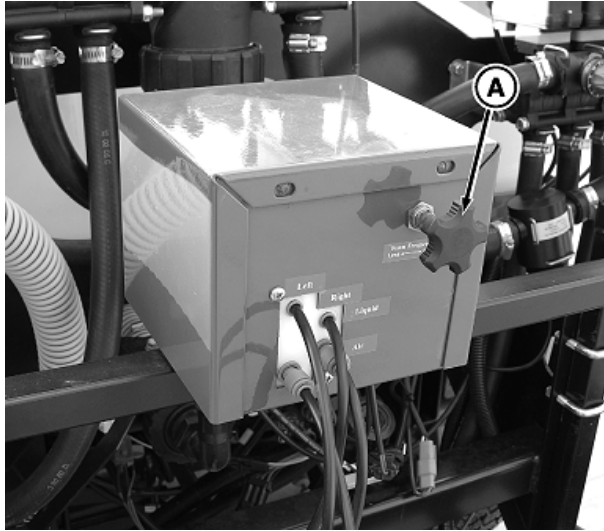
フォームマーカの使用

フォームマーカによる作業

1. フォームマーカのタンクに溶剤を準備します。
2. 装備されている場合は、左右のブームウィングと延長部を下げます。
3. エンジンを動作させた状態で、コントロールボックスのフォームマーカスイッチを「LEFT」または「RIGHT」の位置にします。選択した側のフォームノズルから泡が出ます。
4. マーキング完了後、フォームマーカスイッチをオフにします。

オプションの装置とキット

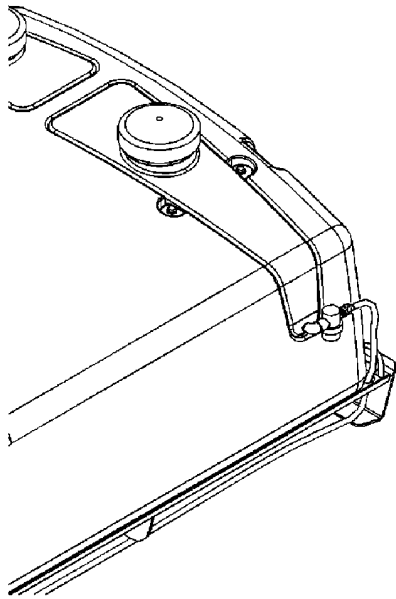
フォームマーカの調整



TCT006070—UN—20NOV12

ノブ (A) で空気と液体の混合比 (泡の濃度) を調整します。この混合比により下に落とすフォームマークのサイズが決まります。

フォームマーカの溶剤の準備



TCT006071—UN—27NOV12

濃度の選択

必ず高品質の濃度条件のフォームを使用してください。低品質の濃度条件のフォームが多く市販されていますので注意してください。任意の濃度条件では、条件によって適合しない場合があります。推奨条件については、John Deere 取扱店にお問い合わせください。

溶剤の混合

注記：溶剤を強く混合しすぎると、泡が固くなる場合があります。泡の質は良いように見えますが、泡の量が少なくなりマーカが停止したように見えます。この場合は水で希釈してください。

溶剤を混合する際は以下のガイドラインに従ってください。

- 必ず製品のラベルに記載されている指示に従ってください。
- 必ず清浄な水を使用してください。水のミネラル成分が多い場合は、水質調整剤を加えることを推奨します。
- 濃縮液に水を追加するのではなく、必ず水に濃縮液を追加してください。
- ホースでフォームマーカのタンクに水を追加する場合は、ホースの先を液面の下に入れ、タンク内で攪拌や泡の発生が起こらないようにしてください。
- 泡が水っぽい場合は、濃縮液を追加するか水質調整剤が必要です。実験を通してご使用の用途に適切な混合比を決定してください。

手動式および電気式ホースリールの使用

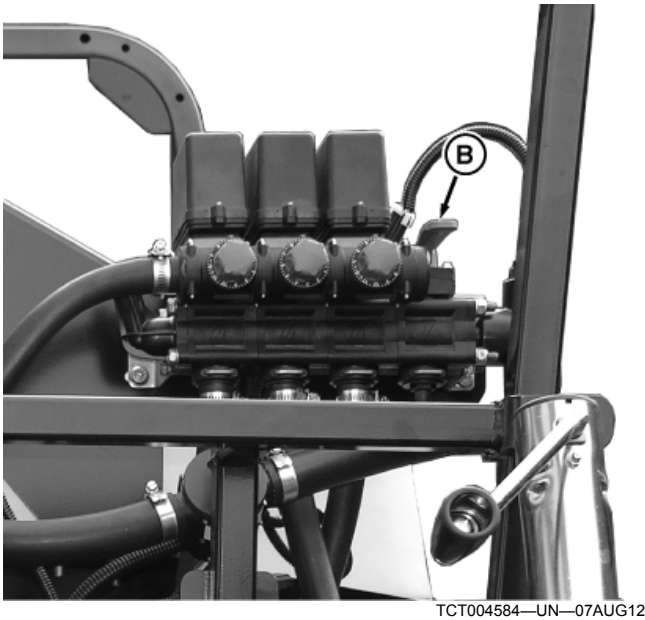
1. ギアシフトレバーをニュートラルにして作業機を安全に駐車します。
2. ブームマスタースイッチをオフの位置に下げます。



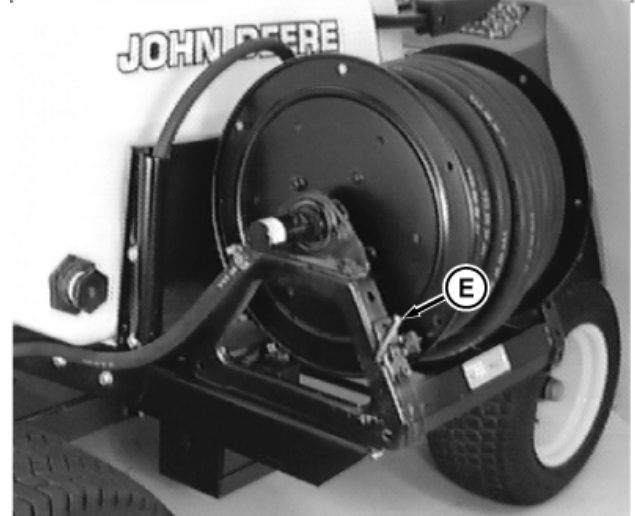
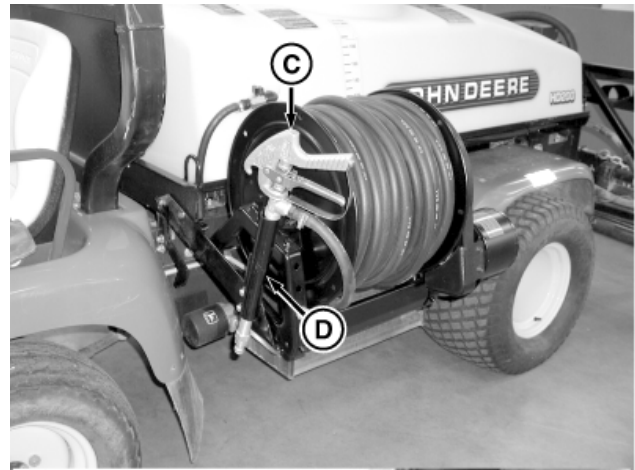
TCT004583—UN—07AUG12

3. 作業機の PTO コントロールレバー (A) を動かして噴霧器のポンプを作動させます。
4. オプションのスロットルまたはガバナーコントロールが装備されている場合は、これを使用して作業機の RPM を設定します。必要に応じて、コントロールパネルの圧力スイッチでシステム圧力を調整します。
5. エンジンを作動させたまま作業機の接続を外します。

オプションの装置とキット



6. 噴霧器後部のホースリールのバルブのレバー (B) をオンの位置にします。
- オンの位置：レバーを上げると、ホースリールへの液体の供給がオンになります。
 - オフの位置 (図の場合)：レバーを下げると、ホースリールへの液体の供給がオフになります。



上図は電気式ホースリール、下図は手動式ホースリール

7. 保管チューブ (D) からハンドガン (C) を取り外します。
8. リールから必要な長さのホースを出します。
- 手動式ホースリール：リールロック (E) を引き出して「UNLOCKED」の位置 (図示) に動かし、リールが自由に回るようにします。リールからホースを引き出します。
 - 電気式ホースリール：リールからホースを引き出します。

洗浄タンクの使用

洗浄タンクへの注入

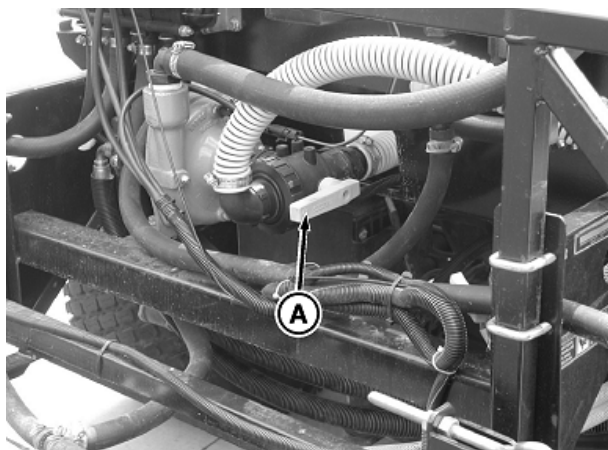
1. スリーウェイバルブのハンドルが垂直方向であることを確認します。
2. 洗浄タンクを清浄な水で満たします。

操作

1. 作業機を傾斜地ではなく水平な場所に止めます。
2. ギアシフトレバーを「NEUTRAL」に入れます。

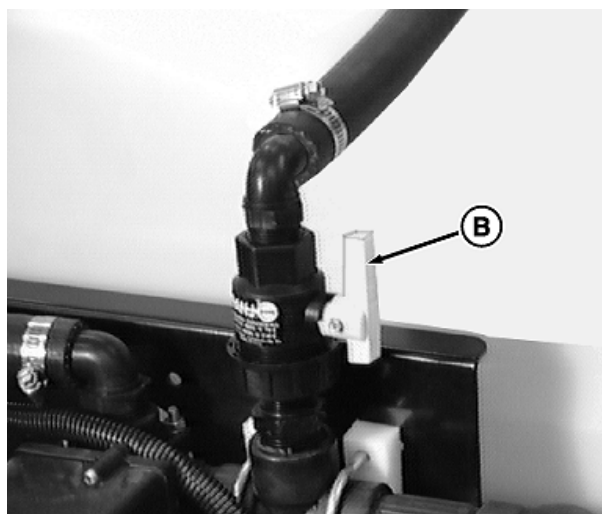
オプションの装置とキット

3. 作業機のパーキングブレーキをロックします。



TCT006074—UN—20NOV12

4. スリーウェイバルブのハンドルをリアの位置 (A) に動かします。この位置にすると洗浄タンクからの水がポンプのインレットに流れます。



TCT006075—UN—20NOV12

5. ボールバルブのハンドル (B) を開きます。
- 「開」位置：ボールバルブのハンドルを垂直方向にすると、圧力を持つ洗浄水が噴霧器のメインタンク内にあるタンク洗浄機に流れます。
 - 「閉」位置：ボールバルブのハンドルを水平方向にすると、洗浄水は流れません。
6. PTO を接続してポンプを始動します。
7. 必要なだけポンプを動作させます。乾燥状態でポンプを動作させないでください。清浄な水をすべて使った後は、PTO の接続を外してポンプを止めます。

整備

整備間隔：標準の装備

使用の前に

- インラインストレーナを点検し清掃してください。
- サクショストレーナを点検し清掃してください (装備されている場合)。
- 作業機の作動流体を点検してください。
- 噴霧器のタンクに損傷やごみがないか点検してください。
- 接続部に漏れがないか点検してください。
- 噴霧器のタンクの中身を点検してください。

使用の後に

- タンク、ブームのライン、ノズル、およびホースリール (装備されている場合) をドレンし洗浄してください。

必要に応じて

- ブームウィングのフレキシブルジョイントのスプリングのテンションを調整してください。
- 個人用洗浄タンクのカバーのベント部を点検し清掃してください。

1 年

- ブームウィングのピボットジョイントを潤滑してください。
- ダイヤフラムポンプ：ダイヤフラムとオイルを交換してください。
- ノズルを点検し交換してください。

整備間隔：オプションの装備

使用の後に

- 薬剤エダクタをドレンし洗い流してください。

必要に応じて

- フォームマーカのタンクのアウトレットストレーナを清掃してください。
- フォームマーカのタンクのカバーのベント部を点検し清掃してください。
- 手動式ホースリールのテンションブレーキ部を潤滑してください。
- ジャッキスタンドを潤滑してください。

25 時間ごと

- グラウンドホイールを潤滑してください。

50 時間ごと

- 圧縮空気フォームマーカのキャビネットを清掃してください。
- ホースリールの旋回フィッティングを潤滑してください。

1 年

- フォームマーカのポンプのチューブまたはホースを交換してください。

部品

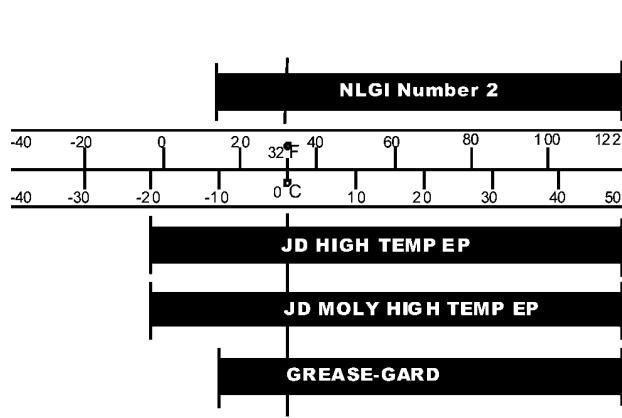
John Deere 取扱店から入手可能な John Deere の高品質部品および潤滑剤をお勧めします。

部品を注文される場合、John Deere 取扱店はお客様の機械やアタッチメントのシリアル番号や製品識別番号を必要とします。これらの番号は、このマニュアルの「製品識別」セクションに記録した番号です。

整備部品のオンライン注文

インターネット経由の部品の注文と情報については、<http://JDParts.deere.com> にアクセスしてください。

グリース



TCT006076—UN—07DEC12

整備間隔中に予想される気温の範囲と、NLGI ちょう度に基づいたグリースを使用してください。

次のグリースをお勧めします。

- John Deere 製 Moly 高温用 EP グリース
- John Deere 製高温用 EP グリース
- John Deere GREASE-GARD™

以下の条件に適合する他のグリースも使用できます。

- 3~5 パーセントの二硫化モリブデンを含む SAE 汎用 EP グリース
- SAE 汎用 EP グリース
- MIL 規格 MIL-G-10924C に適合するグリースは、寒冷地用グリースとして使用可能です。

噴霧器の清掃

噴霧器使用後は毎回、以下の手順を行ってください。

重要： 損傷を防止してください。噴霧器は、毎回、使用後すぐに空にして、清掃してください。これを実施しないと、薬剤が乾燥したり、ライン内で濃縮されたりして、ポンプや他の構成部品が詰まる場合があります。

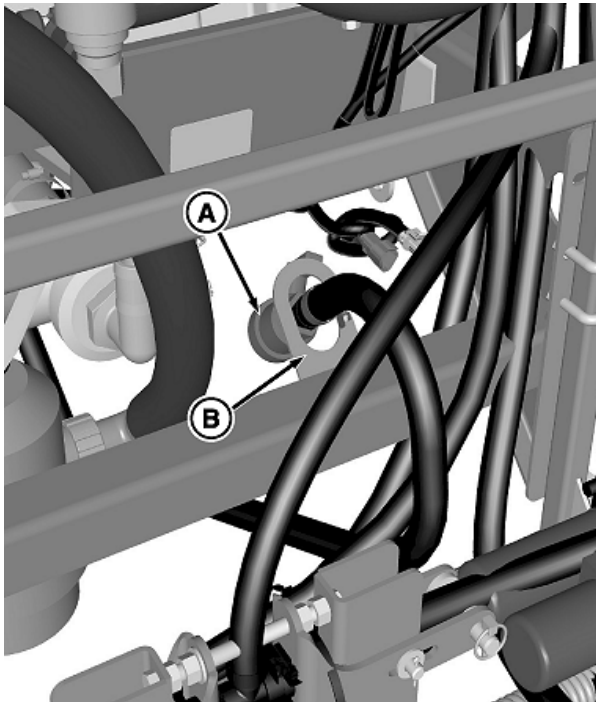
™GREASE-GARD は Deere & Company の商標です。

整備

1. 機械を停止し、マスターブームスイッチとすべてのブームコントロールスイッチをオフにします。パーキングブレーキをロックし、レンジセクターをニュートラル位置にし、エンジンを停止します。

⚠ 注意： けがを防止してください。薬剤は危険な場合があります。オペレータや近くにいる人のけがを防止するため、次の手順に従ってください。

- 混合や取り扱いの指示については、薬剤容器ラベルをお読みください。製品安全データシート (MSDS) が薬剤販売店から提供されており、正しい安全情報が掲載されています。
- 散布薬剤の取り扱いや散布時は正しい服と安全器具を着用してください。
- 完全に覆われる服、保護ゴーグル、ゴム手袋を着用してください。
- 薬剤の近くでの喫煙、飲酒、食事はすべて禁止してください。
- タンクに充填するときは、絶対に水ホースの端部を薬剤混合液と接触させないでください。



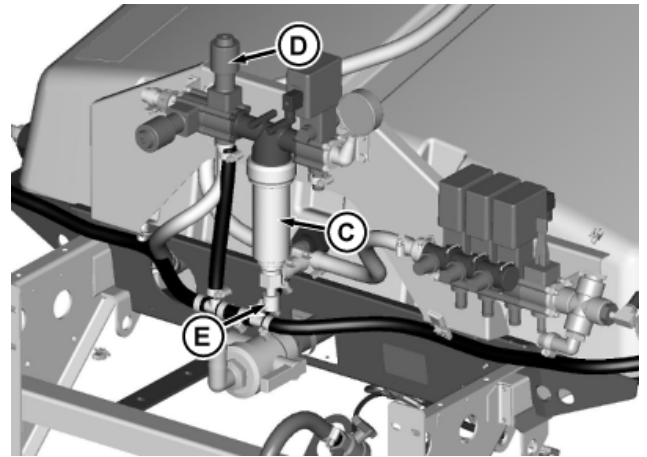
TCT006077—UN—26NOV12

2. ドレンバルブ (A) をクレードル (B) から取り外して適切な容器に入れます。黄色のハンドルをホースと整列する位置まで回してドレンバルブを開きます。未使用の薬剤をタンクから除去して、地域の規則および薬剤メーカーの指示に従って廃棄します。
3. タンクドレンバルブを閉めて、バルブの開口部をオペレータに向けないようにしてクレードルに戻します。

4. クイックフィル機能 (装備されている場合) またはタンクリッドを使用して、190 L (50 US gal) の清水をタンクに追加します。

注記： 薬剤の洗浄が必要な場合は、John Deere SprayMaster™ スプレータンククリーナ #N306631 を使用できます。フォームマーカータンクのフラッシングには、John Deere SprayMaster™ フォームタンククリーナ #N305630 を使用してください。最終洗浄時は、清水のみを使用してください。

5. エンジンを始動します。
6. シフトレバーをニュートラル位置にして、PTO を接続し、エンジン回転数を通常の運転回転数に設定します。

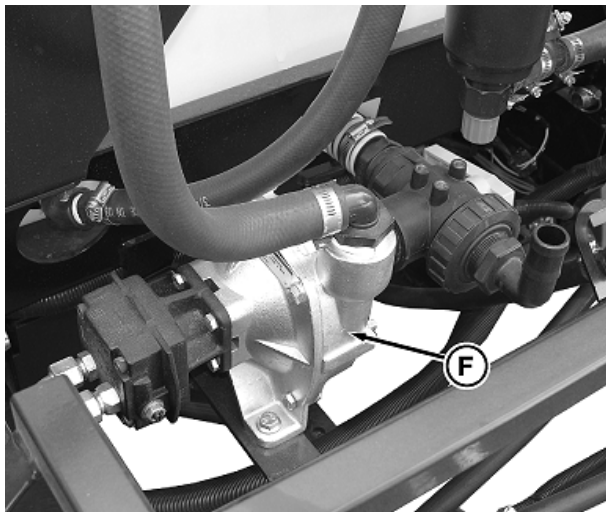


TCT012915—UN—29JUL15

7. インラインストレーナ (C) の逆洗を行うには、次の手順に従います。
 - 黄色のノブ (D) を時計回りに回して、攪拌機バルブを閉めます。
 - 赤色のノブ (E) を時計回りに回してストレーナバルブを開きます。
 - マスターブームスイッチをオン位置に 30 秒間設定します。
 - マスターブームスイッチをオフ位置に設定し、ストレーナバルブを反時計回りに回して閉めます。
 - 黄色のノブを反時計回りに回して攪拌機バルブを開きます。
 8. 散布を開始するには、マスターブームスイッチとすべてのブームコントロールスイッチを ON 位置にします。
- 重要：** 損傷を防止してください。散布は、開放区域または以前散布した区域で実施する必要があります。
9. タンク内のすべての水をノズルを通じて散布します。

整備

10. ノズルを点検し、すべてのノズルから正しく散布されていることを確認します。
11. マスターブームスイッチをオフ位置に設定し、PTO の接続を解除してエンジンを停止します。
12. 手順 4～11 を 2 回以上繰り返して、スプレーシステムが完全に洗浄されたことを確認します。

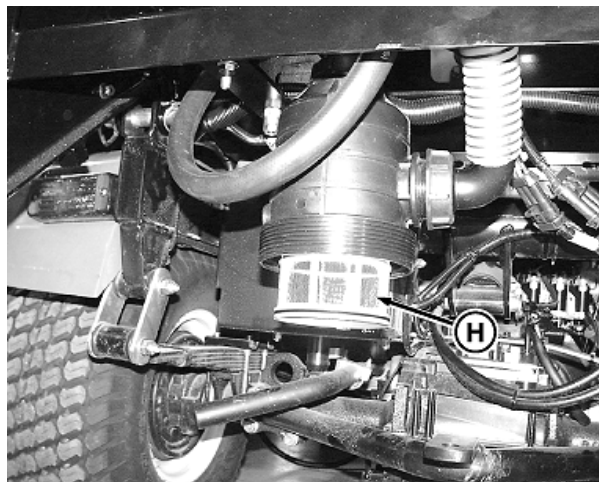


TCT006079—UN—26NOV12

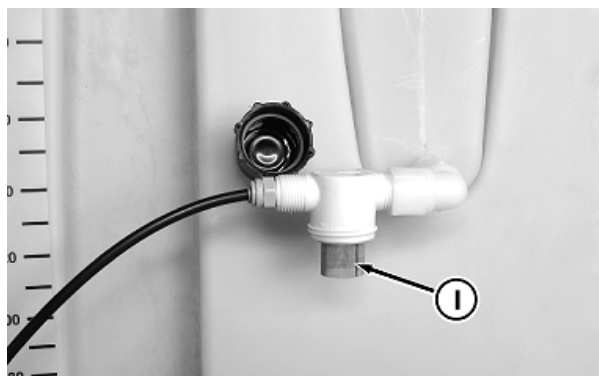
13. 下側のパイプ継手 (F) で渦巻ポンプ (装備されている場合) から抜き取ります。



TCT006080—UN—26NOV12



TCT006081—UN—26NOV12



TCT006082—UN—26NOV12

14. インラインストレーナ (G)、サクシヨンストレーナ (H) (装備されている場合)、フォームマーカーストレーナ (I) (装備されている場合) を取り外して清掃します。

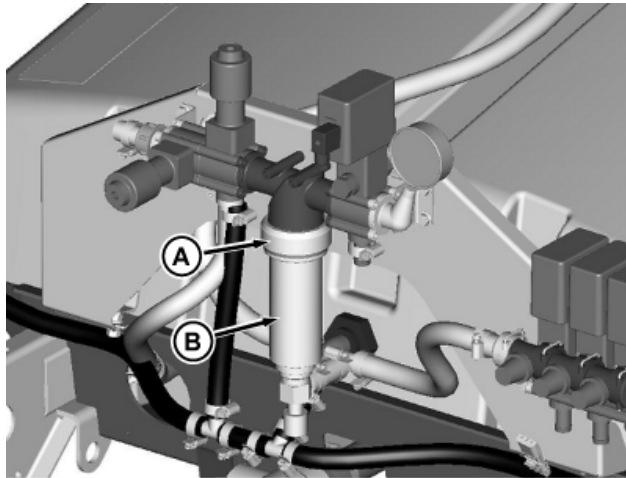
重要： 損傷を防止してください。水和性の薬剤を使用した場合は、各タンクの後にサクシヨンストレーナ (装備されている場合) を清掃します。

15. スプレーノズルを取り外して手洗いします。破損または摩耗しているノズルを交換します。
16. チェックバルブを点検し、必要に応じて交換します。
17. スプレーチップストレーナ (装備されている場合) を取り外して清掃します。

重要： 損傷を防止してください。噴霧器を栽培期の最後に使用している場合は、冬季の準備を実施する必要があります。

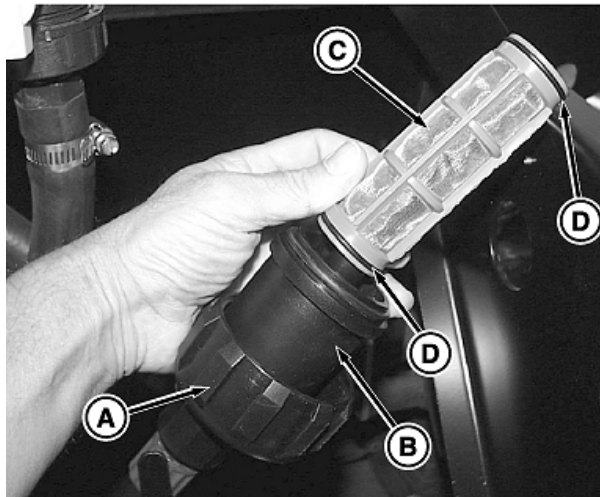
18. ガーデンホースを使って、噴霧器の外部に上水を噴霧して洗浄します。

インラインストレーナの整備



TCT012913—UN—22JUL15

1. 大型のナット (A) を取り外して噴霧器後部の容器 (B) を取り外します。次に容器を下げてストレーナにアクセスします。容器底部に接続されているホースを外さないでください。

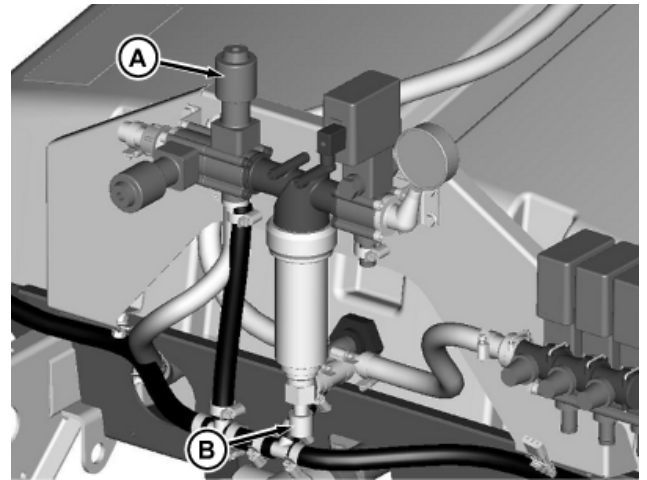


TCT006084—UN—26NOV12

2. ストレーナ (C) を容器 (B) から取り外します。
3. ストレーナを清掃し、必要に応じてストレーナと O リング (D) を交換します。
4. ストレーナと容器を取り付けて、大型ナット (A) で固定します。

インラインストレーナの逆洗

1. 噴霧器を停止します。
2. すべてのブームスイッチを OFF にします。



TCT012914—UN—22JUL15

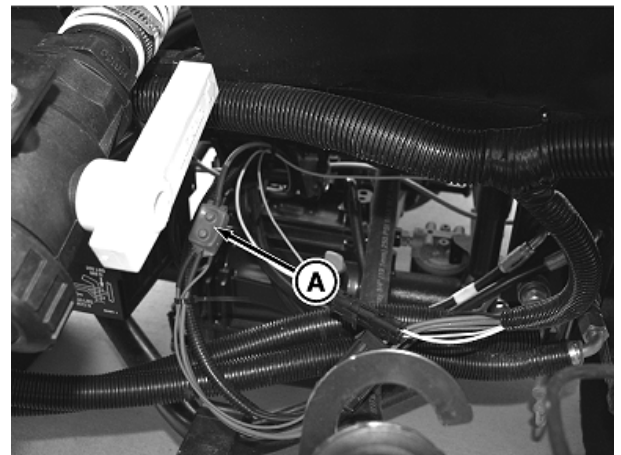
3. 攪拌機バルブのノブ (A) を閉位置まで時計回りに回します。
4. ノブ (B) を時計回りに回してストレーナバルブを開きます。
5. 噴霧器を ON にしてストレーナを洗浄します。
6. 噴霧器を OFF にし、ノブを反時計回りに回してストレーナバルブを閉じます。

噴霧器の出力の確認

希望する圧力で噴霧器を作動させ、2 つ以上のスプレーチップから流体を集め、これらを予想される出力 (gpm) と比較します。

- 2 つ以上のスプレーチップの出力が予想される量よりも 10% 以上多い場合は、スプレーチップを交換します。

メイン回路ブレーカの点検



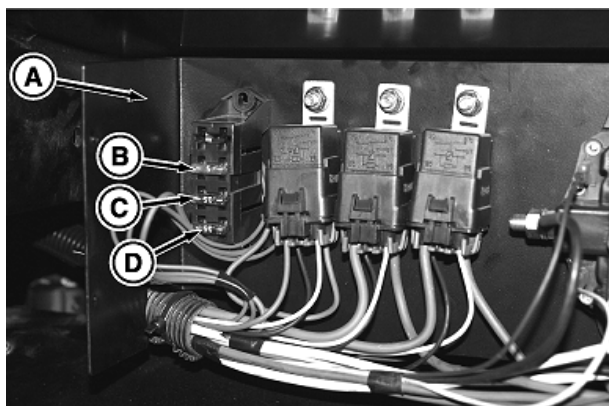
TCT006085—UN—26NOV12

噴霧器の電気系統を保護するために、フロントのワイヤハーネスには 50 アンペアの自動リセット回路ブレーカ (A) が装備されています。

電気負荷が超過した場合は、回路ブレーカが開きます。回路から電気負荷が取り除かれると、自動的にリセットされます。

回路ブレーカが自動的にリセットされない場合は、メインのワイヤハーネスがショートしています。John Deere 取扱店にお問い合わせください。

ヒューズとブームウイングアクチュエータ回路ブレーカーの点検



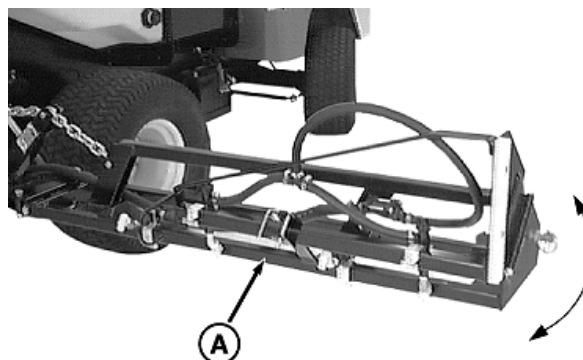
TCT006086—UN—26NOV12

1. サイドカバーを配線パネル (A) から取り外します。

注記：作業中にヒューズ/回路ブレーカーを誤って紛失しないように、ヒューズブロックを絶縁テープまたは同等品で固定してください。

2. 噴霧器制御パネルの近くにあるヒューズブロックの位置を確認します。
 - (B) 15 A (ソレノイドバルブ)
 - (C) 15 A (オプションのフォームマーカ)
 - (D) 5 A (オプションのアクセサリ)
3. 不良ヒューズまたは回路ブレーカーを点検し、必要に応じて同じ電流定格の新品のヒューズまたは回路ブレーカーと交換します。新品ヒューズが切れた場合、または回路ブレーカーが落ちた場合は、噴霧器ワイヤハーネスにアースへの短絡があります。John Deere 取扱店にお問い合わせください。

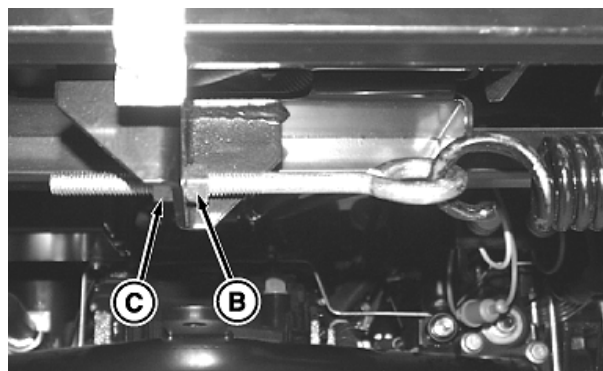
ブームウイングスプリングのテンションの調整



TCT006087—UN—26NOV12

注記：オプションのゲージホイールを使用する場合は、スプリングのテンションを増やす必要があります。

1. ブームウイングのピボットジョイントが潤滑されていることを確認します。
2. ブームウイング (A) を下げます。
3. ブームウイングをフロント側またはリア側に動かし、異物に衝突した状態を再現します。ブームウイングがしっかりと通常の動作位置に引き戻されることを確認します。



TCT006088—UN—26NOV12

4. スプリングコイルが離れてテンションが生じるまで六角ナット (C) を締め付けます。その後ナット (B) を締め付けます。これによりブームウイングのフレキシブルジョイントに適度なスプリングのテンションを与えることができます。スプリングを張りすぎると、ブームを逃がすのが難しくなります。スプリングが緩すぎると、ブームが運転中に振動します。スプリングのテンションを増減するには、
 - スプリングのテンションの増加：ナット (B) を緩めた後、ナット (C) を完全に締め付けます。
 - スプリングのテンションの減少：ナット (C) を緩めた後、ナット (B) を完全に締め付けます。
5. 他のブームウイングについても作業を繰り返します。

ダイヤフラムポンプの整備

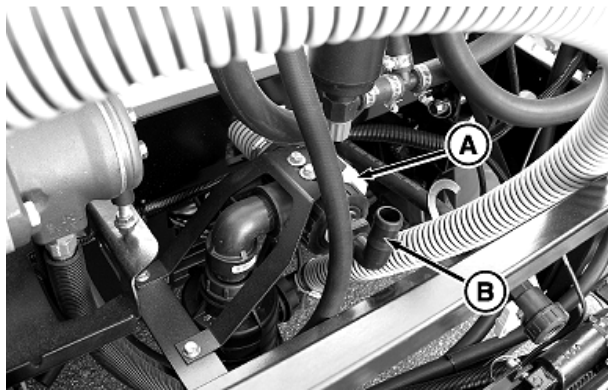
作業機をフロアのドレン、排水溝、川等から離れた、固い水平な場所に安全に駐車します。

⚠ 注意： けがを防止してください! 溶剤の揮発成分には爆発性や可燃性がある場合があります。溶剤を安全に使用するために、容器のラベルに記載された指示に従ってください。

- ・十分に換気された場所で作業してください。
- ・溶剤を取り扱う際は保護服を着用してください。
- ・溶剤の取り扱い中は喫煙しないでください。
- ・火炎や火花に溶剤を近づけないでください。

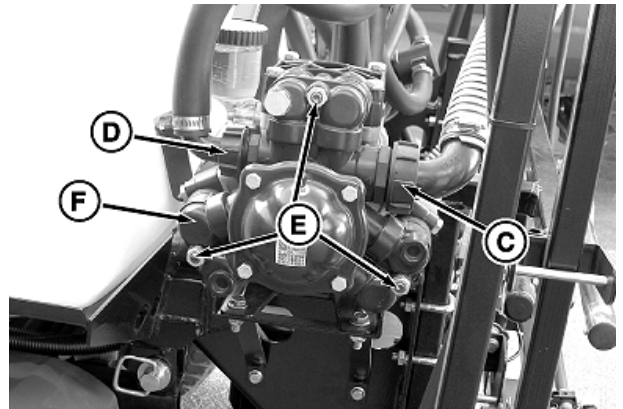
注記： このポンプでは、界面活性剤を含まない高級 SAE 30W オイルが必要です。オイルをお求めの場合は、John Deere 取扱店にお問い合わせください。

バルブの点検および交換



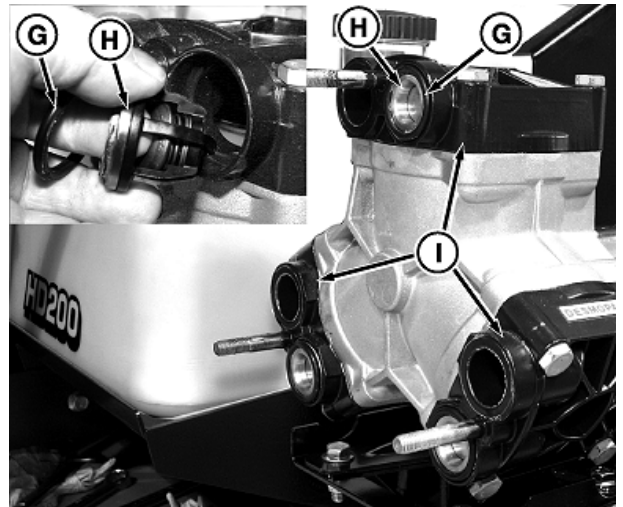
TCT006094—UN—26NOV12

1. タンク内に製品が残っている場合は、タンクのバルブ (A) を閉じます。バルブのハンドルを 180 度回して補助インレット (B) の方向に向けます。
2. 補助インレットのポートから清浄な水でポンプを完全に洗い流します。適切にラベル表示した容器にドレンします。



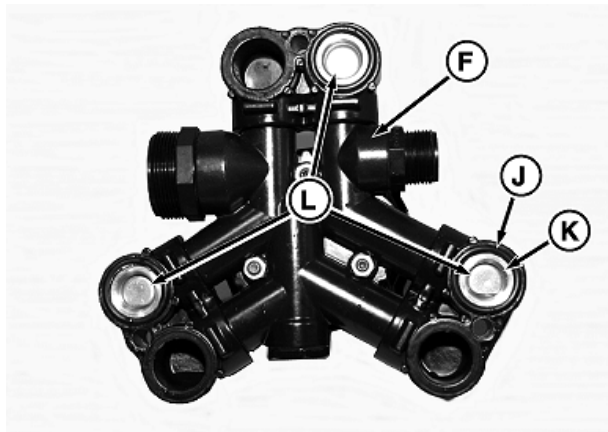
TCT006095—UN—26NOV12

3. ポンプのインレット (C) とアウトレット (D) のエルボナットを緩め、ポンプからホースとエルボアセンブリを取り外します。ホースをポンプから離して固定します。
4. マニホールドアセンブリ (F) をポンプヘッドに固定している 3 個の M10 六角ナット (E) を取り外します。マニホールドアセンブリを取り外します。



TCT006096—UN—26NOV12

5. O リング (G) とチェックバルブアセンブリ (H) をポンプヘッド (I) から取り外します。

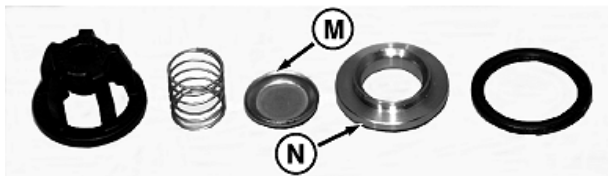


TCT006097—UN—26NOV12

6. O リング (J) とチェックバルブアセンブリ (K) をポンプマニホールド (F) の 3 つの部分 (L) から取り外します。

注記： 分解前の部品の位置を正確に覚えておきます。

7. バルブアセンブリを分解し、損傷やごみの詰まりがないか確認します。



TCT006098—UN—26NOV12

8. バルブの構成部品を清掃します。バルブの斜めのエッジ (M) とバルブシート (N) に摩耗や損傷がないか確認します。
9. バルブの構成部品を組み立てます。バルブスプリングのシートがバルブスプリングに向き合い、バルブシートの斜めのエッジがバルブに向いていることを確認します。
10. 再組立時に確実に保持するために、新しいバルブシールの O リング にグリースを薄く塗布します。

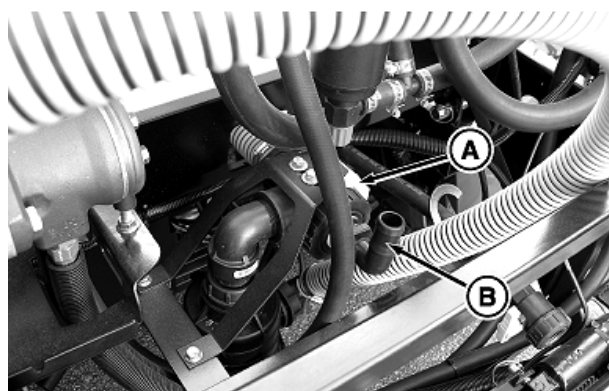
注記： ポンプをさらに分解する必要がある場合は、バルブアセンブリの取り付けは後回しにします。

11. バルブアセンブリをマニホールドとヘッドに取り付けます。
12. マニホールドをポンプヘッドに取り付け、3 個の M10 六角ナットで固定します。留め具を均等に締め付けます。

アキュムレータダイアフラムの交換

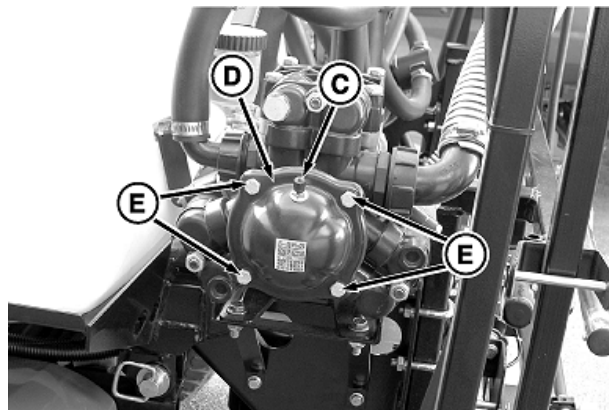
アキュムレータダイアフラムは、故障が顕著な場合や定期的なメンテナンスに応じて交換する必要があります。アキュムレータダイアフラムの故障は、ポンプ出力圧力のパルスで判断できます。ダイアフラムはポン

プを配置したまま交換できます。



TCT006094—UN—26NOV12

1. タンク内に製品が残っている場合は、タンクのバルブ (A) を閉じます。バルブのハンドルを 180 度回して補助インレット (B) の方に向けます。
2. 補助インレットのポートから清浄な水でポンプを完全に洗い流します。適切にラベル表示した容器にドレンします。



TCT006099—UN—26NOV12

3. エアバルブキャップ (C) を取り外し、アキュムレータのエアチャンバーのキャップ (D) から空気圧を排出します。
4. エアチャンバーのキャップをアキュムレータのベースに固定している 4 個の M8 六角ボルト (E) を緩めて取り外します。



TCT006100—UN—26NOV12

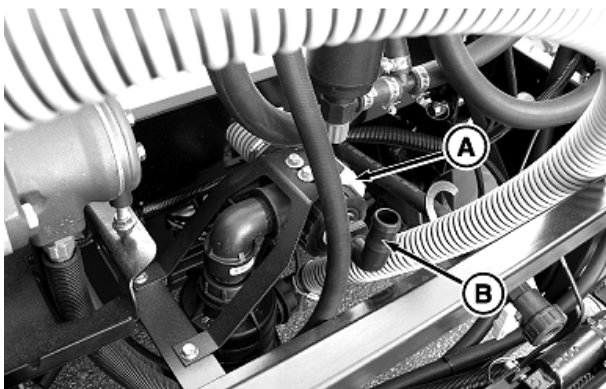
5. キャップとダイヤフラム (F) をアキュムレータのベースから取り外します。
6. エアチャンバーのベースのダイヤフラムシール面 (G) とキャップが汚れていないことを確認します。
7. 交換したアキュムレータダイヤフラムをマニホールド本体に取り付けます。ダイヤフラムのエッジが均等に接触していることを確認します。

注記：エアバルブをキャップの上にした状態で、エアチャンバーのキャップをベースに取り付けます。

8. エアチャンバーのキャップをマニホールドに取り付け、4 個の六角ボルトで固定します。
9. ボルトを均等に締め付けます。
10. 予想されるポンプの作動圧力の 20 パーセントまでアキュムレータのエアチャンバーを充填します。

ポンプダイヤフラムの交換

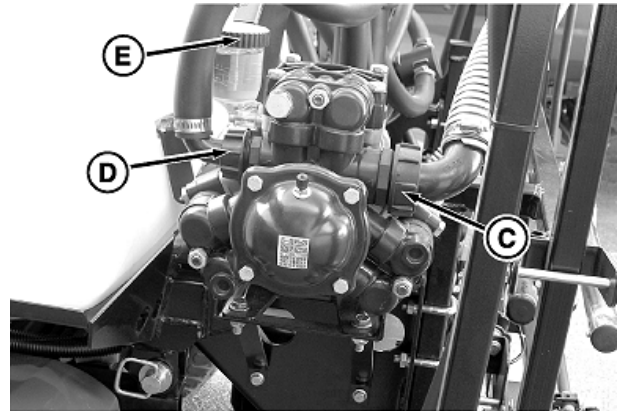
ポンプダイヤフラムは、故障が顕著な場合や定期的なメンテナンスに応じて交換する必要があります。ポンプダイヤフラムの故障は、ポンプ出力へのオイル漏れやポンプの潤滑油漏れで判断できます。ダイヤフラムはポンプを配置したまま交換できます。



TCT006094—UN—26NOV12

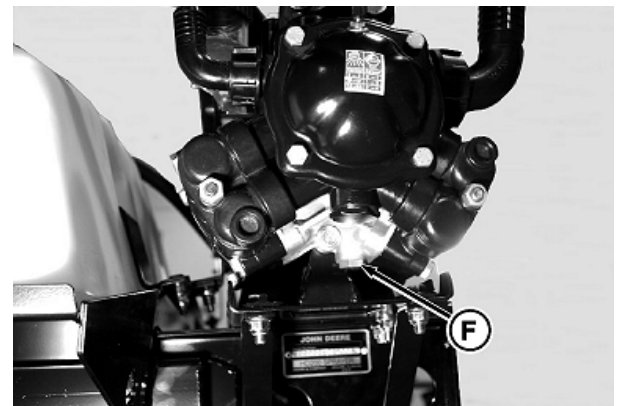
1. タンク内に製品が残っている場合は、タンクのバルブ (A) を閉じます。バルブのハンドルを 180 度回して補助インレット (B) の方向に向けます。

2. 補助インレットのポートから清浄な水でポンプを完全に洗い流します。適切にラベル表示した容器にドレンします。



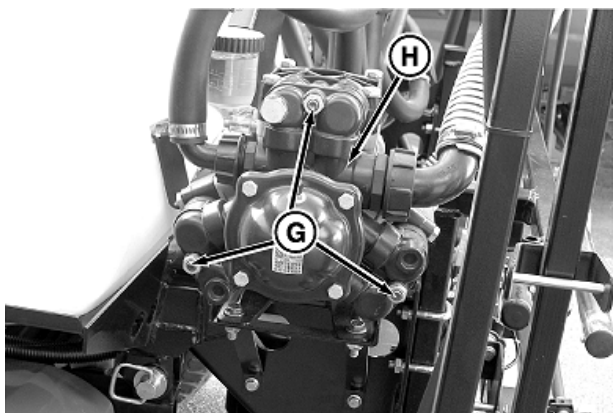
TCT006101—UN—26NOV12

3. ポンプのインレット (C) とアウトレット (D) のエルボナットを緩め、ポンプからホースとエルボアセンブリを取り外します。ホースをポンプから離して固定します。
4. 潤滑油のリザーバーキャップ (E) を取り外します。



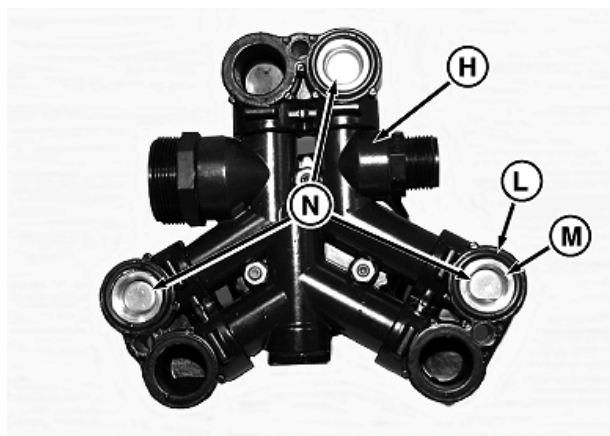
TCT006102—UN—26NOV12

5. ポンプのクランクケースのプラグ (F) を取り外し、オイルを適切な容器にドレンします。クランクシャフトを回してオイルのドレンを促します。



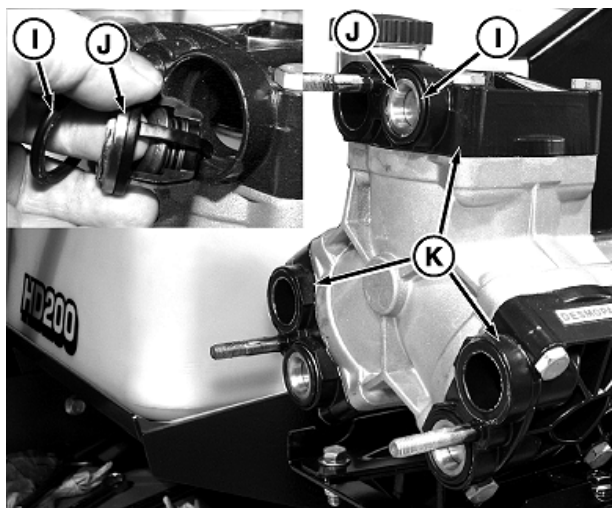
TCT006103—UN—26NOV12

6. ポンプマニホールドアセンブリ (H) をポンプヘッドに固定している 3 個の M10 六角ナット (G) を取り外します。ポンプからマニホールドアセンブリを取り外します。



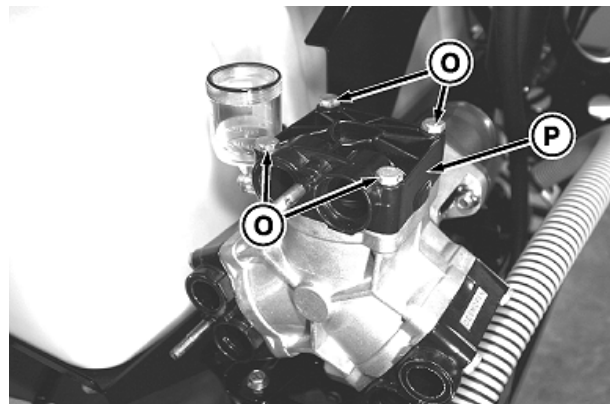
TCT006105—UN—26NOV12

8. O リング (L) とチェックバルブアセンブリ (M) をポンプマニホールド (H) の 3 つの部分 (N) から取り外します。部品を汚れない場所に置いておきます。



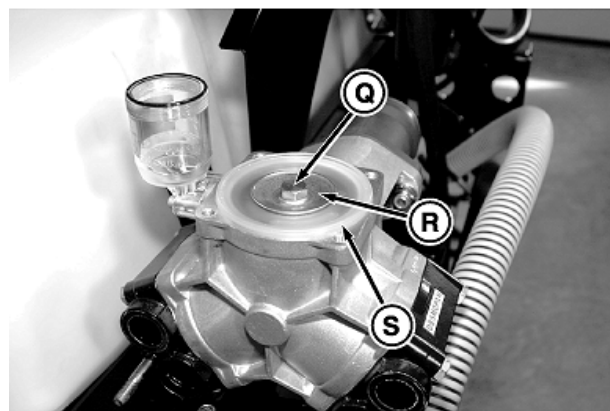
TCT006104—UN—26NOV12

7. O リング (I) とチェックバルブアセンブリ (J) を 3 つのポンプヘッド (K) から取り外します。部品を汚れない場所に置いておきます。



TCT006106—UN—26NOV12

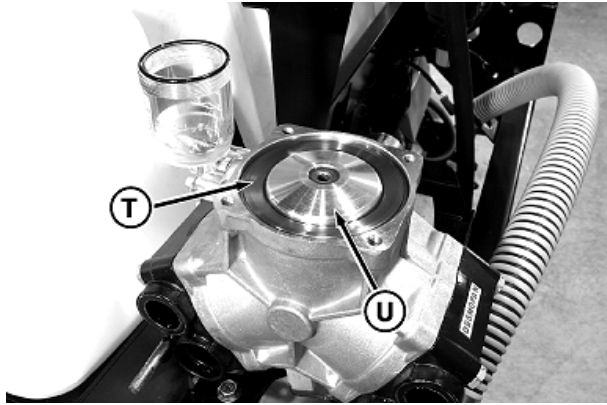
9. ポンプヘッド (P) をポンプ本体に固定している 4 個の M10x55 六角ボルト (O) を取り外します。ヘッドを取り外し、汚れない場所に置いておきます。



TCT006107—UN—26NOV12

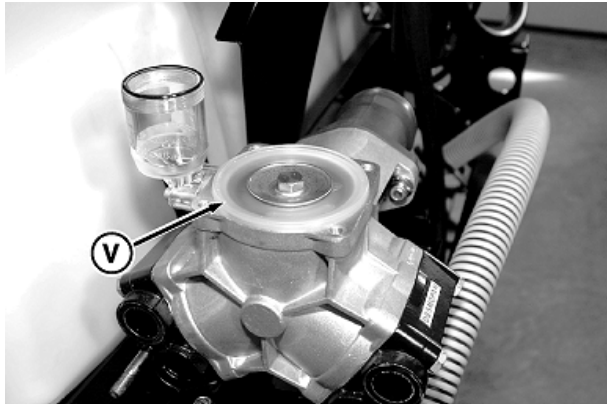
10. ポンプピストンから、M12 ダイアフラム固定ボルト (Q)、支持座金 (R)、およびダイアフラム (S) を取り外します。ボルトと支持座金を保管します。

整備



TCT006108—UN—26NOV12

11. ポンプ本体のダイアフラム設置溝 (T) が汚れていないことを確認します。
12. ポンプのクランクシャフトを回して上部ピストン (U) を上方向の最大ストロークまで動かします。
13. ダイアフラム支持座金と六角ボルトで、交換したダイアフラムをピストンに取り付けます。
14. クランクシャフトを回してダイアフラムの縁をポンプ本体の溝に置きます。ダイアフラムのボルトを締め付けます。



TCT006109—UN—26NOV12

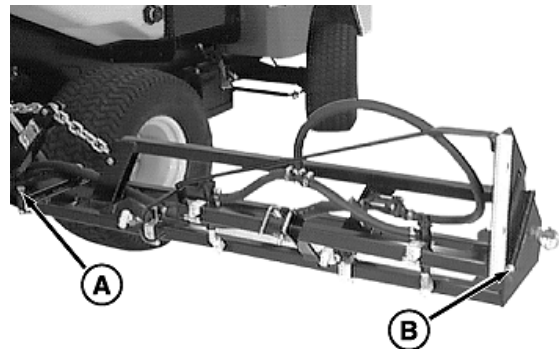
15. ダイアフラムのシール縁 (V) がヘッドの溝に正しく挿入されていることを確認してヘッドを取り付けます。
16. 4 個の六角ボルトでヘッドをポンプ本体に固定します。ボルトを締め付けます。
17. クランクシャフトを回して次のピストンを上方向の最大ストロークまで動かします。
18. ダイアフラムと固定金具を取り外して交換します。
19. クランクシャフトをさらに回し、ダイアフラムが正しく設置されていることを確認します。ボルトを締め付けます。
20. ダイアフラムの縁がヘッドに合っていることを確認してヘッドを取り付けます。
21. ヘッドをポンプに固定します。

22. 残りのポンプシリンダについてもダイアフラムの取り付け作業を繰り返します。
23. ポンプマニホールドアセンブリを、3 個の六角ボルトで固定してヘッドに取り付けます。ボルトを締め付けます。
24. オイル点検窓のボウルからクランクケースに潤滑油を注入しながら、ポンプを両方向にゆっくり回します。クランクケースに推奨オイルを規定量注入します。点検ボウルのカバーを交換します。
25. 予想されるポンプの作動圧力の 20 パーセントまでアキュムレータのエアチャンバーを充填します。

防寒対策

気候条件で凍結のおそれがある場合や越冬保管する場合は、ポンプを RV 不凍液で洗い流す必要があります。洗い流すことにより、凍結で損傷の原因となる水ベースの溶剤をポンプから排出します。

ブームウィングのピボットの潤滑



TCT006110—UN—26NOV12

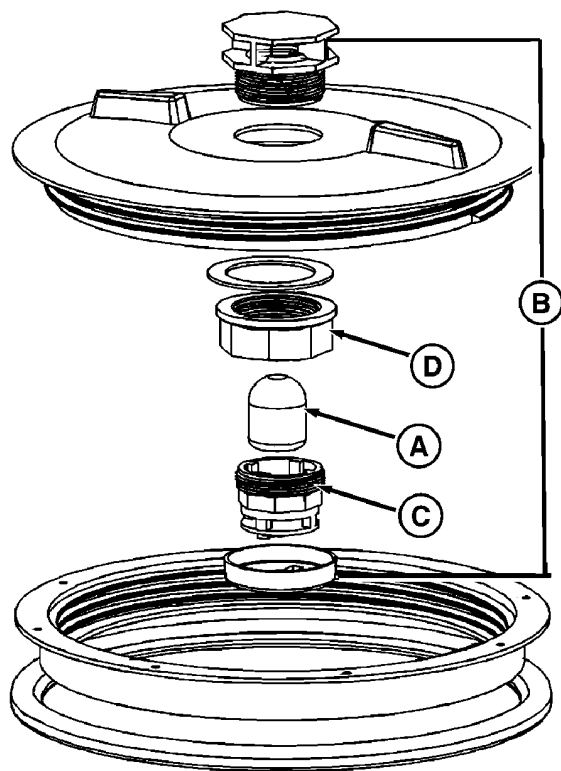
1. ブームウィングを下げ、ジャッキスタンドかブロックで支えます。
2. ブームウィングのピボットボルト (A) と、装備されている場合はブームウィング延長部のボルト (B) を取り外します。
3. ピボットボルトにグリースを塗布して取り付けます。
4. ブームウィングをフロント側またはリア側に動かし、異物に衝突した状態を再現します。ブームウィングが通常の動作位置に引き戻されることを確認します。

通気式フィルカバーの点検と清掃

個人用洗浄水タンクとフォームマーカートンクには、通気式フィルキャップが取り付けられています。タンクからの抜き取りが正常に行われるように、キャップの通気孔は清掃して操作可能な状態に保つ必要があります。

噴霧器タンクのフィルカバー

1. フィルカバーを噴霧器タンクから取り外します。

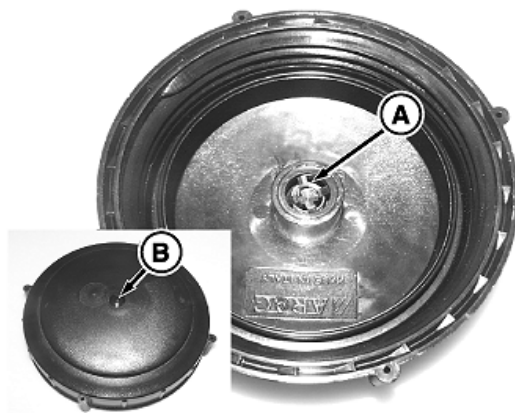


TCT006111—UN—27NOV12

2. カバーを複数回上下反対に回転させて、ブリーザーアセンブリ (B) 内でフロート (A) が自由に動くことを確認してください。フロートが動かない場合は、ブリーザーの部品が汚れているか、損傷している可能性があります。
3. フロートガイド (C) を緩めて、バルクヘッドナット (D) から取り外します。
4. フロートをフロートガイドから取り外します。
5. ブリーザーアセンブリを中性洗剤で洗います。十分に洗い流します。
6. ブリーザーの部品に損傷や劣化がないか点検します。必要に応じてブリーザーアセンブリを交換します。
7. 丸みのある端部を上に向けて、フロートをフロートガイドに配置します。
8. フロートガイドをバルクヘッドナットに締め付けます。
9. フィルカバーを噴霧器タンクに取り付けます。

個人用洗浄水タンクとフォームマーカートンク

1. フィルカバーをタンクから取り外します。



TCT006112—UN—26NOV12

2. ベントスプリングの部分 (A) を中性洗剤で洗浄します。十分に洗い流します。
3. ベントキャップ (B) がカバーのベント穴に正しく密着していることを確認します。
4. ベントキャップを指先で押します。キャップがスプリング張力に対抗して下に動き、着座位置に戻ることを確認します。
5. ベントが正しく作動しない場合は、フィルカバーを交換します。
6. フィルカバーをタンクに取り付けます。

フォームマーキットの整備

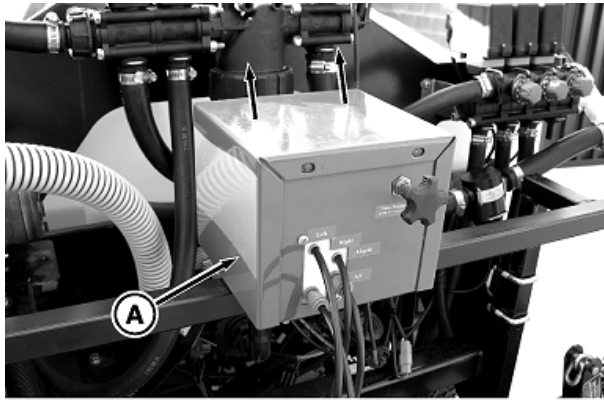
⚠ 注意： けがを防止してください！ 溶剤の揮発成分には爆発性や可燃性がある場合があります。溶剤を安全に使用するために、容器のラベルに記載された指示に従ってください。

- 十分に換気された場所で作業してください。
- 溶剤を取り扱う際は保護服を着用してください。
- 溶剤の取り扱い中は喫煙しないでください。
- 火炎や火花に溶剤を近づけないでください。

注記： このポンプでは、界面活性剤を含まない高級 SAE 30W オイルが必要です。オイルをお求めの場合は、John Deere 取扱店にお問い合わせください。

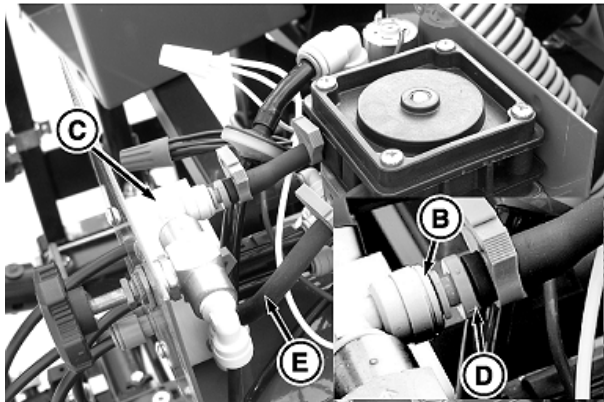
整備

フォーム溶剤のポンプ



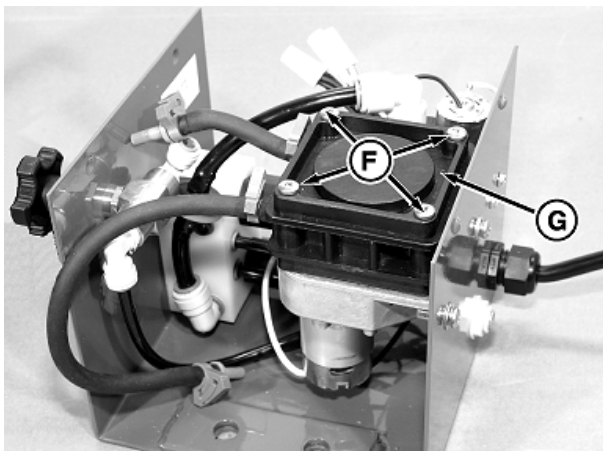
TCT006113—UN—26NOV12

1. フォームマーカのポンプのエンクロージャからカバー (A) を持ち上げ、フォームマーカのポンプにアクセスできるようにします。



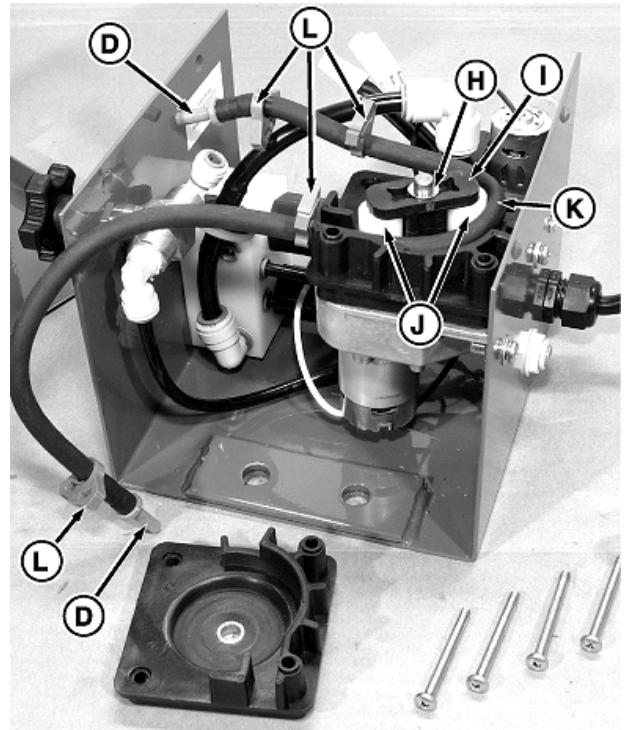
TCT006114—UN—26NOV12

2. ロックリング (B) をエルボ (C) の方に引いて、エルボからホースのステム (D) を引き抜きます。ポンプのアウトレットのホース (E) についても繰り返します。



TCT006115—UN—26NOV12

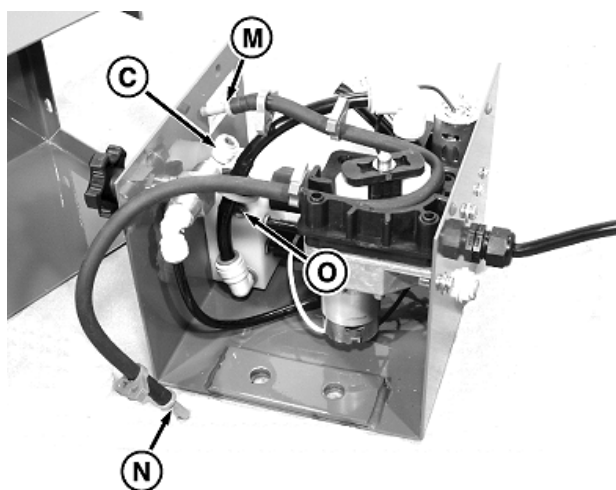
3. ポンプローラーのカバー (G) をフォームポンプ本体に固定している 4 個の 10x3 in. ねじ (F) を取り外します。カバーを取り外してねじとともに別の場所に置いておきます。



TCT006116—UN—26NOV12

4. ローラーアセンブリ上部 (I) にあるシムの座金 (H) を取り外して別の場所に置いておきます。
5. ローラーアセンブリを取り外し、ローラー (J) に汚れや損傷がないか確認します。ローラーが自由に回転できることを確認します。
6. ポンプ本体からホース (K) を取り外します。
7. インレットおよびアウトレットホースのステム (D) とポンプ本体のホースのクランプ (L) を緩めます。ホースクランプとステムを取り外して保管します。
8. ローラーを取り外した場合は、ローラーをポンプのスピンドルに取り付けてポンプ本体に再度取り付けます。
9. ローラーアセンブリ上部のスピンドルにシムの座金を取り付けます。
10. 交換したホースの端部にアウトレットホースのステムを取り付けます。ホースクランプでステムを固定します。

整備

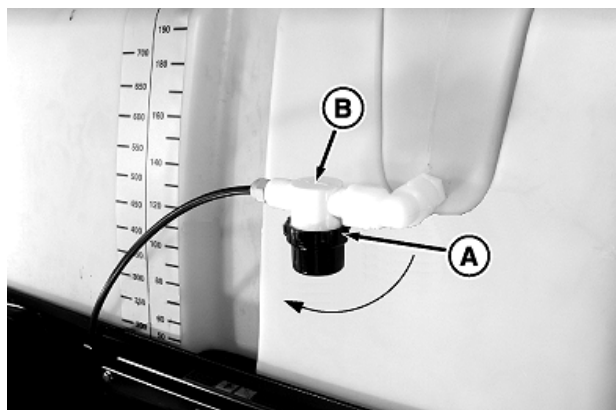


TCT006117—UN—26NOV12

11. ホース端部 (M) のステムをエルボ (C) に挿入します。
12. ホース端部 (N) のステムをバルブブロックの継手 (O) に挿入します。
13. ホースをポンプ本体に取り付け、ホースが余裕を持ってポンプ本体の経路内で固定されているか確認します。
14. カバーをポンプ本体に取り付け、ホースが余裕を持ってポンプカバーの経路内で固定されているか確認します。
15. ローラーカバーを 4 個の 10x3 in. ねじでポンプ本体に固定します。ねじを均等に回して確実に締め付けます。
16. ポンプ本体のインレットとアウトレットで残りのホースクランプを再度取り付け、ホースの位置を保持します。

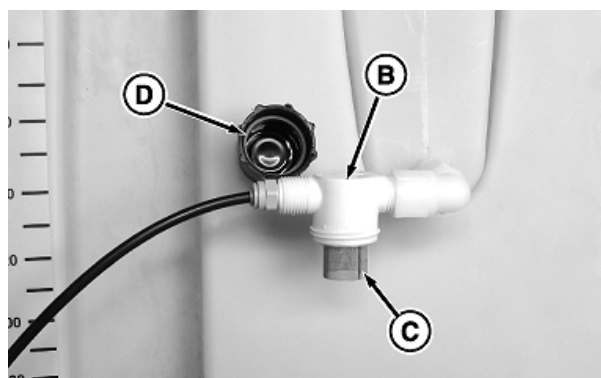
フォーム溶剤用ストレーナ

注記：フォーム溶剤用ストレーナのボウルを取り外してストレーナの点検と清掃を行うことにより、タンク内の溶剤をドレンすることができます。



TCT006118—UN—26NOV12

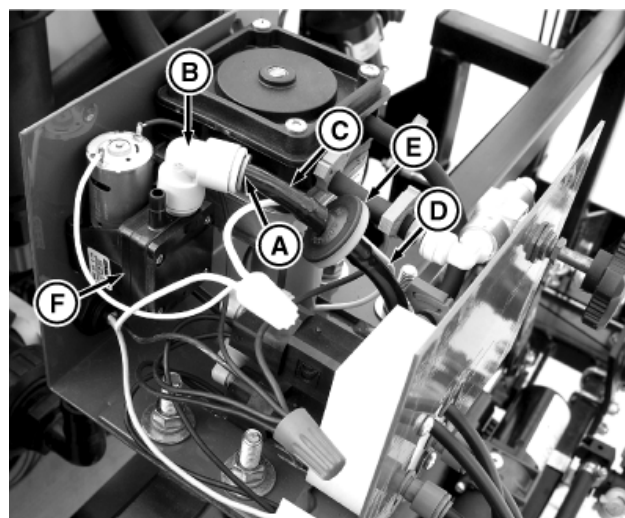
1. ストレーナのボウル (A) を回して緩め、ストレーナのハウジング (B) から取り外します。
2. タンク内に残っているフォーム溶剤を適切な容器にドレンします。



TCT006119—UN—26NOV12

3. ストレーナのハウジング (B) からスクリーン (C) を取り外します。
4. ストレーナのボウルからシール (D) を取り外します。
5. 温水でスクリーンとボウルを洗い、付着物を除去します。スクリーンを損傷しないように注意してよく清掃します。
6. スクリーンとシールに損傷がないか確認します。必要に応じて交換します。
7. ストレーナのハウジングのスクリーンを交換します。
8. ストレーナのボウルのシールを交換します。
9. ストレーナのハウジングにボウルを再度組み付けます。

エアラインのチェックバルブ



TCT004597—UN—20AUG12

整備

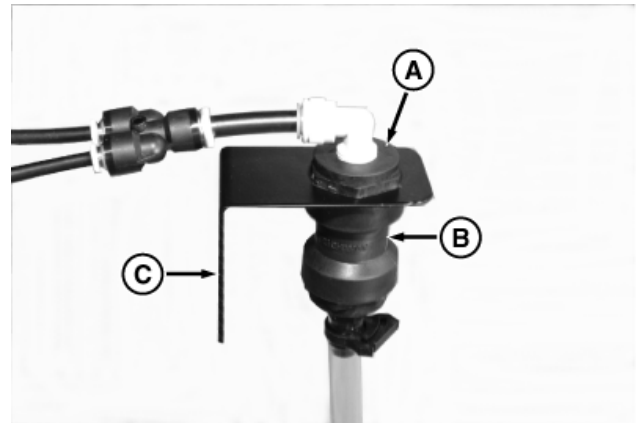
1. ロックリング (A) をエルボ (B) に押し込み、エルボからエア供給用ホースアセンブリ (C) を取り外します。ホース下側の端部 (D) についても手順を繰り返します。
 2. エア供給用ホースのチェックバルブ (E) を点検し、コンプレッサ (F) から離れる方向にのみ流れていることを確認します。
 3. チェックバルブが損傷している場合、または両方向に流れている場合はチェックバルブを交換します。
- 注記：チェックバルブを交換する場合は、チェックバルブの「VAC」の文字 (G) がコンプレッサ (F) と反対側に向くようにします。



TCT004598—UN—07AUG12

2. 供給ホースからチェックバルブ (D) を取り外します。
- 注記：「VAC」の文字 (E) がバルブ本体のアウトレット側 (フォームヘッド側) に見えるようにします。
3. チェックバルブを点検し、バルブ本体を通して一方方向にのみ流れていることを確認します。
 4. チェックバルブが損傷している場合、または両方向に流れている場合はチェックバルブを交換します。
 5. バルブ本体の「VAC」の文字をフォームヘッドに向けて、チェックバルブをシステムのホースに取り付けます。
 6. 2 番目のバルブ (F) についても点検と交換を繰り返します。
 7. 反対側のブームについても作業を繰り返します。

フォームヘッドの清掃

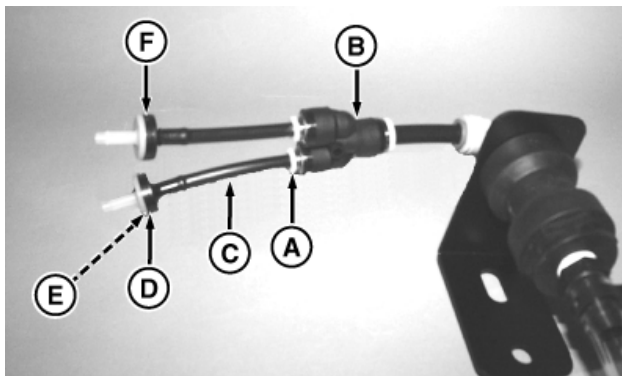


TCT004600—UN—07AUG12

4. 交換したチェックバルブをエア供給用ホースに取り付けます。
5. エア供給用ホースアセンブリをコンプレッサとバルブブロックのエルボに取り付けます。

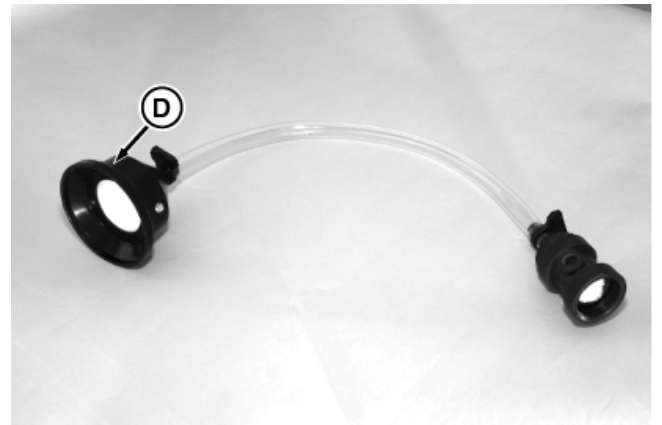
フォームヘッド用チェックバルブ

⚠ 注意： けがを防止してください! ノズルの先端や噴霧器の他の部品を口に付けて汚れを吹くようなことはしないでください。圧縮空気か清浄な水を使用してください。



TCT004599—UN—20AUG12

1. ブッシングのキャップ (A) を保持します。フォームヘッド (B) を回して緩め、フォームヘッドをブーム端部のブラケット (C) から取り外します。
2. 反対側のブーム端部から、フォームヘッド、ホース、およびコレクタアセンブリを取り外します。



TCT004601—UN—07AUG12

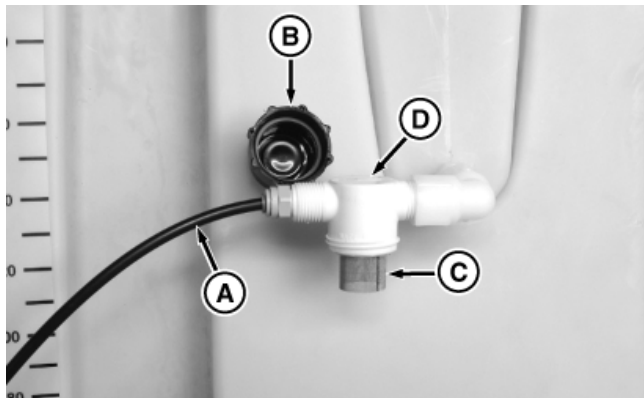
1. ロックリング (A) をコネクタ (B) に押し込み、フォームヘッドのコネクタ (B) からエア供給用ホース (C) を外します。

整備

3. フォームヘッド、ホース、およびコレクタアセンブリ (D) を温水でよく洗い、逆流して流します。
4. ブッシングのキャップのねじにジョイントシールテープを貼ります。ブーム端部のブラケットを通してフォームヘッドをブッシングのキャップに取り付けます。キャップを締め付けます。

防寒対策

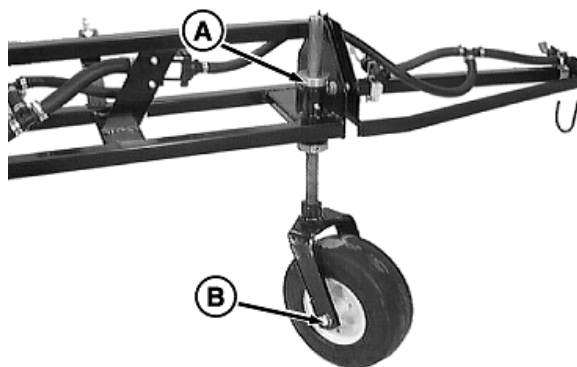
フォーム溶剤用タンク、バルブ、およびホースは、保管する前や気温条件により凍結のおそれがある場合は完全にドレンする必要があります。溶剤が凍結するとシステムの構成部品が損傷する場合があります。



TCT004602—UN—07AUG12

1. フォーム溶剤のホース (A) を取り外し、適切な容器に溶剤をドレンします。
2. タンクのアウトレットにあるストレーナのハウジング (D) からボウル (B) とスクリーン (C) を取り外します。
3. ストレーナスクリーンを清掃します。
4. フォーム溶剤のタンクを温水で洗い流し、ドレンします。
5. タンクのストレーナスクリーンとボウルを交換します。
6. フォームシステムの電源を入れ、フォームが生成されなくなるまで作動させます。
7. フロントガラス用ウォッシュフルード等の不凍液をタンクに追加します。
8. フォームシステムの電源を入れ、不凍液がフォームヘッドに達するまで作動させます。

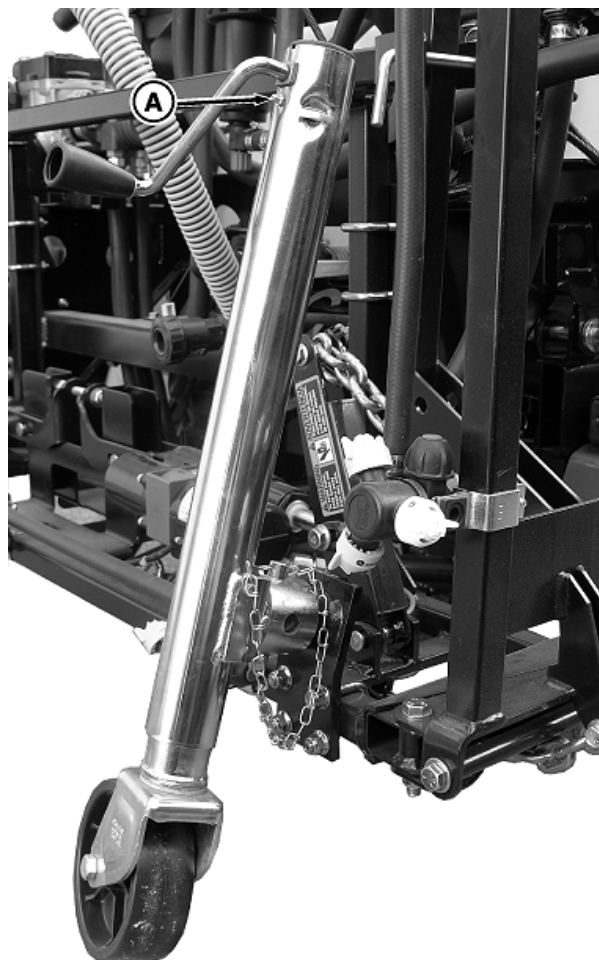
グラウンドホイールの潤滑



TCT006126—UN—26NOV12

1. グラウンドホイールのピボット (A) を潤滑します。
2. グラウンドホイールの車軸 (B) を潤滑します。

ジャッキスタンドの潤滑



TCT006127—UN—26NOV12

右側のサポート位置

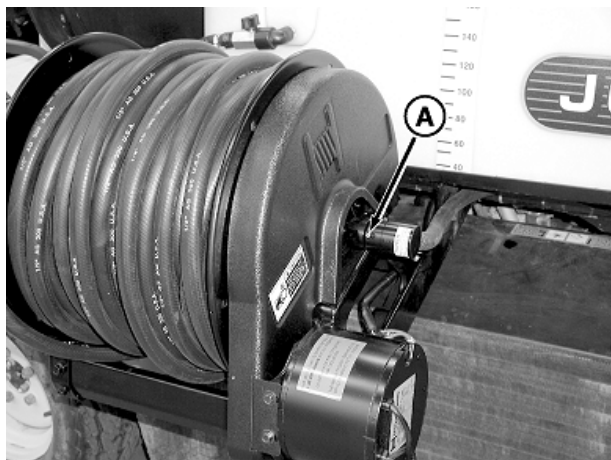
推奨グリースでフィッティング (A) を潤滑します。

整備

ホースリールの整備

重要： 損傷を防止してください! リールのテンション保持部を潤滑しすぎないようにしてください。潤滑部品に汚れやごみが堆積し、摩耗しやすくなります。

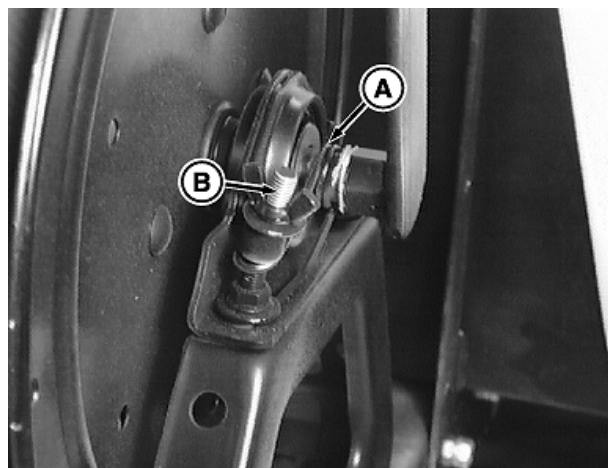
電気式ホースリールの潤滑



TCT006128—UN—26NOV12

1. 旋回フィッティング (A) に推奨グリースを少量塗布します。
2. フィッティング周辺の余分なグリースを拭き取ります。

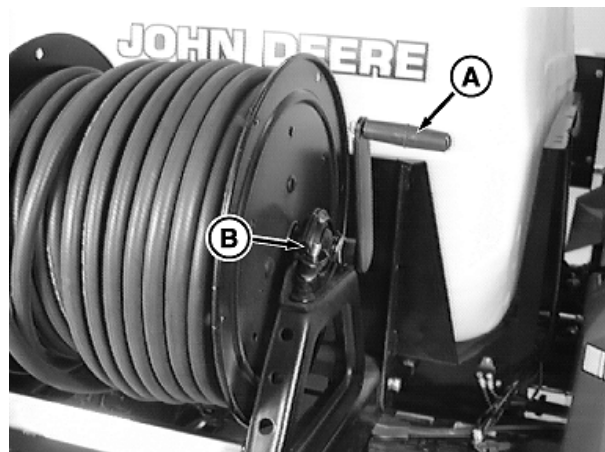
手動式ホースリールの潤滑



TCT006129—UN—26NOV12

1. リールテンションブレーキ調整部 (A) に推奨グリースを少量塗布します。
2. リールテンションブレーキ調整ボルト (B) のねじ部に推奨グリースまたはオイルを少量塗布し、錆び付きや焼き付きが起こらないようにします。

テンションブレーキの調整



TCT006130—UN—26NOV12

1. リールテンションを調整する前に、ホースリールが適切に潤滑されていることを確認します。
2. ホースを引き出し、ハンドル (A) を回してホースを巻き取ります。ドラッグ (リールテンション) はウィングナット (B) で調整できます。
3. リールテンションブレーキを調整します。
 - リールテンションを上げるにはウィングナット (B) を締め付けます。
 - リールテンションを下げるにはウィングナット (B) を緩めます。

トラブルシューティング

トラブルシューティング表の使用

この表に掲載されていない問題が発生している場合は、整備について認定取扱店にお問い合わせください。
掲載されているすべての原因を確認し、引き続き問題が発生している場合は、認定取扱店にお問い合わせください。

SelectSpray HD200、HD300

症状	点検
ポンプが作動しない	噴霧器のポンプの油圧ラインの接続が外れている 補助油圧システムに問題がある
ポンプは作動するが、液体が流れない	タンクが空になっている スリーウェイボールバルブが遮断されている インラインストレーナが詰まっている 圧力調整バルブに問題がある ソレノイドバルブに問題がある 噴霧器のワイヤハーネスのヒューズが切れている
ゲージの圧力の読み値が不正または変動する	タンク内の液体が少ないか空になっている 圧力チューブに空気が入っている：システムをエア抜きする 電気回路が故障している
ポンプを停止してもゲージ圧力がゼロにならない	液量が多すぎるためシステムの圧力が超過している：防振材から最小限の液体を抜く
ベントラインに液体が満たされていない	チェックバルブが閉じていない チェックバルブが正しく取り付けられていない：矢印を作業機のフロント側に向ける
攪拌機が作動しない	ボールバルブが開いていない ホースがねじれているか損傷している
攪拌機が停止しない	ボールバルブが閉じていない ボールバルブが故障している
何も作動しない	バッテリーを正しく接続していない 自動リセット回路ブレーカが作動している (噴霧器の電気系統でアースに短絡している)
ブームスイッチが作動しない	15 A ヒューズを点検する
ブームウィングアクチュエータが作動しない	20 A 回路ブレーカを点検する
ブームまたはウィングが水平に安定しない	水平調整用金具が緩んでいるか損失している
ブームウィングが曲がらない	フレキシブルジョイントを潤滑する フレキシブルジョイントのスプリングのテンションが強すぎる
噴霧パターンの品質が悪く不均一	ノズルが用途に合っていない ブームが水平になっていない ブームウィングが水平になっていない ノズルに合ったブーム高さになっていない すべてのノズルの設計がそろっていない 圧力の設定不良
ブームセクションがコントロールパネルのスイッチと対応していない	ブームのホースが適切なソレノイドバルブに接続されていない ブームの電気コネクタが適切なソレノイドバルブに接続されていない
個人用洗浄タンクがドレンしないまたはドレンが遅い	タンク内で栓が詰まっている ホースが詰まっている キャップのベントが詰まっている
マーカーが作動しない	ハーネスのプラグが差し込まれていない 自動リセット回路ブレーカが作動している (噴霧器の電気系統でアースに短絡している) 15 A ヒューズを点検する
エアポンプは作動するが何も排出されない	液体ポンプが停止しているかブライミングされていない 液体ポンプのチューブが破損している チューブがねじれているか損傷している 液体ポンプのモーターが故障している
何も排出されない	タンクカバーのベントが詰まっている チューブがねじれているか損傷している タンクのアウトレットストレーナが汚れているか詰まっている ニードルバルブが詰まっているか閉じている
ほとんど水しか出ない	チューブがねじれているか損傷している エアポンプが作動していない

トラブルシューティング

症状	点検
泡は出るが非常に水が多い	泡の濃度が低い チューブがねじれているか損傷している 硬水を使用している 液体の圧力が高すぎる エアポンプが作動していないか詰まっている
フォームの品質は良いが量が少ない	ニードルバルブを調整する
フォームが逆側から出る	左右のホースが逆に接続されているか、バルブに電力が供給されていない ソレノイドが固着または損傷している
フォームが両側から出る	ソレノイドが固着または損傷している
ブームウィングがフロートしない	ブレーンホイールのロックカラーが緩んでいる
ホイールが転がらない	潤滑する
ブームウィングが水平を維持できない	ブレーンホイールのロックカラーが緩んでいる
ホースリールから容易にホースが出る	テンションブレーキを調整する
ホースリールからホースが出にくい	テンションブレーキを調整する
ホースがリールに合わない	ホースを均一に巻く
ホースがリールからでない	ブレーキがロック位置になっている
輸送中にホースがリールから出る	ブレーキがロック解除の位置になっている
リールが巻き取らない	自動リセット回路ブレーキが作動している (噴霧器の電気系統でアースに短絡している) ソレノイドに問題がある 電気的問題がある
ブームウィングアクチュエータが作動しない	20 A 回路ブレーカを点検する

仕様

標準機器

HD200

噴霧器タンク容量	757 L (200 gal)
積荷重量 (総重量)	261 kg (576 lb)
噴霧器重量 (正味重量)	175 kg (386 lb)
噴霧器タンクの材質	ポリエチレン

HD300

噴霧器タンク容量	1136 L (300 gal)
積荷重量 (総重量)	286 kg (630 lb)
噴霧器重量 (正味重量)	195 kg (430 lb)
噴霧器タンクの材質	ポリエチレン

ブーム (5.5 m (18 ft))

ブーム重量	95 kg (210 lb)
ブーム高さ (ウイング上昇時)	228 cm (90 in)
ブーム幅 (ウイング上昇時)	180 cm (71 in)
ブーム幅 (ウイング下降時)	514 cm (203 in)

ブーム (4.6～6.4 m (15～21 ft))

ブーム重量	110 kg (243 lb)
ブーム高さ (ウイング上昇およびエクステンション折りたたみ時)	178 cm (70 in)
ブーム幅 (ウイング上昇およびエクステンション伸長時)	252 cm (99 in)
ブーム幅 (ウイング上昇時)	252 cm (99 in)
ブーム幅 (ウイング下降およびエクステンション折りたたみ時)	478 cm (188 in)
ブーム幅 (ウイング下降およびエクステンション伸長時)	615 cm (242 in)

ポンプ

渦巻	367 L/min (97 gal/min)
使用圧力	0.103～0.655 MPa (1.03～6.55 bar) (15～95 psi)
噴霧器全体、最大使用圧力	0.655 MPa (6.55 bar) (95 psi)

個人用洗淨水タンク

タンク容量	15 L (4 gal)
-------	--------------

オプション機器

フォームマーカー

タンク容量	15 L (4 gal)
平均フォーム吐出量	12.1 L/min (3.2 gal/min)
平均溶液使用量	18.1 L/hr (4.8 gal/h)
平均滴下間隔	7.7 秒
平均滴下距離、16 km/h (10 mph) 時	34.1 m (112 ft)

接地面ホイール

タイヤ空気圧	206 kPa (2.06 bar) (30 psi)
--------	-----------------------------

仕様

ホースリール

ホース径.....13 mm (1/2 in)
ホース長.....61 m (200 ft)

整備関連文書

この機械の部品カタログや技術マニュアルのコピーをお求めの場合は、次の連絡先にご連絡ください。

- **米国&カナダ**： 1-800-522-7448.
- **上記の国を除く全地域**： John Deere 取扱店。

部品

John Deere 取扱店から入手可能な John Deere の高品質部品および潤滑剤をお勧めします。

部品を注文される場合、John Deere 取扱店はお客様の機械やアタッチメントのシリアル番号や製品識別番号を必要とします。これらの番号は、このマニュアルの「製品識別」セクションに記録した番号です。

整備部品のオンライン注文

インターネット経由の部品の注文と情報については、<http://JDParts.deere.com> にアクセスしてください。

高品質な整備で John Deere 製品の高い品質を維持

お近くの John Deere 取扱店が提供する部品と整備サポートで製品の高い品質を維持できるよう、John Deere ではお客様のご質問や技術的な問題に対応するためのプロセスを提供しています。

お使いの製品に関して問題がある場合は、以下の手順でお問い合わせください。

1. アタッチメント、作業機または装置のオペレーターマニュアルをご確認ください。
2. 解決できない問題がある場合は、お近くの John Deere 取扱店にご連絡ください。
3. 北米またはカナダのお客様は、John Deere カスタマーコンタクトセンターにお電話ください。
 - 1-800-537-8233 にお電話のうえ、製品のシリアル番号と型番をお知らせください。

イ	
インラインストレーナ、整備	65
コ	
コントロールボックス、取り付け	18
ト	
トラブルシューティング表	78
フ	
ブームウイング、使用	53
ブーム高さ、調整	54
ラ	
ラベル、安全テキスト	6
ラベル、安全説明文なし	10
ワ	
ワイヤハーネス	
後部、接続解除	26
安	
安全ラベル、テキスト	6
安全ラベル、説明文なし	10
交	
交換部品	62, 82
仕	
仕様	
オプション機器	80
標準機器	80
自	
自動レートコントロール	
較正	45
構成	42
散布率、プログラミング	47
識	
識別番号、記録	4

